平成９年度

三重県埋蔵文化財年報

１９９８・５

三重県埋蔵文化財センター

はじめに

埋蔵文化財は、私たちの祖先がその時代を生きた証であり、また、当時の生活の有り様を今に伝える貴重な財産であります。しかし、近年の著しい開発事業の増加に伴い、数多くの埋蔵文化財が発掘調査され、そして消滅してゆきました。しかし一方で、発掘調査により発見された新たな事実は、歴史に対する認識、常識を立証するものであったり、また覆すものであったりして、私たちのロマンをなおいっそうかき立ててくれます。平成９年度も、県内各地で開催された現地説明会や展示会等を通じて多くの方々に歴史に対する興味を、また、埋蔵文化財保護に対するご理解を深めていただくことができたものと思っております。

この冊子は、三重県内で平成９年度に実施された各種の発掘調査と当埋蔵文化財センターの事業内容を簡単にまとめたものですが、今後の埋蔵文化財保護と活用の一助として、ご活用いただければ幸いに存じます。

埋蔵文化財を守り、伝えていくことは、次代への大きな課題でありますが、当埋蔵文化財センターでは、あらゆる機会を通して埋蔵文化財の保護・活用に務めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本冊子の作成にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成10年５月

三重県埋蔵文化財センター

所長　大　井　　與　生

例　　言

1．この冊子は、平成９年度における三重県内の発掘調査の概要と三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。

2．II．平成９年度緊急発掘調査については、平成９年度の三重県下における発掘調査の概要として、三重県埋蔵文化財センター担当の発掘調査成果および、県内市町村担当の発掘調査成果もあわせて収録した。なお、各遺跡の緊急発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。

3．本冊子の編集は、関係機関及び各位の協力を得て、資料普及グループ及び旧管理指導課が中心となって行った。

目　　次

I　組織及び業務体系 …… 1

II　平成９年度緊急発掘調査 …… 4
1．緊急発掘調査一覧 …… 4
2．発掘調査の概要 …… 8

III　埋蔵文化財保護体制の充実 …… 49
1．各種会議 …… 49
2．埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 50
3．埋蔵文化財保護等に関する指導・協力 …… 52

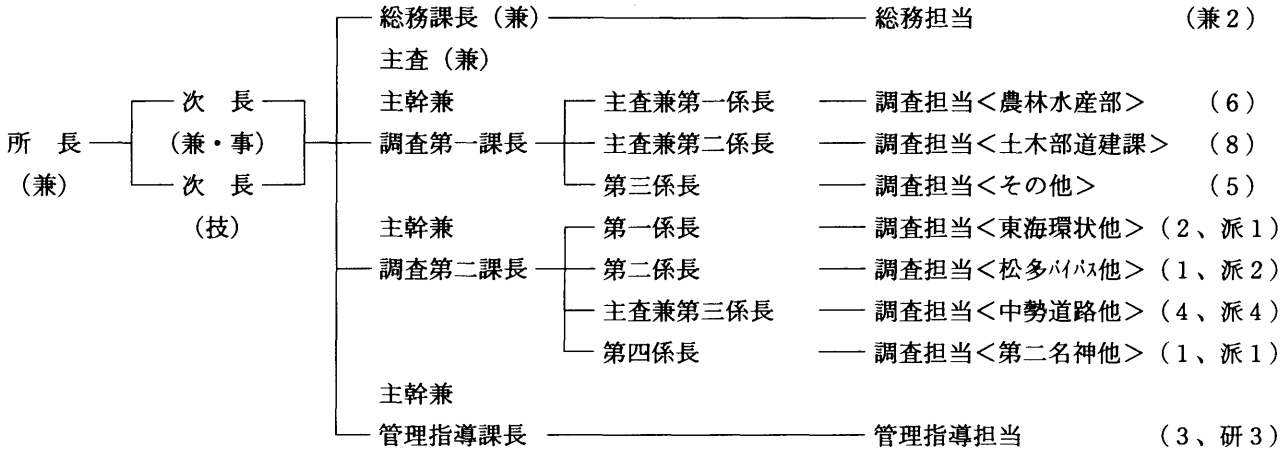
IV　資料の整理・保管・公開 …… 57
1．資料の整理・保管 …… 57
2．科学的保存処理 …… 57
3．資料の公開 …… 57
4．保管遺物等の貸出・写真等の掲載及び閲覧許可 …… 60
5．保管遺物の長期貸出 …… 62
6．斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧 …… 63

V　行政資料 …… 64
1．公共工事の実施と埋蔵文化財の保護に係わる連絡調整体制の整備について（通知） …… 64
2．出土品の取扱いについて（通知） …… 67
3．県、市町村別の発掘調査件数および面積の実績 …… 75

《付　編》
1．三重県文化財調査員名簿 …… 76

Ⅰ．組織及び業務体系

〔組　織〕



職員数　５７名　（兼務６名、専任４０名、派遣８名、研修３名）

〔分掌事務〕

総務課

1．公印の管理に関すること
2．職員の身分及び服務に関すること
3．予算及び経理に関すること
4．給与及び旅費等の支給に関すること
5．契約及び入札事務に関すること
6．施設、設備の保守管理に関すること
7．文書の収発に関すること
8．職員の健康、福利厚生に関すること
9．防災管理に関すること
10．その他他課に属さないこと

調査第一課

1．埋蔵文化財保護にかかる文化芸術課ならびに関係部局との連絡調整に関すること
2．県関係公共事業における埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること

調査第二課

1．一般国道475号東海環状自動車道に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
2．一般国道23号中勢道路に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
3．一般国道42号松阪多気バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
4．雲出川改修香良洲地区に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
5．近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神）に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
6．建設省、郵政省、日本道路公団との調整協議と事務処理に関すること

管理指導課

1．遺物収納倉庫の管理に関すること
2．整理済み出土品の収蔵及び保管に関すること
3．遺跡及び遺物の実測図・写真等の整理及び保管に関すること
4．関係図書等の整理及び保管に関すること
5．遺跡台帳、遺跡地図の整備及び保管に関すること
6．出土品の洗浄・注記・接合・復元及び実測等に関すること
7．出土品の科学的保存処理に関すること
8．埋蔵文化財展・埋蔵文化財発掘調査速報展に関すること

9．遺跡及び遺物等資料の貸出、掲載許可等に関すること

10. センター通信及び埋蔵文化財年報等の刊行に関すること

11. 埋蔵文化財行政調査等に関すること

12. 市町村の埋蔵文化財調査・文化財展等の指導及び協力に関すること

13. 埋蔵文化財発掘調査技術の研修に関すること

14. 埋蔵文化財センター内外の各種会議に関すること

〔職員〕

所　長　　奥村　敏夫　（斎宮歴史博物館館長兼務）

次　長（事務）中口　　孝　（斎宮歴史博物館次長兼務）

〃　（技術）山澤　義貴

総務課

課長　　広瀬　雅晴　（斎宮歴史博物館兼務）

主査　　中川　カツミ（　〃　）

主事　　尾崎　嘉春　（　〃　）

〃　　橋川　功　（　〃　）

調査第一課

課長　　吉水　康夫　（主幹兼）

第一係

係長　　清水　正明（主査兼）

主事　　北条　正則

〃　　西出　孝

〃　　中川　明

〃　　松葉　和也

技師　　大川　勝宏

〃　　川畑由紀子

第二係

係長　　前川　嘉宏（主査兼）

主事　　木野本和之

　　田中　久生

　　坂倉　一光

　　奥野　実

技師　　伊藤　裕偉

〃　　萩原　義彦

〃　　新名　強

〃　　水谷　豊

第三係

係長　　野原　宏司

主事　　松本　美先

〃　　山本　義浩

　　川瀬　聡

技師　　竹内　英昭

〃　　原田恵理子

調査第二課

課長　　山田　猛　（主幹兼）

第一係

係長　　森川　幸雄

主事　　片岡　博

技師　　杉崎　淳子

主事　　清水　弘之　（東員町から派遣）

第二係

係長　　森川　常厚

主事　　小濱　学

〃　　兼古　慎　（松阪市から派遣）

〃　　小山　憲一　（松阪市から派遣）

第三係

係長　　本堂　弘之（主査兼）

主事　　宮田　勝功

〃　　伊藤　裕之

技師　　西村　美幸

技師	水橋　公恵	
主事	池端　清行	（津市から派遣）
〃	筒井　昭仁	（鈴鹿市から派遣）
〃	斎藤　直樹	（香良洲町から派遣）
〃	米山　浩之	（津市から派遣）

第四係

係長	杉谷　政樹	
主事	服部　芳人	
主事	倉田　文美	（朝日町から派遣）

管理指導課

課長	新田　　洋	（主幹兼）
主事	竹田　憲治	
技師	穂積　裕昌	
〃	日栄　智子	
研修員	城　　吉基	
〃	杉本　寿範	
〃	津田　琢麻	

〔施設〕

三重県埋蔵文化財センター

所在地　多気郡明和町竹川503番地

TEL　0596-52-1732・3800

FAX　0596-52-7035

面積　敷地面積　18,000 ㎡

建築面積　4,537 ㎡

延床面積　5,077 ㎡

構造　鉄筋コンクリート造　1階（１部２階）建

（建物は斎宮歴史博物館と共用）

遺物収納倉庫

桜橋収納倉庫	津市桜橋２丁目126	TEL　059-227-2465
藤方収納倉庫	津市藤方2283-1	TEL　059-224-4560
上野収納倉庫	上野市丸之内117	TEL　0595-24-0079

現場整理所

国道475号東海環状自動車道整理所	員弁郡北勢町阿下喜字覚正垣内532-3 TEL　0594-72-2106　FAX　0594-72-7906
国道42号松阪・多気バイパス整理所	松阪市上川町登り立浦471-1 TEL　0598-29-4643　FAX　0598-29-4553
国道23号中勢道路整理所	津市納所町字西沢田481 TEL　059-229-2770　FAX　059-229-2771
近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神）整理所	四日市市伊坂町126－1 TEL　0593-66-2688　FAX　0593-66-2689
雲出川香良洲整理所	一志郡香良洲町25-22 TEL　059-292-2486　FAX　059-292-2487

II. 平成９年度緊急発掘調査

１．緊急発掘調査一覧

平成９年度、当埋蔵文化財センターが実施した発掘調査は140件、(135遺跡)86,868㎡（試掘調査を含む)、斎宮歴史博物館が4,155㎡、市町村教育委員会が実施した発掘調査は168遺跡 87,941㎡である。これらのほとんどは開発事業に伴う事前の緊急発掘調査であるが、遺跡の解明あるいは、保存整備のための調査も斎宮跡等で実施している。

県埋蔵文化財センター担当の緊急発掘調査

事業名		件数	調査面積（㎡）
県事業関係	県農林水産部関係	３７	２１，７０９
	県土木部関係	８１	３４，３８３
	その他	８	６，１９３
国・公団事業関係	近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神）建設関係	６	２，６３７
	一般国道475号東海環状自動車道建設関係	２	５，１１３
	一般国道23号中勢道路建設関係	３	９，９８８
	一般国道42号松阪・多気バイパス建設関係	１	３，５００
	その他	２	３，３４５
計		１４０	８６，８６８

※　同一遺跡を調査した場合でも、調査期間・原因が異なる場合には別件とした。

県（埋蔵文化財センター）担当分発掘調査（試掘調査・工事立会を除く。）　（※は国・県費補助事業）

No.	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担
1-1	上惣作遺跡（第３次）	員弁郡北勢町阿下喜	東海環状自動車道建設	建設省
1-2	上惣作遺跡（立会）	員弁郡北勢町阿下喜	北勢沿岸流域下水道建設	県土木部
2	川向遺跡隣接地（立会）	員弁郡北勢町瀬木	北勢沿岸流域下水道建設	県土木部
3	菰野城跡	三重郡菰野町菰野	国道改良	県土木部
4	下之宮遺跡　（立会）	四日市市下之宮町	工業用水道	県企業庁
5-1	石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（立会）	鈴鹿市石薬師町	消防学校施設整備	県環境安全部
6	北条畑田遺跡	鈴鹿市東庄内町	畜産経営環境整備	県農林水産部 県教育委員会※
7	安知本上田遺跡	亀山市安知本町	畜産経営環境整備	県農林水産部 県教育委員会※
8	下ノ垣内遺跡（立会）	亀山市阿野田町	道路交通安全対策	県土木部
9	窪田大垣内遺跡（第３次）・管ケ谷古墳群	津市大里窪田町	県道整備	県土木部
10	替田遺跡（Ｃ・Ｄ地区）	津市南河路町	中勢道路建設	建設省
11	弐ノ坪遺跡（Ａ・Ｂ・Ｃ地区）	津市野田	中勢道路建設	建設省
12-1	高茶屋大垣内遺跡（第３次）	津市城山	高茶屋病院整備	県健康福祉部
13	雲出島貫遺跡（第１次）	津市雲出島貫町	県道整備	県土木部
14	笹遺跡	一志郡一志町井生	土地改良	県農林水産部 県教育委員会※
15	天花寺北瀬古遺跡（第１次）	一志郡嬉野町天花寺	県道整備	県土木部
16	天花寺丘陵内遺跡群（第４次）	一志郡嬉野町天花寺	県道整備	県土木部
17	薬師寺北裏遺跡	一志郡嬉野町一志	県道整備	県土木部
18	田村西瀬古遺跡	一志郡嬉野町田村	県道整備	県土木部
19	上ノ庄北出遺跡	一志郡三雲町上ノ庄	県道整備	県土木部
20	宮ノ腰遺跡（Ｂ地区）	一志郡三雲町上ノ庄	県道整備	県土木部
21	小野江・甚目遺跡	一志郡三雲町甚目	県道整備	県土木部
22	前田町屋遺跡（第２次）	一志郡三雲町星合	県道整備	県土木部
23	大明神遺跡	一志郡三雲町星合	県道整備	県土木部
24	曽原堀ノ内遺跡	一志郡三雲町曽原	広域農道整備	県農林水産部
25	香良洲西山遺跡	一志郡香良洲町	雲出川改修	建設省
26	下之川富田遺跡	一志郡美杉村下之川	畜産経営環境整備	県農林水産部 県教育委員会※
27-1	堀町遺跡（第４次）	松阪市朝田町	松阪多気バイパス建設	建設省
28	中ノ川原遺跡（第２次）	松阪市八重田町	河川改修	県土木部
29-1	横地高畑遺跡	松阪市横地町	県営ほ場整備	県農林水産部 県教育委員会※
30	琵琶垣内遺跡	松阪市豊原町	県営ほ場整備	県農林水産部 県教育委員会※
31	長五郎林Ｂ遺跡（立会）	多気郡明和町有爾中	宮川用水改良	農林水産省

32	コドノＡ遺跡・コドノＢ遺跡（第１次）	多気郡明和町上村	県道整備	県土木部
33	花ノ木遺跡（第２次）	多気郡多気町牧	畜産経営環境整備	県農林水産部 県教育委員会※
34	縁通庵遺跡	多気郡勢和村片野	畜産経営環境整備	県農林水産部 県教育委員会※
35	鮠川西出Ｂ遺跡	度会郡度会町鮠川	ふるさと農道整備・県営ほ場整備	県農林水産部 県教育委員会※
36-1	久七屋敷遺跡	度会郡度会町五ケ町	中山間地域総合整備	県農林水産部 県教育委員会※
37-1	日向長通り遺跡	度会郡度会町日向	中山間地域総合整備	県農林水産部 県教育委員会※
38	田口西沖遺跡（立会）	度会郡度会町田口	道路交通安全対策	県土木部
39	道瀬遺跡（第１次）	北牟婁郡紀伊長島町道瀬	熊野灘臨海公園整備	県土木部
40	中出向遺跡（第２次）	名賀郡青山町羽根	県営ほ場整備	県農林水産部 県教育委員会※
41	伊勢路道筋遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県道整備	県土木部
42-1	六地蔵Ｃ遺跡	名賀郡青山町伊勢路	県道整備	県土木部

県（斎宮歴史博物館）担当分発掘調査

No.	43	斎宮跡	重要遺跡確認調査	斎宮歴史博物館	H9．4.14～H10．3.27	3,323㎡

調査次数	調査面積（㎡）	調査期間	地番・地籍	備考
118	950	H9．4.14～H9．7.23	明和町斎宮字内山3046－14～16	計画発掘調査
119	697	H9．7.30～H9.12.18	明和町斎宮字鍛冶山2740－3他	〃
120	805	H9．1.20～H10．3.27	明和町斎宮字西加座2711他	〃
121-1～4	843	H9.12．3～H10．2．7	明和町斎宮字宮ノ前・下園・御館　他	史跡整備に伴う発掘調査
122	28	H10．1．5～H10．1.14	明和町斎宮字鍛冶山2758－8	計画発掘調査

No.	43	斎宮跡	史跡現状変更	明和町	H9.12.16～H10．3.18	832㎡

調査次数	調査面積（㎡）	調査期間	地番・地籍	調査原因	調査機関
123-1	45	H9.12.16～12.25	明和町斎宮字中西地内	インターロッキング敷設	斎宮歴史博物館
123-2	188	H10．1.19～ 2．7	明和町斎宮字中西・笛川	水道管埋設	〃
123-3	50	H10．2．2～ 2．4	明和町竹川字牛葉地内	側溝敷設替	〃
123-4	55	H10．1.27～ 3.18	明和町斎宮字牛葉地内	側溝敷設替	〃
123-5	87	H10．2．1～ 2．2	明和町斎宮字刈干	新設側溝敷設	斎宮歴史博物館・明和町教育委員会
123-6	407	H10．2.23～ 3.18	明和町斎宮字塚山3337-1	資材置場の整地	斎宮歴史博物館

市町村担当分発掘調査（試掘調査・工事立会を除く。）

No.	遺跡名	所在地	調査原因	費用負担
44-1	桑部城跡（第４次）	桑名市桑部	個人住宅建設	※
44-2	桑部城跡（第５次）	桑名市桑部	市道建設	桑名市
45	天王平遺跡	桑名郡多度町小山	町道建設	多度町
46	茶臼山古墳群１号墳（第２次）	四日市市大字泊村	宅地造成	事業者
47	山奥遺跡（第５次）	四日市市羽津	一般国道１号北勢バイパス建設	建設省

48-1	公事出遺跡	四日市市西村町	ほ場整備	（土地改良区→）四日市市※
49	公事出古墳群 1号墳～6号墳	四日市市西村町	ほ場整備	（土地改良区→）四日市市※
50	山越知南遺跡	鈴鹿市郡山町	住宅建設	鈴鹿市※
51	天王遺跡（第3次）	鈴鹿市岸岡町	宅地開発	三重県労働者住宅生活協同組合
52	岸岡山Ⅲ遺跡	鈴鹿市岸岡町	公園整備	事業者
53	磐城山遺跡	鈴鹿市木田町	道路整備	鈴鹿市
54-1	南浦廃寺跡	鈴鹿市国分町	ビニールハウス建設	鈴鹿市
55-1	伊勢国分寺跡（史跡南）	鈴鹿市国分町	考古博物館建設	鈴鹿市
55-2	伊勢国分寺跡（外周道路）	鈴鹿市国分町	考古博物館建設	鈴鹿市
55-3	伊勢国分寺跡（史跡東）	鈴鹿市国分町	畑床下げ	鈴鹿市
56	国分東遺跡	鈴鹿市国分町	住宅建設	鈴鹿市※
57	国分南遺跡	鈴鹿市国分町	ビニールハウス建設	鈴鹿市
58	狐塚遺跡	鈴鹿市国分町	造成	鈴鹿市
59-1	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町	学術調査	鈴鹿市※
59-2	長者屋敷遺跡	鈴鹿市広瀬町	道路	鈴鹿市
60	長法寺遺跡	鈴鹿市長法寺町	福祉施設建設	事業者
61-1	末野B遺跡	鈴鹿市郡山町	宅地造成	事業者
62-1	一反通遺跡	鈴鹿市上野町	住宅建設	鈴鹿市
63-1	岡太神社遺跡	鈴鹿市岡田町	住宅建設	個人
64	中尾遺跡	鈴鹿市国府町	宅地造成	事業者
65	小野城跡	亀山市小野町	市道建設	亀山市
66-1	亀山城跡（西出丸外堀）	亀山市西丸町	駐車場建設	亀山市
66-2	亀山城本丸御殿跡	亀山市西丸町	市道改良	亀山市
67	野村一里塚遺跡 ・下野垣内遺跡	亀山市野村	街路整備	亀山市
68	中川原遺跡	亀山市天神	個人住宅建設	亀山市
69	山之下遺跡	亀山市布気町	市道整備事業	亀山市
70	宮ノ前遺跡	津市河辺町	市道改良	津市
71	専修寺境内遺跡	津市一身田	納骨堂建設	真宗高田派専修寺
72	石切山遺跡	津市高野尾町	農業基盤整備	高野尾里土地改良区※
73	内多馬場遺跡	安芸郡安濃町内多	携帯電話用無線局事業	ＮＴＴ東海移動通信網
74-1	赤坂遺跡	久居市木造町	一般農道整備	県農林水産部
75	貝蔵遺跡（第2次）	一志郡嬉野町中川	土地区画整理	中川駅周辺土地区画整理組合
76	五反田遺跡	一志郡嬉野町中川	土地区画整理	中川駅周辺土地区画整理組合
77-1	六反田遺跡	一志郡嬉野町中川	土地区画整理	中川駅周辺土地区画整理組合
78	黒田遺跡	一志郡嬉野町黒田	土地区画整理	黒田西部土地区画整理組合
79	北垣外遺跡・東野遺跡	一志郡嬉野町森本	町道建設	嬉野町
80-1	多気北畠氏遺跡 （北畠氏館跡）	一志郡美杉村上多気	学術調査	美杉村※
81	坊山3・2号墳（一部）	松阪市下村町	市道建設	松阪市
82	中の坊遺跡	松阪市目田町	学校プール建設	松阪市
83	下モ切遺跡	多気郡宮川村大井	個人住宅建設	宮川村
84	坂本古墳群（1～3号墳）	多気郡明和町坂本	農地拡張	明和町※
85	蓮台寺滝ノ口経塚	伊勢市勢田町	土砂採取	事業者
86	田丸城跡	度会郡玉城町田丸	石垣修復	玉城町
87	荘北遺跡	度会郡二見町荘	テニスコート整備	二見町
88	大西谷城跡	名張市西田原	国道改良	県土木部
89-1	旧崇廣堂（第5次）	上野市丸之内	史跡保存整備	上野市※
89-2	旧崇廣堂（第6次）	上野市丸之内	史跡保存整備	上野市※
90	国史跡上野城跡	上野市丸之内	史跡現状変更	㈶伊賀文化産業協会
91	御墓山窯跡（第3次）	上野市佐那具町	工業建設	㈱ミカサ金属工業
92-1	泥畑遺跡	上野市小田町	大型店舗建設	㈱チェーンストアオークワ
93	花代遺跡（B地区）	名賀郡青山町羽根	川上ダム取付け道路新設	川上ダム建設所
94	花代遺跡（A地区）	名賀郡青山町羽根	川上ダム取付け道路新設	川上ダム建設所
95	西法花寺遺跡	名賀郡青山町阿保	川上ダム取付け道路新設	川上ダム建設所
96	史跡　赤木城跡	南牟婁郡紀和町赤木	史跡保存整備	紀和町※

201 津　市
202 四日市市
203 伊勢市
204 松阪市
205 桑名市
206 上野市
207 鈴鹿市
208 名張市
209 尾鷲市
210 亀山市
211 鳥羽市
212 熊野市
213 久居市
301 多度町
302 長島町
303 木曽岬町
321 北勢町
322 員弁町
323 大安町
324 東員町
325 藤原町
341 菰野町
342 楠　町
343 朝日町
344 川越町
361 関　町
381 河芸町
382 芸濃町
383 美里村
384 安濃町
402 香良洲町
403 一志町
404 白山町
405 嬉野町
406 美杉村
407 三雲町
421 飯南町
422 飯高町
441 多気町
442 明和町
443 大台町
444 勢和村
445 宮川村
461 玉城町
462 二見町
463 小俣町
464 南勢町
465 南島町
466 大宮町
467 紀勢町
468 御薗村
469 大内山村
470 度会町
481 伊賀町
482 島ヶ原村
483 阿山町
484 大山田村
501 青山町
521 浜島町
522 大王町
523 志摩町
524 阿児町
525 磯部町
541 紀伊長島町
542 海山町
561 御浜町
562 紀宝町
563 紀和町
564 鵜殿村

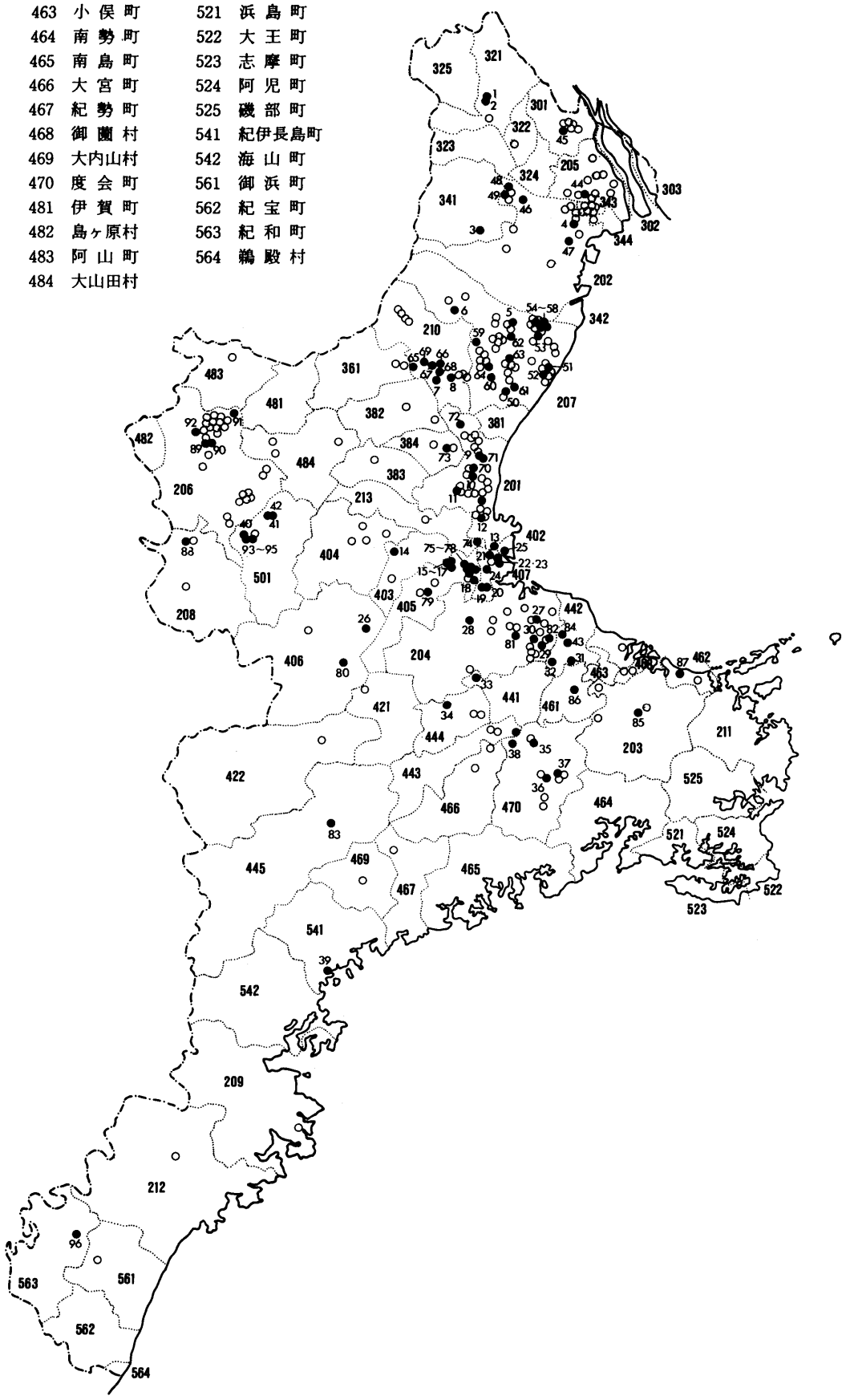


図1　平成9年度　三重県内発掘調査遺跡位置図

2 発掘調査の概要

注） 1 保護法関係文書番号は、文化財保護法第９８条の２第１項または５７条第１項に関する文書番号。

2 ※は国・県費補助事業

県（三重県埋蔵文化財センター）担当分 本調査・立会調査

No.	1－1	遺跡名	上惣作遺跡（第３次）			台帳番号	３２１－６９
所在地		員弁郡北勢町阿下喜字上惣作			事業主体	建設省中部地方建設局	
調査原因		一般国道 475号東海環状自動車道建設			費用負担	建設省	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	片岡 博　清水弘之　杉崎淳子	
調査期間		Ｈ９．４．21 ～Ｈ９．11．７	調査面積	5,000㎡(含下層600㎡)	保護法関係文書番号	平成９年５月９日付け 教文　第９９１号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
昨年度調査のＢ地区の更に南を調査。古墳時代初期の竪穴住居は員弁郡内初の発見。飛鳥時代の遺構は昨年度Ａ・Ｂ地区で発見された集落とつながると考えられる。中世の掘立柱建物５棟のうち１棟は南東隅土坑を伴っている。				縄文時代後期　埋設土器 古墳時代　竪穴住居１棟 飛鳥時代　竪穴住居３棟 掘立柱建物２棟 平安時代末～鎌倉時代 掘立柱建物１棟、土坑２基 中世 掘立柱建物４棟、土坑２基 時期不明 土坑１基、溝２条、暗渠基		縄文土器（後期） 古式土師器（元屋敷期） Ｓ字甕・壺・高杯・鉢・器台他 須恵器（杯） 土師器（皿・鍋・甕） 山茶椀、山皿 小片として 白磁・青磁	
関連文献		『一般国道475 号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ・Ⅲ』三重県埋蔵文化財センター 1996～1997					

No.	1－2	遺跡名	上惣作遺跡（立会調査）			台帳番号	３２１－６９
所在地		員弁郡北勢町阿下喜字上惣作			事業主体	県土木部下水道課	
調査原因		北勢沿岸流域下水道（員弁川幹線）建設			費用負担	県土木部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	野原宏司　清水弘之	
調査期間		Ｈ９．12．25 ～Ｈ10．２．16 随時	調査面積	94㎡	保護法関係文書番号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
国道306号線沿いで、平成７～９年度に東海環状自動車道建設に伴い調査した上惣作遺跡に隣接。約６ｍ×３ｍ以内の立坑範囲での調査であり遺構の性格は断定できないが、数基のピットや遺物を検出。上惣作遺跡の西側への広がりを示すものと考える。				ピット		須恵器壺 土師器甕 山茶椀	
関連文献		『一般国道475 号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ～Ⅳ』三重県埋蔵文化財センター 1996～1998					

No.	2	遺跡名	川向遺跡隣接地（立会調査）			台帳番号	未登録
所在地		員弁郡北勢町瀬木字上中川原ほか			事業主体	県土木部下水道課	
調査原因		北勢沿岸流域下水道（員弁川幹線）建設			費用負担	県土木部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	野原宏司　片岡 博	
調査期間		Ｈ９．11．28 ～Ｈ10．１．６ 随時	調査面積	45㎡	保護法関係文書番号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
川向遺跡の隣接地であり、遺構・遺物の存在が考えられたが、平成元年に行われた砂利採集のために道路盛土の下約６ｍ程は、広範囲にわたり土の入替えが行われていた。				なし		なし	
関連文献		『川向遺跡発掘調査報告』北勢町教育委員会 1993					

No.	3	遺跡名	菰野城跡			台帳番号	341－53
所在地		三重郡菰野町菰野字藩内				事業主体	県土木部道路建設課
調査原因		国道306号線四日市菰野バイパス国補道路改良事業				費用負担	県土木部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	川瀬　聡　杉崎淳子
調査期間		H10．1．12 ～H10．1．26	調査面積	1,100㎡		保護法関係文書番号	平成10年3月6日付け 教文　第2028号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
菰野藩主土方氏の居城跡。小学校敷地内に残る土塁と堀の調査を実施。堀として掘削した土を土塁として盛土。徳川幕府が衰退した明治元年に築かれたものである。				土塁 堀			
関連文献		『三重の近世城郭』三重県教育委員会 1984					

No.	4	遺跡名	下之宮遺跡（立会調査）			台帳番号	202－512
所在地		四日市市下之宮町				事業主体	企業庁工業用水道課
調査原因		北勢工業用水道第四期事業				費用負担	企業庁
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	服部芳人　野原宏司
調査期間		H9．6．14 ～H9．9．16	調査面積	246㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月25日付け 教文　第1244号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
市内北部を東流する朝明川下流右岸、標高5mの沖積地に立地する弥生時代～室町時代の遺跡。旧表土下の灰褐色粘質土層から山茶椀・灰釉陶器が出土。さらにその下層では弥生時代の自然流路と考える暗灰褐色粘質土の埋土を確認し、弥生時代中期の壺・甕等が含まれる。				弥生時代　自然流路		弥生土器　壺・甕 山茶椀	

No.	5－1	遺跡名	石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（立会調査）			台帳番号	未登録
所在地		鈴鹿市石薬師町字寺東				事業主体	県環境安全部消防防災課
調査原因		三重県消防学校施設・整備事業				費用負担	県環境安全部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	川瀬　聡　服部芳人
調査期間		H9．4．10	調査面積	66㎡		保護法関係文書番号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿川中下流の北岸、標高40mの丘陵に立地し、平成5年度からの発掘調査によって50基以上の古墳が存在することが判明。62号墳（方墳）の周溝の一部を検出し、須恵器・円筒埴輪・形象埴輪片が出土。				古墳時代　溝1条		須恵器片 円筒埴輪片 形象埴輪片	
関連文献		『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第5次）発掘調査概報』三重県埋蔵文化財センター 1997					

No.	6	遺跡名	北条畑田遺跡			台帳番号	未登録
所在地		鈴鹿市東庄内町北条				事業主体	県農林水産部農村振興課
調査原因		県営畜産経営環境整備事業（鈴亀地区・東庄内北条団地）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	坂倉一光　城　吉基
調査期間		H9．5．28 ～H9．6．27	調査面積	350㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月12日付け 教文　第1187号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿市の北西部、徳原台地上にあり、標高78m前後。鎌倉時代～室町時代の集落跡。山茶椀が多数出土。				中世 井戸1基、土坑4基、溝9条		山茶椀、山皿	

No.	7	遺跡名	安知本上田遺跡			台帳番号	未登録
所在地		亀山市安知本町字上田				事業主体	県農林水産部農村振興課
調査原因		県営畜産経営環境整備事業（鈴亀地区・安知本団地）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※
調査機関		三重県埋蔵文化財文化財センター				担当者	坂倉一光　城　吉基
調査期間		H９．５．６ ～H９．５．27	調査面積	600㎡		保護法関係文書番号	平成９年５月７日付け 教文　第９７０号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中ノ川中流の台地上に位置する。標高は35m程。中世のピットを多数確認したが建物等まとまるものはない。				中世　ピット多数		縄文土器、土師器甕（平安時代） 山茶椀	

No.	8	遺跡名	下ノ垣内遺跡（立会調査）			台帳番号	２１０－２９３
所在地		亀山市阿野田町				事業主体	県土木部道路維持課
調査原因		国道306号交通安全対策一種事業				費用負担	県土木部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	野原宏司
調査期間		H９．10．８	調査面積	48㎡		保護法関係文書番号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿川右岸、標高50m前後の河岸段丘に立地し、古墳時代から室町時代の遺物散布地。土坑１基と東西溝１条を検出。いずれも平安時代後期以降に埋没。				土坑１基、溝１条		土師器片、須恵器片、灰釉陶器片	

No.	9	遺跡名	窪田大垣内遺跡（第３次）・管ケ谷古墳群			台帳番号	201－ 813・436
所在地		津市大里窪田町字管ケ谷・平尾前				事業主体	県土木部道路建設課
調査原因		主要地方道津関線国補道路改良事業				費用負担	県土木部
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	大川勝宏　川崎志乃
調査期間		H９．５．６ ～H９．６．６	調査面積	900㎡		保護法関係文書番号	平成９年５月７日付け 教文　第９６７号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
大垣内遺跡については集落遺跡の縁辺部にあたり、調査地の大半は産廃を投棄するための攪乱を受けていた。管ケ谷古墳群は遺構は皆無で、崩落土内から形象埴輪片、円筒埴輪片等が出土。				鎌倉時代 土坑３基、溝１条		山茶椀、山皿、常滑壺 土師器鍋・羽釜、丸瓦、平瓦 形象埴輪片（鰭付埴輪？含む） 円筒埴輪片、須恵器類、寛永通宝	
関連文献		『窪田大垣内遺跡（第３次）・管ケ谷古墳群発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1997					

No.	１０	遺跡名	替田遺跡（C・D地区）			台帳番号	２０１－７５９
所在地		津市南河路町字替田				事業主体	建設省中部地方建設局
調査原因		一般国道23号中勢道路建設				費用負担	建設省
調査機関		三重県埋蔵文化財センター				担当者	水橋公恵　筒井昭仁　西村美幸
調査期間		H９．５．19 ～ H９．10．９ H９．11．20 ～ H10．１．13	調査面積	4,210㎡（下層含）		保護法関係文書番号	平成８年４月２日付け 教文　第１２９４号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
安濃川南岸の自然堤防上に立地。弥生時代中期～平安時代後期の遺構・遺物を確認。弥生時代中期の遺構は前年度調査のB地区と同時期のもので、遺構の広がりの北端を確認。古墳時代前期の自然流路からは古式土師器がまとまって出土。奈良時代後期の井戸は２基が重複。素掘りのものが、縦板横桟どめの井戸側をもつものを切る。平安時代後期の土坑からは、灰釉山茶椀・土師器と共に木製鞘が出土。				弥生中期　溝、土坑 弥生後期　溝 古墳前期　自然流路 古墳後期　溝 奈良後期　井戸 平安後期　掘立柱建物、井戸		弥生　弥生土器、石槍 石小刀、石鏃 古墳前期　古式土師器 古墳後期　土師器、須恵器 奈良後期　土師器 平安後期　木製鞘、土師器 黒色土器、灰釉陶器	
関連文献		『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X』三重県埋蔵文化財センター 1998					

No.	11	遺跡名	弐ノ坪遺跡（A・B・C地区）			台帳番号	201－76
所在地		津市野田字弐ノ坪ほか			事業主体	建設省中部地方建設局	
調査原因		一般国道23号中勢道路建設			費用負担	建設省	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		担当者	池端清行　水谷豊　西村美幸　米山浩之　宮田勝功		
調査期間		H9．5．7 ～H9．10．20	調査面積	5,100㎡	保護法関係文書番号	平成9年6月3日付け 教文　第1123号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
安濃川右岸の微高地上に立地。現況は標高5～7mの水田地帯。A地区では弥生時代中期の竪穴住居と土坑群及び現存の条里方向にのった平安時代の集落跡と溝を検出。B地区は微高地斜面に立地。遺構密度は希薄。C地区の調査は基本的に南北に長いトレンチ調査で、古墳時代及び鎌倉時代以降の溝、牛の足跡などを検出。牛の足跡を検出した層は植物腐食層で水田の可能性も残る。古墳時代前期の溝からはある程度の土器が出土しており、付近に集落の存在が想定される。	A地区　弥生時代中期 竪穴住居（焼失住居）1棟 土坑（墓？）10基、溝1条 平安時代 掘立柱建物　14棟 溝（道路遺構？）5条 B地区　平安時代以降　溝1条 時期不明　土坑1基、溝2条 C地区　古墳時代　溝3条 鎌倉時代以降 溝4条、牛の足跡	A地区　弥生土器（壺・甕・無頸壺） 石斧、石鏃、管玉 灰釉陶器（椀・ミニチュア長頸瓶） 土師器（杯・甕） 銭貨 B地区　弥生土器、須恵器、灰釉陶器 山茶椀 C地区　縄文土器（晩期） 古式土師器（壺・甕・高杯） 須恵器（杯身） 山茶椀、山皿

関連文献　『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X』三重県埋蔵文化財センター 1998

No.	12－1	遺跡名	高茶屋大垣内遺跡（第3次）			台帳番号	201－264
所在地		津市城山			事業主体	県健康福祉部県立病院課	
調査原因		県立高茶屋病院整備事業			費用負担	県健康福祉部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター		担当者	田中久生　北条正則　川畑由紀子　濱辺一機　石淵誠人		
調査期間		H9．4．10 ～H10．3．13	調査面積	5,280㎡	保護法関係文書番号	平成9年4月24日付け 教文　第865号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川左岸の高茶屋台地東端に位置する。遺跡は台地上を東流する天神川と相川により東西を区切られた地域に広がっているものと考えられる。古墳時代前期の竪穴住居、同後期の竪穴住居・土師器焼成坑、7世紀末～8世紀頃の竪穴住居・掘立柱建物などを検出。古墳時代後期の竪穴住居からは「土馬」頭部1点が出土。同時期の竪穴住居や土坑の中には土器製作用と思われる粘土の残るものもある。遺跡のほぼ中央のG調査区では、古墳時代前期の竪穴住居を検出。8世紀の土坑から「美濃」刻印須恵器無台杯身が出土。	竪穴住居　51棟以上 掘立柱建物　6棟 土師器焼成坑　9基	土馬3点 鏡形土製品1点 ミニチュア土器 土師器移動式竈・土管・台付甕 須恵器高杯・杯・壺 「美濃」刻印須恵器無台杯身

関連文献　『大垣内遺跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1981

No.	13	遺跡名	雲出島貫遺跡（第1次）			台帳番号	201－484
所在地		津市雲出島貫町字町中・藤本ほか			事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因		一般地方道嬉野津線国補橋梁整備事業			費用負担	県土木部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	伊藤裕偉　川崎志乃	
調査期間		H9．9．8 ～H9．12．22	調査面積	3,650㎡	保護法関係文書番号	平成10年1月13日付け 教文　第1870号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川が形成した沖積地に相当し、現況の標高は約2mの低地。遺構面を多い箇所で4面確認。時期的には縄文時代晩期・古墳時代前期・古墳時代後期・飛鳥～奈良時代・中世以降に大別。特に重要なのは、縄文時代晩期の土器棺墓、古墳時代前期の竪穴住居群と墳墓、飛鳥・奈良時代の大型掘立柱建物。各時期とも充実しており、出土遺物も多い。海運による物流が考慮される遺跡である。	縄文晩期　土器棺墓 古墳前期　方形墳2基 竪穴住居群、井戸 古墳後期　竪穴住居 飛鳥・奈良　掘立柱建物（大型） 平安　土坑 中世前期　溝 中世後期　掘立柱建物、溝 土坑	縄文晩期　二条突帯文深鉢 古墳前期　古式土師器、朱彩土器多い 布留式甕10個弱 北陸系高杯、北関東？甕 古墳後期　須恵器、土師器 飛鳥・奈良　須恵器、土師器 精製土器多い 平安　灰釉陶器 中世　土師器、陶器

関連文献　『安濃津』三重県埋蔵文化財センター 1997

No.	14	遺跡名	笹遺跡			台帳番号	403－20
所在地	一志郡一志町井生字笹				事業主体	県農林水産部農地整備課	
調査原因	県営土地改良総合整備事業（井生地区）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	中川　明	
調査期間	H9．11．10 ～H9．12．15	調査面積	410㎡		保護法関係文書番号	平成9年12月2日付け 教文　第1769号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
一志郡の西部、雲出川右岸の河岸段丘上に位置する。標高は平均で約32mである。遺跡が広がる段丘北端では黒ボク土が弥生時代の基盤を形成している。上層で鎌倉時代の掘立柱建物と溝を検出。下層検出の土坑からは弥生土器壺が出土。			弥生時代 土坑1基 鎌倉時代 掘立柱建物2棟、溝2条			弥生土器 壺（畿内Ⅲ様式） 土師器甕 瓦器椀 山茶椀	

No.	15	遺跡名	天花寺北瀬古遺跡（第1次）（旧称 北瀬古遺跡）			台帳番号	405－93
所在地	一志郡嬉野町天花寺字北瀬古・西山				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道松阪一志線緊急地方道整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	木野本和之 川畑由起子 大川勝宏 松葉和也 津田琢麻		
調査期間	H9．5．6 ～H9．10．29	調査面積	6,500㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月6日付け 教文　第953号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
中村川左岸の天花寺丘陵東麓に位置し、すぐ北には天花寺廃寺がある。下層の古墳時代以前の流路からは、大量の土器類を確認。出土遺物から見て、この流路では水辺の祭祀も行われていた模様。確認出来なかったが、集落はごく近辺に立地すると推定できる。流路は、遅くとも平安時代にはほぼ埋没したと推定される。鎌倉後期～室町時代は、集落が形成されていた。近世の用水路跡からは、護岸の石垣に転用された五輪塔を多数確認。			A地区 縄文～古墳時代　旧河道 B地区 縄文～古墳時代　旧河道 奈良時代　焼成坑 中世　溝、土坑、井戸 掘立柱建物、ピット 近世　灌漑用水路			縄文土器（晩期） 弥生土器（中期～後期） 古墳時代　土器類、双孔円盤 滑石製紡錘車 奈良時代　土器類、瓦など 中世　土器類、五輪塔、井戸 枠木製品など 近世　土器類、石臼など	
関連文献	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1996						

No.	16	遺跡名	天花寺丘陵内遺跡群（第4次）			台帳番号	405－90ほか
所在地	一志郡嬉野町天花寺				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	一般地方道天花寺一志嬉野インター線地方特定道路整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	原田恵理子　川瀬　聡	
調査期間	H9．5．6 ～H10．2．27	調査面積	3,500㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月6日付け 教文　第952号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
中村川左岸の丘陵上に立地。本遺跡は、当初天花寺城跡・小谷赤坂遺跡として調査を行ったが、調査の進展に伴い中世墓、礫石経埋納土坑などを含む多様な性格をもつことが明らかになった。そこで、今までの遺跡名に天花寺中世墓群、天華寺旧境内を付け加え、その総称を天花寺丘陵内遺跡群と改称する。			[小谷赤坂遺跡] 弥生時代後期　竪穴住居6棟			弥生土器 （絵画土器など）	
			[小谷37号墳] 古墳時代後期　円墳　径13m			須恵器	
			[天花寺中世墓群] 土坑墓15基程、火葬墓多数、 火葬施設1基			土師器（皿・鍋） 陶器（古瀬戸壺・常滑壺など） 刀、古銭、五輪塔など	
			[天花寺城跡] 溝				
			[天華寺旧境内] 江戸時代　礫石経埋納土坑48基 区画溝			礫石経 常滑大甕	
関連文献	『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1996 『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告（Ⅱ）』三重県埋蔵文化財センター 1997						

No.	17	遺跡名	薬師寺北裏遺跡			台帳番号	405－10
所在地	一志郡嬉野町一志				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道松阪一志線地方特定道路整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	川瀬　聡	
調査期間	H9. 10. 6 ～H9. 10. 28	調査面積	500㎡		保護法関係文書番号	平成9年10月31日付け 教文　第1659号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中村川左岸の低段丘および沖積地に立地。遺跡範囲の東端部分を調査。まとまった遺構は検出できず。流路跡には古墳時代終わり頃から中世の遺物が見られるが破片が多い。				流路跡		中世土師器（羽釜・鍋・皿）、山茶椀、灰釉陶器、土錘、青磁、軒丸瓦、平瓦、須恵器、土師器甕	

No.	18	遺跡名	田村西瀬古遺跡			台帳番号	未登録
所在地	一志郡嬉野町田村				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道松阪久居線緊急道路整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	萩原義彦　坂倉一光	
調査期間	H9. 9. 16 ～H10. 1. 30	調査面積	2,500㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月24日付け 教文　第1548号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
三渡川左岸の自然堤防上に位置し、調査時の標高は約3～4m。奈良時代の掘立柱建物は大規模な建物と考えられる。			弥生時代　方形周溝墓2基 奈良時代　掘立柱建物3棟 井戸1基、溝2条 溝、土坑多数 中世　中世墓3基 井戸5基 近世　溝、土坑多数			縄文時代　有茎尖頭器 弥生時代　弥生土器、土錘 古墳時代　円筒埴輪 奈良時代　須恵器、土師器 平安時代　灰釉陶器 中世　土師器小皿・鍋、山茶椀、山皿 近世　陶磁器、煙管	

No.	19	遺跡名	上ノ庄北出遺跡			台帳番号	未登録
所在地	一志郡三雲町上ノ庄字北出				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道松阪久居線緊急地方道路整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	山本義浩　杉本寿範	
調査期間	H9. 9. 8 ～H9. 12. 10	調査面積	2,100㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月24日付け 教文　第1550号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
掘坂山系に源を発する三渡川、岩内川、掘坂川などの小河川が形成した沖積平野に位置する。標高は概ね5m前後。古墳時代及び鎌倉時代の集落跡を検出。				古墳時代　溝1条、土坑2基 鎌倉時代　溝7条、土坑4基、 井戸1基、掘立柱建物1棟 南北朝以降　墓1基		弥生土器（受口状口縁甕） 土師器杯・壺・甕・鍋 ロクロ土師器、山茶椀、山皿 白磁、小刀、木製井戸枠	

No.	20	遺跡名	宮ノ腰遺跡（B地区）			台帳番号	未登録
所在地	一志郡三雲町上ノ庄字宮ノ腰				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道松阪久居線緊急道路整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	水谷　豊　西出　孝	
調査期間	H9. 9. 8 ～H9. 12. 10	調査面積	1,700㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月24日付け 教文　第1546号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
岩内川・堀坂川などの堀坂山山系から流れ出た小河川によって形成された沖積地に位置し、調査前の標高は約5m。井戸からは花押の墨書された山茶椀や刀等が出土。当地域に在ったとされる荘園との関連が考えられる。				鎌倉時代　掘立柱建物4棟、 井戸4基、溝、土坑		弥生時代　壺、高杯 鎌倉時代　土師器皿・鍋、山茶椀 山皿、常滑産大甕 磁器片、銭貨	
関連文献	『宮ノ腰遺跡発掘調査報告Ⅰ』三重県埋蔵文化財センター 1996						

No.	21	遺跡名	小野江・甚目遺跡（旧称 小野江南浦遺跡）			台帳番号	未登録
所在地	一志郡三雲町甚目字南浦～小野江				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	一般地方道嬉野津線雲出橋国補橋梁整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	大川勝宏　古川　毅	
調査期間	H9．11．4 ～H10．2．12	調査面積	1,800㎡		保護法関係文書番号	平成9年11月25日付け 教文　第1742号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
雲出川右岸から約500m南の標高2m～3mの沖積低地に立地。特筆されるのは、5世紀後半～6世紀初頭の2基の古墳で、多量の埴輪片が出土。1号墳出土埴輪には馬形埴輪、家形埴輪片、朝顔形埴輪片などが含まれる。雲出川の氾濫による洪水砂層、古墳時代以降の地震痕跡（噴砂）も検出。			古墳時代 円墳？2基、掘立柱建物1棟 土坑1基 鎌倉時代 溝6条、旧河道			弥生土器片 土師器高杯・壺・甕片 須恵器杯・器台・壺・甕片 山茶椀、山皿 土師器皿・鍋	

No.	22	遺跡名	前田町屋遺跡（第2次）			台帳番号	未登録
所在地	一志郡三雲町星合字前田・町屋				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	一般地方道三雲香良洲線香良洲大橋国補橋梁整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	新名　強　城　吉基	
調査期間	H9．10．6 ～H10．2．13	調査面積	1,600㎡		保護法関係文書番号	平成9年11月25日付け 教文　第1743号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
雲出川の河口近く、標高2m程度の砂堆上に位置する。平成8年度の第1次調査では古墳が1基確認された。古墳時代初頭の古墳を3基確認、周溝から底部穿孔二重口縁部壺などが出土。奈良～平安時代の須恵器や墨書土器、志摩式製塩土器も多数出土し、周辺の神宮領との関わりが注目される。また、鎌倉時代～室町時代の山茶椀や鍋も多量に出土。			古墳時代初頭　古墳3基 奈良時代　土坑 鎌倉～室町時代　土坑多数			弥生時代　壺 古墳時代　二重口縁壺 奈良～平安時代　土師器高杯 須恵器杯身 志摩式製塩土器 鎌倉～室町時代　山茶椀、鍋	

No.	23	遺跡名	大明神遺跡			台帳番号	未登録
所在地	一志郡三雲町星合字大明神				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	一般地方道三雲香良洲線香良洲大橋国補橋梁整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	新名　強　城　吉基	
調査期間	H9．10．6 ～H10．2．13	調査面積	1,400㎡		保護法関係文書番号	平成9年11月25日付け 教文　第1743号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
雲出川の右岸、前田町屋遺跡の南約300mの砂堆上に位置し、標高は2m程度。古墳時代～鎌倉時代の集落跡を検出。古墳時代後期～奈良時代の掘立柱建物2棟、建物と方向を同じくする溝を確認。遺構面下層からは、縄文時代後期～晩期の土器や弥生時代前期の土器も出土。			古墳時代後期　竪穴住居1棟 古墳時代後期～奈良時代 掘立柱建物2棟、溝1条 鎌倉時代　井戸1基 時代不明　溝5条			縄文土器（後期～晩期） 弥生土器高杯 山茶椀	

No.	24	遺跡名	曽原堀ノ内遺跡			台帳番号	未登録
所在地	一志郡三雲町曽原字堀ノ内				事業主体	県農林水産部農村振興課	
調査原因	広域営農団地農道整備事業（中勢三期地区）				費用負担	県農林水産部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	清水正明	
調査期間	H9．10．6 ～H9．10．9	調査面積	200㎡		保護法関係文書番号	平成10年1月26日付け 教文　第1894号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
碧川と三渡川に挟まれた沖積平野上に所在。平安～鎌倉時代にかけての遺物が出土。			ピット			土師器鍋・皿	

No.	25	遺跡名	香良洲西山遺跡			台帳番号	402－2
所在地	一志郡香良洲町字西ノ宮他				事業主体	建設省中部地方建設局	
調査原因	雲出川改修香良洲地区（築堤）				費用負担	建設省	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	伊藤裕之　斎藤直樹	
調査期間	H9．5．22 ～H9．12．19	調査面積	2,745㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月23日付け 教文　第1231号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川が形成した標高0.6 ～2.0mほどの沖積地に立地。調査区のほとんどは川の氾濫原であったと考えられる。古墳時代には埋まったと考えられる旧流路が1条検出された。また、標高2.0 mほどの部分も12世紀以降に雲出川の氾濫によって堆積したものと考えられる。本遺跡は調査区北側の「字西山」及び調査区東側の「字地家」の微高地に形成された遺跡の縁辺部と考えられる。	土坑 溝 井戸（近代）	弥生土器 土師器 須恵器 陶器（山茶椀）

関連文献	『一志郡史 下巻』一志郡町村会 1955 、『香良洲町史』香良洲町教育委員会 1993

No.	26	遺跡名	下之川富田遺跡			台帳番号	406－11
所在地	一志郡美杉村下之川字富田				事業主体	県農林水産部農芸畜産課	
調査原因	県営畜産経営環境整備事業（一志地区・三谷工区）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	伊藤裕偉　新名 強　杉本寿範	
調査期間	H9．5．6 ～H9．7．16	調査面積	2,800㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月9日付け 教文　第989号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川の支流の八手俣川が形成した河岸段丘上に立地。標高約215 mで、現況は水田として利用されていた。縄文時代から近世までの遺構・遺物を確認。中心は7・8世紀。竪穴住居を中心とした集落跡で、同時期の土壙墓も伴う。竪穴住居跡はカマドの残りが非常に良いものである。この他に、弥生時代前期の遠賀川式土器が条痕文系土器と共伴して出土したことも注目できる。	弥生前期 小流路 飛鳥～奈良 竪穴住居13棟以上、掘立柱建物、土壙墓 室町～戦国期 石組土坑、ピット	縄文後～晩期　土器類 弥生前期　土器類　石鏃 遠賀川式土器と条痕文系土器の共伴 弥生後期～古墳前期 土器類 飛鳥～奈良　土師器・須恵器 平安　灰釉・緑釉陶器 中世　土師器・陶器 火打ち鎌など

No.	27－1	遺跡名	堀町遺跡（第4次）			台帳番号	204－646
所在地	松阪市朝田町字堀町				事業主体	建設省中部地方建設局	
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設				費用負担	建設省	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	小浜　学　兼古　慎	
調査期間	H9．5．6 ～H9．12．10	調査面積	3,500㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月9日付け 教文　第992号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
朝田町堀町に位置し、櫛田川下流域に広がる沖積平野の微高地上に立地。今回は最終年度の第4次調査区になり、平成7年度の第2次調査区と平成8年度の第3次調査区の中間のところを調査。弥生時代後期、奈良・平安・鎌倉・室町の各時代の遺構を多数検出。弥生後期の環濠の続きの一部や同時期の土坑から、壺・高杯・甕などがほぼ完全な形で出土。	弥生時代後期 環濠、土坑4基 奈良時代 掘立柱建物2棟 平安時代 土坑3基、溝1条、井戸1基、掘立柱建物3棟 鎌倉時代 土坑5基、墓1基、溝2条 室町時代 土坑3基	弥生土器（壺・甕・高坏・器台・鉢・甑・ミニチュア土器・紡錘車など） 土師器　（甕・鍋・杯・皿） 須恵器　（杯） 緑釉陶器（小壺） 山茶椀 木製品　（井戸枠など）

関連文献	『一般国道42号松阪・多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅷ』三重県埋蔵文化財センター 1998

No.	28	遺跡名	中ノ川原遺跡（第2次）			台帳番号	未登録
所在地	松阪市八重田町字中ノ川原・福丸				事業主体	県土木部河川課	
調査原因	二級河川堀坂川小規模河川改修工事				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	松葉和也　萩原義彦	
調査期間	H9．5．6 ～H9．6．27	調査面積	1,400㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月9日付け 教文　第987号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
本遺跡は堀坂川等が形成した扇状地上、標高30mの堀坂川右岸に立地。調査区の大半が堀坂川旧河道。東旧河道からは11世紀初めころまでの遺物が、西旧河道からは13世紀以降の遺物が出土。12世紀を中心とした時期に流れを変えたものと思われる。他の遺構は自然の溝と数個のピットである。			古墳～平安　東旧河道 鎌倉～近世　西旧河道、溝		縄文中期　土器類 弥生　土器 古墳～奈良　須恵器、土師器、瓦 平安　土師器、緑釉陶器 中世　土師器、陶器		

No.	29－1	遺跡名	横地高畑遺跡			台帳番号	204－351
所在地	松阪市横地町字高畑				事業主体	県農林水産部農地整備課	
調査原因	県営ほ場整備事業（漕代地区）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	中川　明　津田琢麻	
調査期間	H9．5．6 ～H9．9．10	調査面積	1,700㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月7日付け 教文　第969号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
松阪市の南東部、櫛田川右岸の自然堤防上に位置する。当遺跡は周辺の水田より一段高い微高地で標高が約13m。弥生時代末からの流路、方墳、さらに中世の掘立柱建物、関連の石組井戸溝を確認。			弥生　溝1条 古墳　方墳1基 奈良　竪穴住居1棟 鎌倉～室町　掘立柱建物3棟 井戸1基、溝2条		弥生土器（壺） 土師器　（甕・壺・高杯） 須恵器　（壺・甕） 土師器杯（墨書） 灰釉陶器椀、山茶椀、耳環、鉄鎌		
関連文献	『古川遺跡・山口遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1996						

No.	30	遺跡名	琵琶垣内遺跡（旧称 閑浄寺遺跡）			台帳番号	204－756
所在地	松阪市豊原町字琵琶垣内・肥留場				事業主体	県農林水産部農地整備課	
調査原因	県営ほ場整備事業（櫛田上地区）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	奥野　実　中川　明	
調査期間	H9．9．16 ～H9．10．31	調査面積	600㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月24日付け 教文　第1546号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
櫛田川下流左岸の沖積平野上に立地。昭和62年調査区の東方を調査。住居跡などの遺構は検出されなかったが、弥生時代以降の流路跡2条、弥生・古墳時代の流路跡2条を検出。			溝7条、土坑1基		弥生土器（壺・甕） 土師器（杯・椀・甕・高杯・甑・二重口縁壺） 須恵器（杯身・杯蓋）		
関連文献	『閑浄寺遺跡発掘調査現地説明会資料』三重県教育委員会 1987						

No.	31	遺跡名	長五郎林B遺跡（立会調査）			台帳番号	未登録
所在地	多気郡明和町有爾中字長五郎林・片落			事業主体	東海農政局宮川用水第2期農業水利事業所		
調査原因	国営宮川用水第2期土地改良事業				費用負担	農林水産省	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	森川常厚　小山憲一	
調査期間	H9．11．5 ～H9．11．14	調査面積	600㎡		保護法関係文書番号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
明和団地の南西に位置する山林の谷筋に所在。周囲には、古墳群や、遺物包含地が密集。協議の結果、工法等の変更により、当遺跡は現状保存されることになった。			焼成坑2基、土坑12基 掘立柱建物1棟、溝1条 ピット多数　など		古式土師器 土師器 須恵器		

No.	32	遺跡名	コドノA遺跡 ・ コドノB遺跡（第1次）			台帳番号	442－166・167
所在地		多気郡明和町上村字コドノ			事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因		一般地方道多気停車場斉明線緊急地方道路整備事業			費用負担	県土木部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	西出 孝　奥野 実	
調査期間	H9．6．2 ～H9．9．8	調査面積	コドノA上層1,100㎡・下層700㎡ コドノB 700㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月4日付け 教文 第1140号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本遺跡は、櫛田川の支流である祓川の右岸段丘端部に位置し、標高は約19m程。本年度は、コドノA遺跡と東に隣接するコドノB遺跡の一部について調査を実施。 コドノA遺跡では、上層で奈良時代の掘立柱建物・竪穴住居・柱列などの遺構が検出されたが、遺物には多くの縄文晩期の土器が混じり、また、上層調査終了後の下層調査においては、合計300個程の旧石器・フレイクが出土。 コドノB遺跡は、遺構・遺物ともにコドノA遺跡に比べ少なかったが、飛鳥～平安時代初めの雨落ち溝を伴う掘立柱建物、南伊勢地方では最古と思われる方形周溝墓2基等が検出された。	コドノA遺跡 掘立柱建物1棟 竪穴住居1棟 柱列、溝6条、土坑 コドノB遺跡 方形周溝墓2基 掘立柱建物2棟 柱列、溝8条、土坑	コドノA遺跡下層 旧石器　ナイフ形石器 石核、フレイク コドノA遺跡上層 縄文晩期　土器、土偶 石鏃、石匙 石斧、フレイク 弥生　土器、石包丁 古墳～奈良　土師器、須恵器 中世　土師器 コドノB遺跡 縄文晩期　土器、フレイク 弥生　土器 古墳～奈良　土師器、須恵器 中世　土師器

No.	33	遺跡名	花ノ木遺跡（第2次）			台帳番号	441－124
所在地		多気郡多気町牧字花ノ木			事業主体	県農林水産部農芸畜産課	
調査原因		県営畜産経営環境整備事業(多気勢和地区・北牧団地)			費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	清水正明	
調査期間	H9．8．21 ～H9．8．22	調査面積	135㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月10日付け 教文 第1492号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
櫛田川と北牧集落との間にある低位河岸段丘上にあり、すぐ西側は伊勢自動車道建設に伴って昭和60年に発掘調査されている。縄文後期の遺物や中世の遺物が出土。	ピット	縄文土器 土師器皿

関連文献	『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告第1分冊1』三重県教育委員会 1989

No.	34	遺跡名	縁通庵遺跡			台帳番号	444－24
所在地		多気郡勢和村片野字縁通庵			事業主体	県農林水産部農芸畜産課	
調査原因		県営畜産経営環境整備事業(多気勢和地区・縁通庵団地)			費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	松葉和也　津田琢麻	
調査期間	H9．9．18 ～H9．10．30	調査面積	上層 600 ㎡ 下層 400 ㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月24日付け 教文 第1547号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
櫛田川が形成した河岸段丘上、標高67mの右岸に立地。この地域は県内でも少ない縄文時代前期の遺物が採集されてきた。 調査例の少ない縄文前期の竪穴住居かと思われる土坑を検出。この遺構からは北白川下層Ⅱ・Ⅲ式を中心とした土器、石器が多数出土。この他、関東の十三菩提式土器も出土しており、興味深い。中世では掘立柱建物、区画溝と思われる遺構が見つかった。	縄文前期　竪穴住居？ 中世　掘立柱建物 溝、土坑	縄文前期 北白川下層式土器 十三菩提式土器 石鏃、石匙、石錐、石斧など 中世 土師器、陶器、磁器

No.	35	遺跡名	鮠川西出Ｂ遺跡（第１次）（旧称 里Ａ遺跡）			台帳番号	470－91
所在地		度会郡度会町鮠川字西出			事業主体	県農林水産部農地整備課・農村振興課	
調査原因		県営ほ場整備事業（中川地区）			費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
		県営ふるさと農道整備事業（度会北部地区）				県農林水産部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	西村美幸　山本義浩　奥野　実	
調査期間		Ｈ９．５．５ ～Ｈ９．７．31	調査面積	2,200㎡	保護法関係文書番号	平成９年５月26日付け 教文　第１０８８号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川中流左岸の河岸段丘上に立地。調査区は南北方向の傾斜地で、比高差が３ｍ。旧石器時代の遺物と、鎌倉時代、室町時代中葉～安土桃山時代の遺構・遺物を検出。室町時代中葉の掘立柱建物２棟は、建て替えによるものと考えられる。近くに井戸があることから、屋敷地の範囲が推定できる。	鎌倉時代 土坑 室町時代中期～ 掘立柱建物、井戸、溝、土坑	旧石器時代　剥片、石核 鎌倉～室町時代 土師器（南伊勢系） 陶器（瀬戸・美濃系中心） 磁器（中国産）

関連文献	『鮠川西出Ｂ遺跡（第１次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1998

No.	36－1	遺跡名	久七屋敷遺跡（旧称 ゼ屋敷遺跡）			台帳番号	未登録
所在地		度会郡度会町五ケ町字久七屋敷			事業主体	県農林水産部農村振興課	
調査原因		県営中山間地域総合整備事業（小川郷上地区）			費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	奥野　実　松本美先	
調査期間		Ｈ９．11．17 ～Ｈ10．１．14	調査面積	1,500㎡	保護法関係文書番号	平成９年12月２日付け 教文　第１７６８号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川の支流一之瀬川左岸の河岸段丘上に立地。室町時代の掘立柱建物２棟を確認。	掘立柱建物２棟	土師器鍋・皿、陶器椀

関連文献	『一之瀬川流域の遺跡』皇学館大学考古学研究会 1996

No.	37－1	遺跡名	日向長通り遺跡（旧称 日向遺跡）（立会調査）			台帳番号	未登録
所在地		度会郡度会町日向字長通り			事業主体	県農林水産部農村振興課	
調査原因		県営中山間地域総合整備事業（小川郷上地区）			費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	奥野　実　松本美先	
調査期間		Ｈ10．１．７ ～Ｈ10．１．14	調査面積	300㎡	保護法関係文書番号	平成10年２月23日付け 教文　第１９７６号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川の支流一之瀬川左岸の河岸段丘に立地。標高は50ｍ程度で現況は水田。遺構・遺物とも少ない。検出された土坑内に石が並ぶ。	室町時代　土坑１基	土師器小皿・鍋

関連文献	『一之瀬川流域の遺跡』皇学館大学考古学研究会 1996

No.	38	遺跡名	田口西沖遺跡（立会調査）			台帳番号	未登録
所在地		度会郡度会町田口			事業主体	県土木部道路維持課	
調査原因		主要地方道伊勢大宮線交通安全対策一種事業			費用負担	県土木部	
調査機関		三重県埋蔵文化財センター			担当者	野原宏司	
調査期間		Ｈ９．10．13	調査面積	136㎡	保護法関係文書番号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川中流域右岸の標高48ｍ前後の河岸段丘に立地。	鎌倉時代　土坑６基	土師器皿、陶器片口鉢、山茶椀

No.	39	遺跡名	道瀬遺跡（第1次）			台帳番号	541－12
所在地	北牟婁郡紀伊長島町道瀬字新田				事業主体	県土木部都市住宅整備課	
調査原因	熊野灘臨海都市公園整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	大川勝宏　萩原義彦	
調査期間	H9．6．30 ～H9．8．4	調査面積	700㎡		保護法関係文書番号	平成9年7月2日付け 教文　第1274号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
丸山島、鈴島等を沖に望む海岸の砂堆上に立地。海水から粗塩を作る工程の遺跡と考えられるが、平安時代後半から鎌倉時代にかけて当地は木本御厨の影響下にあったとされ、ここでの製塩も伊勢神宮と強く結びついたものとみられる。	平安時代末～鎌倉時代前半 製塩炉2基 野外炉1基 ピット2個	製塩用土製平釜、山茶椀、山皿 弥生土器壺片、礫石器 土師器片（甕・台付甕・高杯） 須恵器（杯・器台片・甕・壺片）

No.	40	遺跡名	中出向遺跡（第2次）			台帳番号	501－242
所在地	名賀郡青山町羽根				事業主体	県農林水産部農地整備課	
調査原因	県営ほ場整備事業（羽根地区）				費用負担	県農林水産部・県教育委員会※	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター			担当者	松本美先　竹内英昭　濱辺一機　古川毅		
調査期間	H9．5．6 ～H9．11．7	調査面積	7,600㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月7日付け 教文　第968号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
羽根集落から前深瀬川を挟んで対岸に位置する。前深瀬川の自然堤防上に古墳時代後期を中心とした集落跡を確認。当遺跡南側の丘陵一帯には、古墳時代後期の古墳群が存在し、集落と墳墓の関係をうかがう上でも興味深い。	古墳時代　竪穴住居跡70基以上 土坑、掘立柱建物 奈良時代　竪穴住居跡、土坑 平安～鎌倉時代 掘立柱建物、土坑 土壙墓、溝	縄文時代（早期）　縄文土器、ｻﾇｶｲﾄ片、石鏃、石剣 古墳時代　須恵器、土師器、ミニチュア土器、紡錘車 製塩土器、フイゴ羽口、鉄滓 奈良時代以降　須恵器、土師器、緑釉陶器、白磁、瓦器 山茶椀、陶器、製塩土器、鉄滓　ほか

No.	41	遺跡名	伊勢路道筋遺跡			台帳番号	未登録
所在地	名賀郡青山町伊勢路字高寺				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道伊賀青山線緊急地方道整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	坂倉一光　新名強	
調査期間	H9．7．14 ～H9．9．4	調査面積	300㎡		保護法関係文書番号	平成9年7月28日付け 教文　第1545号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
青山川南岸の扇状地上に位置し、六地蔵C遺跡はこの川を挟んで対岸である。また、初瀬街道沿いの微高地でもある。鎌倉時代の集落跡を確認。六地蔵C遺跡に比べ、青磁が多く出土。奈良時代の長胴甕も出土。	奈良時代　土坑 鎌倉時代　掘立柱建物1棟 溝2条、土坑多数 ピット多数	須恵器 土師器 瓦器椀・皿 青磁

関連文献	『六地蔵A遺跡・六地蔵B遺跡・高塚宅跡・東川遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1994

No.	42－1	遺跡名	六地蔵C遺跡			台帳番号	501－227
所在地	名賀郡青山町伊勢路字六地蔵				事業主体	県土木部道路建設課	
調査原因	主要地方道伊賀青山線緊急地方道整備事業				費用負担	県土木部	
調査機関	三重県埋蔵文化財センター				担当者	坂倉一光　新名強	
調査期間	H9．7．14 ～H9．9．4	調査面積	750㎡		保護法関係文書番号	平成9年7月28日付け 教文　第1545号	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
青山川と木津川の合流する付近の扇状地内に位置し、標高は228m程度。かつては初瀬街道がこの付近を通った。	鎌倉時代　溝7条、土坑多数 ピット多数	須恵器、瓦器椀・皿、青磁

関連文献	『六地蔵A遺跡・六地蔵B遺跡・高塚宅跡・東川遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1994

県（斎宮歴史博物館）担当分　本調査

No.	43－1	遺跡名	斎宮跡　第１１８次調査（６ＡＤＮ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字内山3046-14～16			事業主体	三重県教育委員会		
調査原因	計画発掘調査			費用負担	国※・県		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	大川　操　角正芳浩		
調査期間	Ｈ９．４．14 ～Ｈ９．７．23	調査面積	950㎡	保護法関係文書番号	平成９年４月８日付け 委保　第４－２６５号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
近鉄斎宮駅北側における調査は、平成３年度の第93次調査に始まり、平成４年度の第95次調査、平成５年度の第99次調査と行われ、第95次調査と第99次調査の間の畑地のみ未調査であった。 両隣の調査成果から平安時代後期以降の掘立柱建物が数多く建て替えられていたことが判明したが、今回の調査では平安時代前半期に遡るとみられる掘立柱建物も検出し、この建物群の中には方格地割の方位にほぼ合わせているものも見受けられ、これらの建物について区画道路との詳細な検討を要する。	奈良時代後期 竪穴住居５棟 平安時代前期～後・末期 掘立柱建物30棟以上 土坑	土師器 （杯・皿・鍋・甑） 緑釉陶器片

関連文献	史跡斎宮跡第１１８次発掘調査（内山地区）現地説明会資料

No.	43－2	遺跡名	斎宮跡　第１１９次調査（６ＡＦＭ－ＥＧ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字鍛冶山2740-3他			事業主体	三重県教育委員会		
調査原因	計画発掘調査			費用負担	国※・県		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	角正芳浩　上村安生		
調査期間	Ｈ９．７．30 ～Ｈ９．12．18	調査面積	697㎡	保護法関係文書番号	平成９年８月26日付け 委保　第４－６５０号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
史跡東部には奈良時代後期から平安時代前半期に方格地割が存在したと考えられるが、今回の調査はそのほぼ中心部、内院が想定される地区（鍛冶山西ブロック）で実施した。 調査の結果、鍵字型に配置された奈良時代末期～平安時代前Ⅱ期の掘立柱建物14棟の他、柵列・井戸などを検出した。 ６×４間の掘立柱建物は南北に庇を伴い、柱間10尺を測る。方形の井戸は１辺約４ｍで、約５ｍ掘り下げた地点から、井戸枠の部材が出土した。 また、土器を廃棄したと考えられる土坑が少ないことから、この地区が公的な空間であったことが想定される。	弥生時代 竪穴住居、方形周溝墓か？ 奈良時代末期～平安時代初期 掘立柱建物１棟 井戸１基、柵列１条 平安時代初期～平安時代前Ⅱ期 掘立柱建物13棟 柵列１条、土坑２基	土師器 須恵器 製塩土器 土錘 緑釉陶器 灰釉陶器 鉄製品

No.	43－3	遺跡名	斎宮跡　第１２０次調査（６ＡＦＩ－ＣＥ，６ＡＦＧ－Ｒ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字西加座2711他			事業主体	三重県教育委員会		
調査原因	計画発掘調査			費用負担	国※・県		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	上村安生　石淵誠人		
調査期間	H10．１．20 ～H10．３．27	調査面積	805㎡	保護法関係文書番号	平成10年２月16日付け 委保　第４－８４号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
今回の調査は、西加座地区の西加座南ブロックで行った。方格地割においてこのブロックを区画する北の道路の南北側溝と、東の道路の西側溝を検出した。北の道路の南北側溝は心々で約12mである。また、北側溝は、南北道路を横切っていることも確認した。さらに、溝は何回かの掘り返しが行われていた。 この溝の存続していた時期に該当する平安時代初期の掘立柱建物３棟を検出した。このうち桁行５間×梁行２間の東西棟建物は梁行・桁行とも柱間は 2.4mで柱掘形は１ｍほどの方形である。また、建物はこれまでの傾向と同じく、溝から８ｍ～12m離れて建っていることが確認された。	掘立柱建物14棟 平安時代初　期３棟 前Ⅰ期４棟 前Ⅱ期３棟 中　期３棟 土坑６基 奈良時代後　期１基 平安時代初　期１基 前Ⅱ期４基 方格地割の区画溝３条 奈良時代後期～平安時代初期	土師器 （杯・椀・皿・甕） 須恵器（杯・皿・甕） 灰釉陶器（椀・皿） 緑釉陶器（椀・皿） 製塩土器 風字硯（須恵器）

No.	43－4	遺跡名	斎宮跡　第１２１－１～４次調査（６ＢＪＤ他）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字宮ノ前・下園・御館　他			事業主体	三重県教育委員会		
調査原因	史跡整備に伴う発掘調査			費用負担	国※・県		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	大川　操　石淵誠人		
調査期間	Ｈ９．12．３ ～Ｈ10．２．７	調査面積	843㎡	保護法関係文書番号	平成９年12月３日付け 委保　第４－９９８号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
第121-1・2次調査区は、宮ノ前北・下園ブロックの北辺の境界に位置する。第121-1次調査では南北側溝の心々間4.5m、第121-2次調査では東西側溝の心々間5mの区画道路を確認。第121-3・4次調査区では、共に粘土採掘等による削平を受け、遺構を確認することはできなかった。				平安時代末期～鎌倉時代初頭 溝４条 井戸１基		土師器皿・鍋 山茶椀	

No.	43－5	遺跡名	斎宮跡　第１２２次調査（６ＡＦＮ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字鍛冶山2758-8			事業主体	三重県教育委員会		
調査原因	計画発掘調査			費用負担	国※・県		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	駒田利治		
調査期間	Ｈ10．１．５ ～Ｈ10．１．14	調査面積	28㎡	保護法関係文書番号	平成10年２月16日付け 委保　第４－３４号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
調査区の北部分を中心に水道配管による攪乱が認められたが、斎宮跡の方格地割「鍛冶山西ブロック」の内郭を構成すると推定されている南北方向の柵列SA7150及びSA7170の柱穴と考えられるピットをそれぞれ１個確認した。今回の調査により、内郭柵列SA7150は、この地点では東に折れず更に直進することが判明した。また、SA7170もSA7150に後出し南北方向に延びることが確認された。ともに平安時代初期と考えられる。				柵列SA7150・SA7170		土師器細片	

No.	43－6	遺跡名	斎宮跡　第１２３－１次調査（６ＡＦＱ－Ａ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字中西地内			事業主体	明和町教育委員会		
調査原因	インターロッキング敷設工事			費用負担	国※・県・町		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	上村安生		
調査期間	Ｈ９．12．16 ～Ｈ９．12．25	調査面積	45㎡	保護法関係文書番号	平成９年12月15日付け 教文　第５３－４８号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
旧参宮街道沿いに東西約10.5m、南北約４mの調査区を設定して調査を行った。遺構面までの深さは西で約50cm、東で約60cmであった。各所に既設排水管やU字溝の工事に伴う攪乱がみられた。遺構は調査区の西端で鍵の手に曲がる溝を検出した。この溝は現在の道の方向（旧参宮街道）と一致しており、その性格が注目される。溝の最下層から、16世紀代の土師器鍋・羽釜が出土している。				16世紀～17世紀の遺構 溝２条 土坑１基		16世紀～17世紀の遺物 土師器 （皿・鍋・羽釜） 天目茶椀 全体で整理箱３箱と少ない	

No.	43－7	遺跡名	斎宮跡　第１２３－２次調査（６ＡＦＮ他）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字中西・笛川			事業主体	明和町教育委員会		
調査原因	水道管埋設			費用負担	国※・県・町		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	大川　操		
調査期間	Ｈ10．１．19 ～Ｈ10．２．７	調査面積	188㎡	保護法関係文書番号	平成９年12月２日付け 教文　第５３－４５号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
老朽水道管の布設替工事に伴う調査である。旧参宮街道に埋設された旧ＮＴＴケーブルの掘削時に現況路面から深さ約140cm ほど既に攪乱されており、その際既に地山面直上まで達しているため、遺物包含層の残存は極わずかしかみられず、遺構・遺物ともみられなかった。							

No.	43－8	遺跡名	斎宮跡　第１２３－３次調査（６ＡＤＰ－Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｌ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字牛葉地内			事業主体	明和町教育委員会		
調査原因	側溝敷設替			費用負担	国※・県・町		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	角正芳浩		
調査期間	Ｈ10．２．２ ～Ｈ10．２．４	調査面積	50㎡	保護法関係文書番号	平成９年10月９日付け 委保　第４－９３７号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
昨年度の第117-3 次調査に引き続き、近鉄斎宮駅南側の住宅密集地域において既設側溝の改修工事に伴い実施された。調査の結果、近年に掘削されたと思われる溝を確認できたのみである。				溝		土師器 須恵器 山茶椀	

No.	43－９	遺跡名	斎宮跡　第１２３－４次調査（６ＡＤＱ－Ａ・Ｂ・Ｃ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字牛葉地内			事業主体	明和町教育委員会		
調査原因	側溝敷設替			費用負担	国※・県・町		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	角正芳浩		
調査期間	Ｈ10．１．27 ～Ｈ10．３．18	調査面積	55㎡	保護法関係文書番号	平成10年２月16日付け 委保　第４－４７号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
近鉄斎宮駅東側の住宅密集地域において側溝の新設工事に伴い実施された。これまでに周辺で小規模な調査が実施されており、溝や土坑の存在が確認されている。調査区東端に、区画溝の検出が予想される。				平安時代後Ⅰ期 掘立柱建物１棟 平安時代後Ⅱ期 溝４条		土師器杯 灰釉陶器 山茶椀	

No.	43－10	遺跡名	斎宮跡　第１２３－５次調査			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字刈干			事業主体	明和町教育委員会		
調査原因	新設側溝敷設			費用負担	明和町		
調査機関	明和町教育委員会・斎宮歴史博物館			担当者	中野敦夫　石淵誠人		
調査期間	Ｈ10．２．１ ～Ｈ10．２．２	調査面積	87㎡	保護法関係文書番号	平成10年１月13日付け 委保　第４－１０６３号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
史跡北東部にある斎王集落内を南北に走る町道内に新設する側溝工事に伴う緊急発掘調査である。当該工事区間（延長110m）のほぼ中央が史跡の境界となっているが、今回は関連性もあり史跡外である北側56mも含めて調査を行った。調査は、工事の掘削範囲である幅80cm、延長110mのトレンチで、遺構面までの深さは道路面から30cm～50cmである。検出した遺構は、史跡北側を走る鎌倉大溝のほか溝・柱穴・土坑がある。				鎌倉大溝１条 柱穴 土坑３基 溝５条		奈良時代 土師器甕・高杯 平安時代 灰釉陶器碗 鎌倉時代 土師器鍋・皿	

No.	43－11	遺跡名	斎宮跡　第１２３－６次調査（６ＡＣＣ－Ｉ）			台帳番号	４４２－２１０
所在地	多気郡明和町斎宮字塚山3337-1			事業主体	明和町教育委員会		
調査原因	資材置場の整地			費用負担	国※・県・町		
調査機関	斎宮歴史博物館			担当者	駒田利治		
調査期間	Ｈ10．２．23 ～Ｈ10．３．18	調査面積	407㎡	保護法関係文書番号	平成９年12月11日付け 委保　第４－９９９号		
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
史跡北西部の博物館東部の「歴史の道」沿いで実施した。これまでの調査で、今回の調査区の北側を鎌倉時代の大溝が東西方向に流れることや、周辺で円形或いは方形の周溝が確認されている。 調査区は最近の盛土が約60cmなされておりその下層に、旧耕作土・黒色粘質土（黒ボク）の堆積が見られ、遺構の確認はその下層で標高10.4mほどの黄褐色粘土層で行った。調査の結果、奈良時代の竪穴住居２棟、室町時代の土坑１基のほか、時期が特定できない円形周溝１基・溝４条が検出された。				奈良時代 竪穴住居２棟 室町時代 土坑１基		奈良時代 土師器、須恵器 室町時代 土師器	

市町村担当分　本調査

No.	44－1	遺跡名	桑部城跡（第4次）			台帳番号	205－122
所在地	桑名市桑部字城下			事業主体	個人		
調査原因	個人住宅の建設			費用負担	※		
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤　理　平野亜紀		
調査期間	H9．6．25 ～H9．7．18	調査面積	325㎡	保護法関係文書番号	平成9年7月10日付け 教文　第1538号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
主郭の西側の腰曲輪を調査。平坦面は地山を削平した部分と、盛土によって構築された部分が判明。遺物は戦国期のもののほかに近世のものも多数出土。 特筆されることに平安通宝の出土がある。これは全国で4例目であり、その流通域に関しての新知見となろう。			郭 柱穴		瀬戸美濃大窯製品 土師器皿・羽釜 近世瀬戸美濃陶磁器 肥前磁器 いぶし瓦 銭		
関連文献	『桑部城跡第4次発掘調査報告書』						

No.	44－2	遺跡名	桑部城跡（第5次）			台帳番号	205－122
所在地	桑名市桑部字城下			事業主体	桑名市		
調査原因	市道桑部播磨線建設工事			費用負担	桑名市		
調査機関	桑名市教育委員会			担当者	斉藤　理　水谷芳春　平野亜紀		
調査期間	H9．7．22 ～H10．3．31	調査面積	5,000㎡	保護法関係文書番号	平成7年5月15日付け 教文　第1244号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
主郭の西側の腰曲輪を調査。地山を削平して平坦面を構築しており、縁辺部には棚列とも考えられる柱穴を検出。遺物は戦国期の瀬戸美濃陶器を中心に、常滑甕、土師器皿・羽釜等が多数出土。			郭 土坑 柱穴		弥生土器 土師器皿・羽釜 瀬戸美濃大窯製品 常滑甕 近世瀬戸美濃陶磁器		
関連文献	『桑部城跡第5次発掘調査概要報告書』						

No.	45	遺跡名	天王平遺跡			台帳番号	301－24
所在地	桑名郡多度町小山字尾津平			事業主体	多度町		
調査原因	町道建設			費用負担	多度町		
調査機関	多度町教育委員会			担当者	加藤真琴		
調査期間	H9．6．23 ～H9．10．13	調査面積	1,025㎡	保護法関係文書番号	平成9年6月26日付け 教文　第1234号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
遺跡の中央部、標高25m付近を南北に4m幅で調査を行った。遺構は少なく、過去に県教委が調査を実施した県道に隣接する部分で竪穴住居や土坑などを検出。			竪穴住居 溝 土壙墓		奈良時代末～平安時代 須恵器 土師器 灰釉陶器		
関連文献	『天王平遺跡発掘調査報告Ⅰ』三重県教育委員会 1982 他						

No.	46	遺跡名	茶臼山古墳群1号墳（第2次）			台帳番号	202－185
所在地	四日市市泊村字盆ノ井738-12　他12筆				事業主体	事業者	
調査原因	宅地造成				費用負担	事業者	
調査機関	四日市市遺跡調査会				担当者	葛山拓也　佐々木裕	
調査期間	H9．4．7 ～H9．4．18	調査面積	369㎡		保護法関係文書番号	平成9年4月15日付け 教文　第795号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
標高約30mの泊丘陵先端部に立地。平成7年度の4号墳発掘調査で淡輪系埴輪・馬形埴輪等が出土。1号墳は墳丘の大半が削平されており、周溝から推定すると径約25.5mの造り出し付き円墳であったと思われる。造り出しと円墳の接点付近では、長径36cm・短径30cmの土坑が検出され円筒埴輪が完形のまま正立した状態で埋納されていた。出土した須恵器はTK23型式に相当し5世紀後半に築造されたと考えられる。			円墳 造り出し部 周溝 円筒埴輪埋納土坑			須恵器（蓋杯・樽形𤭯・脚付四連杯等） 円筒埴輪 朝顔形埴輪 人物形埴輪	
関連文献	『四日市市遺跡調査会文化財調査報告書XVI　茶臼山古墳群』四日市市遺跡調査会 1996						

No.	47	遺跡名	山奥遺跡（第5次）			台帳番号	202－84
所在地	四日市市羽津字山ノ奥・大矢知町字鳩浦				事業主体	建設省中部地方建設局	
調査原因	一般国道1号北勢バイパス建設				費用負担	建設省中部地方建設局	
調査機関	四日市市教育委員会				担当者	泉雄二　清水政宏　寺本智康	
調査期間	H9．5．19 ～H9．10．28	調査面積	2,140㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月28日付け 教文　第1014号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
標高20～30mの垂坂丘陵先端部に立地。過去4次の調査と合わせると、弥生時代後期81棟・古墳時代前期1棟・古墳時代後期27棟の竪穴住居を確認したことになる。住居の大半は一辺5～6mであるが、弥生時代後期の住居の中には長辺9.8mの長さをもつものが見られ、北勢では最大級の規模である。			弥生時代後期 竪穴住居16棟 土坑 溝 古墳時代前期 竪穴住居1棟 古墳時代後期 竪穴住居9棟 土坑			弥生時代後期 弥生土器（無頸壺・朱塗り長頸壺・受口状口縁甕等） 古墳時代前期 土師器（S字状口縁甕） 古墳時代後期 須恵器（蓋杯・高杯等） 土師器（長胴甕・椀等） 平安時代 灰釉陶器（短頸壺・長頸壺・Ⅲ）	
関連文献	『一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ』四日市市教育委員会 1998						

No.	48－1	遺跡名	公事出遺跡			台帳番号	202－502
所在地	四日市市西村町字公事出				事業主体	上条土地改良区	
調査原因	ほ場整備事業				費用負担	（土地改良区→）四日市市※	
調査機関	四日市市教育委員会				担当者	葛西拓也　佐々木裕	
調査期間	H9．8．7 ～H9．12．1	調査面積	500㎡		保護法関係文書番号	平成9年8月18日付け 教文　第1019－2号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
幅2mのトレンチ調査のため、個々の遺構については不明な点が多い。飛鳥時代の集落は、近くの公事出古墳群とほぼ同時期と推定される。竪穴住居のカマドは両袖に石を用いている。平安時代の遺構は今回明確ではないが、近くに集落跡が存在したと考えられる。			飛鳥時代 竪穴住居8基 掘立柱建物か2棟 溝 土坑 平安時代 廃棄土坑			縄文時代 縄文土器（深鉢） 有茎尖頭器 飛鳥時代 須恵器（蓋杯・杯・高杯・甕等） 土師器（杯・長胴甕等） 奈良時代 須恵器（杯・壺等） 平安時代 灰釉陶器（椀・瓶・Ⅲ） 土師器（甕）	
関連文献	『四日市市文化財保護年報7』四日市市教育委員会 1996						

No.	49	遺跡名	公事出古墳群 1号墳～6号墳			台帳番号	202－546･572～576
所在地	四日市市西村町字東浦			事業主体	上条土地改良区		
調査原因	ほ場整備事業			費用負担	（土地改良区→）四日市市※		
調査機関	四日市市教育委員会			担当者	葛西拓也　佐々木裕		
調査期間	H9．8．7 ～H9．12．1	調査面積	800㎡	保護法関係文書番号	平成9年8月18日付け 教文　第1019号		

遺跡の概要

墳丘は大半削平されているが、6基の古墳と中世以降の溝を検出した。古墳群は7世紀半ば～後半の築造で、近くの公事出遺跡（集落）の墓域と考えられる。

古墳名	墳形	規模(m)	主体部（全長×最大幅m）	出土遺物	備考
1号墳	円墳	径 7.3	横穴式石室(2.71 ×0.73) 疑似両袖型、河原石積み	須恵器（杯・高杯） 土師器（甕）	梱石の痕跡あり
2号墳	方墳か	一辺 5.2か	横穴式石室(－×－) 形態不明、河原石積み	須恵器（フラスコ形長頸瓶） 土師器（杯）	棺台石、梱石の痕跡あり、残存状態悪い
3号墳	方墳	一辺 6.4か	横穴式石室(2.98 ×0.98) 疑似両袖型、河原石積み	刀子1本	閉塞石、梱石
4号墳	方墳	一辺 7.1か	横穴式石室(－×－) 形態不明、河原石積み		残存状態悪い
5号墳	円墳	径 9.0	横穴式石室(4.47 ×1.06) 疑似両袖型、河原石積み	須恵器（高杯・平瓶・フラスコ形長頸瓶）	閉塞石、梱石、棺台石、やや胴張り
6号墳	方墳か	一辺 4.9か	横穴式石室(－×－) 形態不明	須恵器（短頸壺）	残存状態悪い

関連文献　『四日市市文化財保護年報7』四日市市教育委員会　1996

No.	50	遺跡名	山越知南遺跡			台帳番号	207－587
所在地	鈴鹿市郡山町字西脇			事業主体	個人		
調査原因	住宅			費用負担	鈴鹿市※		
調査機関	鈴鹿市教育委員会			担当者	新田　剛		
調査期間	H9．5．23 ～H9．6．11	調査面積	67㎡	保護法関係文書番号	平成9年6月10日付け 教文　第1182号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中の川右岸の台地上に位置する。奈良時代の土壙は2×4m程の不整形のものである。ナイフ形石器や剥片は遊離遺物として出土した。剥片には黒曜石製のものもある。	弥生時代 土壙 奈良時代 土壙、ピット、溝	ナイフ形石器、剥片 弥生土器片 土師器、須恵器 鞴羽口

No.	51	遺跡名	天王遺跡（第3次）			台帳番号	207－873
所在地	鈴鹿市岸岡町字天王3132-24 外			事業主体	三重県労働者住宅生活協同組合		
調査原因	宅地開発			費用負担	三重県労働者住宅生活協同組合		
調査機関	鈴鹿市教育委員会			担当者	杉立正徳　藤原秀樹		
調査期間	H9．4．4 ～H9．8．11	調査面積	4,980㎡	保護法関係文書番号	平成9年6月23日付け 教文　第1229号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川右岸の沖積平野上に位置する。主な遺構として、運河と考えられる大溝、掘立柱建物群がある。掘立柱建物群は東に面して「コ」字型に配置されており、火災焼失の後に同じ場所で建て替えられている。官衙的な性格を有する建物群であったと考えられる。	古墳時代後期～奈良時代初頭 大溝 飛鳥時代 竪穴住居、溝、土坑 飛鳥時代～奈良時代 掘立柱建物、溝、土坑 時期不明 井戸	古墳時代 須恵器、土師器 石製紡錘車 飛鳥時代 須恵器、土師器 奈良時代 須恵器、土師器、土錘 中世　山茶椀、青磁

No.	52	遺跡名	岸岡山Ⅲ遺跡			台帳番号	207－889
所在地	鈴鹿市岸岡町字見当山2615 外				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	公園整備				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	藤原秀樹	
調査期間	H9．5．28 ～H9．9．30	調査面積	1,000㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月10日付け 教文　第1181号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
海岸近くの独立丘陵上の集落遺跡。調査は丘陵北西斜面で行った。検出遺構は弥生後期～末期の竪穴住居34棟である。大型竪穴ＳＢ07からは水晶原石や荒割加工されたものが出土し、集落内で水晶の玉造りが行われていた可能性が高い。			竪穴住居34棟			弥生土器 水晶原石、軽石 土玉	

No.	53	遺跡名	磐城山遺跡			台帳番号	207－16
所在地	鈴鹿市木田町字上條				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	道路整備事業				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	杉立正徳	
調査期間	H9．9．12 ～H10．2．23	調査面積	3,000㎡		保護法関係文書番号	平成9年10月23日付け 教文　第1632号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
鈴鹿川左岸の丘陵上に位置する。弥生時代後期から近世に至る遺構が検出されたが、その中心は弥生時代後期と古墳時代後期初頭にある。弥生時代後期の集落は環濠、竪穴住居、掘立柱建物から形成され、環濠内から大量の土器が出土。古墳時代後期の竪穴住居、掘立柱建物もまとまって検出。			弥生時代後期 溝、竪穴住居 掘立柱建物、土坑 古墳時代後期 溝、竪穴住居 掘立柱建物、土坑 奈良時代 溝、掘立柱建物 平安時代 溝、掘立柱建物 鎌倉時代 溝、土坑 室町時代 溝、土坑			弥生時代 壺、甕、高杯、水晶 低石、軽石 古墳時代 須恵器（杯身、𤭯、甕） 土師器、埴輪 奈良時代 須恵器（杯身、甕） 土師器 平安時代 灰釉陶器 鎌倉時代 山茶椀 室町時代 羽釜 江戸時代 陶器、瓦、寛永通宝	

No.	54－1	遺跡名	南浦廃寺跡			台帳番号	207－362
所在地	鈴鹿市国分町 1393 ・ 1394				事業主体	個人	
調査原因	ビニールハウス建設				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸	
調査期間	H9．6．17 ～H9．8．16	調査面積	830㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月21日付け 教文　第1062号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
豪族「大鹿氏」の氏寺として建立されたと考えられる南浦廃寺の推定寺域の北西部にあたる。 調査地全面にわたって、少なくとも15棟以上の大型掘立柱建物が複雑に重複して検出された。15棟は同時期に存在したものではなく4時期以上に分けることができる。建物はほぼ正方位に建てられており、棟通り、側柱・妻柱の柱筋をそろえている建物が多く計画的に建てられていることが分かる。			掘立柱建物 土坑 溝			瓦 鴟尾 土師器 須恵器 山茶椀	

No.	55－1	遺跡名	伊勢国分寺跡（史跡南）			台帳番号	２０７－３６１
所在地	鈴鹿市国分町 132-3.132-4.229.230				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	考古博物館建設				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸	
調査期間	Ｈ９．３．７ ～Ｈ９．４．25	調査面積	650㎡		保護法関係文書番号	平成９年４月28日付け 教文　第８９７号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
史跡「伊勢国分寺跡」の南に接する調査区である。国分寺の推定南門跡の正面をさえぎるように東西列の棚列が検出された。調査区外に延びるため、全体の規模は不明だが、柱間が1.9m等間で８間以上ある。南門の建設時、改築時、または廃絶時の足場穴ではないかと考えている。			柱穴 溝 土坑 棚列		瓦 山茶椀 土師器 須恵器		

No.	55－２	遺跡名	伊勢国分寺跡（外周道路）			台帳番号	２０７－３６１
所在地	鈴鹿市国分町 132-7.140-1				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	考古博物館建設				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸	
調査期間	Ｈ９．９．18 ～Ｈ９．12．４	調査面積	680㎡		保護法関係文書番号	平成９年９月25日付け 教文　第１５５７号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
平成６年度に調査を行った河曲郡衙正倉群のうち、ＳＢ35・36・37の南側柱列の未検出部分を調査した結果、３棟の規模が判明した。 ＳＢ35・36は当初推定されていた３間×４間ではなく、４間×４間の大型倉庫であることが確認された。またＳＢ35から９ｍ東に、新たにもう一棟倉庫が存在することが判明し正倉群は計　棟分検出された。またこれにより、今まで「匚」字状に建ち並んでいると思われる正倉群であるが「□」字状に立ち並ぶ可能性も考える必要が出てきた。			竪穴住居 道路状遺構 掘立柱建物 柱穴 溝 土坑		瓦 土師器 須恵器 山茶椀		
関連文献	『伊勢国分寺跡・国府跡３』						

No.	55－３	遺跡名	伊勢国分寺跡（史跡東）			台帳番号	２０７－３６１
所在地	鈴鹿市国分町 280.281-1.281-2.282				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	畑床下げ				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸	
調査期間	Ｈ９．９．29 ～Ｈ10．２．14	調査面積	3,000 ㎡		保護法関係文書番号	平成９年10月17日付け 教文　第１６１６号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
史跡「伊勢国分寺跡」の東に接する調査区である。中世墓から、青磁椀・皿、水晶玉(数珠)、青白磁の小壺が出土。 古墳は５ｍ×５ｍの方墳で墳丘部は削平されているため周溝しか残っていない。周溝の東南隅から出土した平瓶から７世紀前半の時期が考えられる。また柱穴の一つから竈の土製支脚が出土。			古墳 中世墓 掘立柱建物 溝 土坑 柱穴		青磁椀 青磁皿 瓦 山茶椀 土師器 須恵器 土製支脚 水晶玉(数珠) 小壺 平瓶 緑釉陶器		

No.	56	遺跡名	国分東遺跡			台帳番号	207－539
所在地	鈴鹿市国分町東浦				事業主体	個人	
調査原因	住宅				費用負担	鈴鹿市 ※	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	新田　剛	
調査期間	H9．9．25 ～H9．10．9	調査面積	167㎡		保護法関係文書番号	平成9年10月17日付け 教文　第1617号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
鈴鹿川左岸の台地上に位置する。掘立柱建物には掘方が80～100 cmにも及ぶものがあるが、大部分は調査区外。建物、溝ともに正方位に近いものが目立つ。			奈良～平安 掘立柱建物、土壙、溝			土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦	

No.	57	遺跡名	国分南遺跡			台帳番号	207－849
所在地	鈴鹿市国分町1454				事業主体	個人	
調査原因	ビニールハウス建設				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸	
調査期間	H9．4．24 ～H9．5．31	調査面積	1,140㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月21日付け 教文　第1062号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
「南浦廃寺」の推定寺域のすぐ東側にあたる。水田の床下げにより、北側は削平されているため遺構は南側に集中している。 調査区中央にある土坑(2.4m×2.4m、深さ1m）から、瓦・土師器・須恵器・山茶椀が出土し、中でも炉壁と思われる鋳物がおびただしく出土した。類例から梵鐘の鋳造施設であったと考えられる。			竪穴住居 掘立柱建物 溝 土坑			瓦 土師器 須恵器 山茶椀 石鏃	

No.	58	遺跡名	狐塚遺跡			台帳番号	207－734
所在地	鈴鹿市国分町5-2				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	造成				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸	
調査期間	H10．3．4 ～H10．3．16	調査面積	86㎡		保護法関係文書番号	平成10年3月9日付け 鈴教文　第882号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
調査区の東端で、掘立柱列3間分が確認された。この柱列は、平成7年度に調査されたSB59の続きである。今回の調査で、この建物が2間×7間以上の長大な建物であることが分かった。しかも方位がほぼ正方位であることから官衙的性格を持つと考えられるが、遺物が全く出土しなかったため時期不明である、西端の検出された溝は地境の溝と考えられ近世陶器が出土した。			溝 掘立柱建物			陶器片	

No.	59－1	遺跡名	長者屋敷遺跡			台帳番号	207－363
所在地	鈴鹿市広瀬町字長塚1279-2				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	学術調査				費用負担	鈴鹿市 ※	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	新田　剛	
調査期間	H9．10．16 ～H10．2．10	調査面積	632 ㎡		保護法関係文書番号	平成9年10月23日付け 教文　第1633号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
6年目の調査。基礎地形に平行する幅9mの溝から倒壊瓦が検出された。埋設時期は8世紀末～9世紀初頭と考えられる。後続する建物跡の痕跡はない。			奈良～平安 基礎地形、溝、土壙			土師器、須恵器、瓦	

No.	59－2	遺跡名	長者屋敷遺跡			台帳番号	２０７－３６３
所在地	鈴鹿市広瀬町字矢下				事業主体	鈴鹿市	
調査原因	道路				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	新田　剛	
調査期間	H10. 2. 23 ～H10. 3. 20	調査面積	52㎡		保護法関係文書番号	平成10年３月30日付け 教文　第２１０９号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
政庁の推定南門付近と西脇殿の一部と政庁域外の溝を調査した。南門付近では南門もしくは築地の地形と内溝を検出、軒瓦を含む大量の瓦と礎石が出土した。政庁域西の溝は初検出で幅1.7 mを測り、完形の丸瓦が多く出土した。				奈良時代 溝 基礎地形 足場穴		瓦 土師器 須恵器 礎石	

No.	60	遺跡名	長法寺遺跡			台帳番号	２０７－２７３
所在地	鈴鹿市長法寺町字権現				事業主体	医療法人誠仁会	
調査原因	老人福祉施設建設				費用負担	事業者	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	藤原秀樹	
調査期間	H９. 10. 27 ～H９. 11. 30	調査面積	535㎡		保護法関係文書番号	平成９年11月10日付け 教文　第１６７９号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中ノ川左岸台地上に位置する。検出された遺構は弥生中期後半の方形周溝墓５基と鎌倉時代の掘立柱建物であった。前者は舌状台地の西縁、後者は東縁に立地している。				方形周溝墓５基 掘立柱建物１基 火葬土壙１基 （時期不明）		石鏃、石小刀、石錐 弥生土器 須恵器 山皿 火葬人骨	

No.	61－1	遺跡名	末野Ｂ遺跡			台帳番号	２０７－６６７
所在地	鈴鹿市郡山町末野629				事業主体	三交不動産株式会社	
調査原因	宅地造成				費用負担	事業者	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	藤原秀樹	
調査期間	H10. 2. 16 ～H10. 3.31	調査面積	1,200㎡		保護法関係文書番号	平成10年３月20日付け 教文　第２０７２号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
団地「太陽の街」中にとり残されていた山林。西側は公園として保存された末野Ａ遺跡が立地。検出遺構は竪穴住居、掘立柱建物で、掘立柱建物は小規模ながら方位をそろえている。７世紀前半～８世紀初頭を中心とした遺物が出土。				竪穴住居 掘立柱建物 土坑		須恵器 土師器	

No.	62－1	遺跡名	一反通遺跡			台帳番号	２０７－５３３
所在地	鈴鹿市上野町字西久保				事業主体	個人	
調査原因	住宅建設				費用負担	鈴鹿市	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	岡田雅幸　新田　剛	
調査期間	H10. 2. 23	調査面積	6㎡		保護法関係文書番号	平成10年２月27日付け 鈴教文　第８５２号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿川左岸に位置する弥生中～後期の環濠集落。検出された溝は残りが悪く、鎌倉時代の埋没が考えられる。ただし弥生時代の濠を踏襲したものである可能性もある。				鎌倉時代 溝		弥生土器片 山茶椀	

No.	63－1	遺跡名	岡太神社遺跡			台帳番号	２０７－１１８２
所在地	鈴鹿市岡田１丁目				事業主体	個人	
調査原因	住宅建設				費用負担	個人	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	杉立正徳	
調査期間	H10. 3. 2 ～H10. 3. 6	調査面積	90㎡		保護法関係文書番号	平成10年３月９日付け 鈴教文　第８７９号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
鈴鹿川右岸の低位段丘上に位置し、式内社岡太神社の北に接する場所である。東西方向に流れる溝が６条検出された。鎌倉時代後期から室町時代にかけてのものであろう。調査地は低位段丘上の北縁部にあたるため、この辺りが遺跡の縁辺部になるものと考えられる。			鎌倉時代～室町時代 溝 土坑 柱穴			須恵器 土師器 土師質鍋・羽釜 中世陶器 山茶椀、山皿、常滑焼	

No.	６４	遺跡名	中尾遺跡			台帳番号	２０７－１２３８
所在地	鈴鹿市国府町字中尾2916-1他				事業主体	久保田不動商事	
調査原因	宅地造成				費用負担	事業者	
調査機関	鈴鹿市教育委員会				担当者	藤原秀樹	
調査期間	H９. 3. 12 ～H９. 3. 21	調査面積	176㎡		保護法関係文書番号		
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
鈴鹿川中流域右岸の台地上に位置する。検出遺構は鎌倉時代の掘立柱建物１棟で、いわゆる東南隅土坑を伴う。土坑から排水溝が谷川へのびている。			掘立柱建物１棟 （４×４間）			山茶椀 山皿 土師器	

No.	６５	遺跡名	小野城跡			台帳番号	２１０－１２３
所在地	亀山市小野町字八幡・大堀地内				事業主体	亀山市土木課	
調査原因	市道小野関線建設工事（平成８年度事業）				費用負担	亀山市土木課	
調査機関	亀山市教育委員会				担当者	山口昌直　亀山　隆	
調査期間	H８. 11. 18 ～H９. 6. 13	調査面積	2,986.2 ㎡		保護法関係文書番号	平成８年８月８日付け 亀教文　第５７号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
鈴鹿川左岸の標高約93mの台地上に位置し、現況は畑地である。谷を挟んだ西隣には「鈴鹿関」想定地が所在する。 中世における小野氏居城と伝えられ、台地東端には高さ４mの土塁が遺存する。 調査区南側から、12世紀初頭と考えられる大型の柱穴を有する掘立柱建物群を検出している。これらの建物群は主軸が共通しており、官衙もしくはこれに類する遺跡である可能性が考えられる。 調査区北側からは、15世紀代の小規模な鉄製品鋳造関係遺構が検出されている。鋳型が出土していないので何の鋳造工房かは定かではないが、中世村落における鉄製品供給を考えるうえで興味深い。			掘立柱建物 古代～中世の道路に伴う溝 空堀？ 鋳造関係土坑 集石（近世道路？）			須恵器 土師器皿 緑釉陶器椀 布目瓦 炉底滓 羽口 羽釜 伊勢型鍋	
関連文献	亀山隆「小野城跡」亀山市教育委員会 1991　　「亀山市文化財調査速報No.11」 1997						

No.	66－1	遺跡名	亀山城跡（西出丸外堀）			台帳番号	２１０－２００
所在地	亀山市西丸町字西丸地内				事業主体	亀山市都市計画課	
調査原因	亀山市公園駐車場建設				費用負担	亀山市都市計画課	
調査機関	亀山市教育委員会				担当者	亀山　隆	
調査期間	Ｈ９．９．22 ～Ｈ９．10．14	調査面積	148.4㎡		保護法関係文書番号	平成８年９月12日付け 亀教文　第６７号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
亀山城西出丸北側の外堀跡。江戸時代前半に自然地形を利用して構築されたものと伝えられる。 調査は公園駐車場となる部分について、堀の幅と屈曲部を把握するためにＴ字型に調査区を設定した。 堀両端に人工的に掘り込んだ痕跡が確認され、自然地形を改良して底幅18m、西出丸土塁線よりの比高差17.2mの堀を構築されたものと考えられる。			水堀跡			軒丸瓦（巴紋） 平瓦	

No.	66－２	遺跡名	亀山城本丸御殿跡			台帳番号	２１０－２００
所在地	亀山市西丸町字旧館				事業主体	亀山市都市計画課	
調査原因	市道本丸１号線改良事業				費用負担	亀山市都市計画課	
調査機関	亀山市教育委員会				担当者	亀山　隆	
調査期間	H10．３．２ ～H10．３．18	調査面積	300㎡		保護法関係文書番号	平成10年１月21日付け 亀教文　第１１６５号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
亀山城本丸の中央を東西に貫く市道の改良に伴う発掘調査である。県史跡亀山城多門櫓の隣地。 調査地は、本丸南側から西側へ巡り本丸西門に至る石垣部分。この石垣は昭和20年代までは一部が残存しており、高さは４ｍほどあったという。なお、本丸内に所在した本丸御殿の跡は、今回の調査区域から北側については小学校校庭整備に伴い削平されていた。 石垣西面外側の溝内最下層から本多俊次在城期（1636～1651年）の軒丸瓦が出土した。この石垣は本多氏による亀山城大修築時に築かれたものと考えられる。			石垣			三葉立葵文軒丸瓦	
関連文献	亀山隆『亀山城本丸跡』亀山市文化財調査報告９　亀山市教育委員会　1992 亀山隆『亀山市歴史歴史博物館紀要』第２号　亀山市歴史博物館　1998						

No.	６７	遺跡名	野村一里塚・下野垣内遺跡			台帳番号	210－117・246
所在地	亀山市野村４丁目・１丁目				事業主体	亀山市都市計画課	
調査原因	都市計画街路和賀白川線整備事業				費用負担	亀山市都市計画課	
調査機関	亀山市教育委員会				担当者	亀山　隆	
調査期間	Ｈ９．11．25 ～Ｈ10．１．20	調査面積	1,132㎡		保護法関係文書番号	平成９年11月13日付け 教文　第１７０４号	
遺跡の概要			主な遺構			主な遺物	
鈴鹿川とその支流竜川に狭まれた丘陵上に所在し、国史跡野村一里塚北東に位置する。中世において遺跡周辺地域は、関氏の本拠地とされ『宗長日記』には東西に市をなし、神福寺など４箇等が所在したと記される。 野村一里塚遺跡調査区の北端、竜川により形成された崖に平行して、幅２ｍ、深さ１ｍの空堀状の大溝が検出された。この溝は、15世紀代のものと考えられ、崖を下り対岸へ向かう里道に直交し、小規模な木橋がかけられていた可能性がある。また、大溝を越えてからの道は薬研状の土坑により故意に曲げられていたものと思われる。この遺構は、中世末期に領主居館を核とした「町」の外郭線または内部に設定された区画または防御施設であると考えられる。			大溝・土塁跡？・道			押型文土器（神宮寺式併行期） 縄文土器（後期か） 土鍋、山茶椀	

No.	68	遺跡名	中川原遺跡			台帳番号	210－171
所在地	亀山市天神字中川原				事業主体	個人	
調査原因	個人住宅建設				費用負担	－	
調査機関	亀山市教育委員会				担当者	亀山　隆	
調査期間	H9．10．13 ～H9．10．17	調査面積	5.4㎡		保護法関係文書番号	平成9年10月17日付け 教文　第1618－2号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
個人住宅建設に伴い、地下遺構に影響のある浄化槽部分のみ発掘調査を実施した。調査地周辺は相当の密度で、古墳～室町時代の土器片の散布が見られる。調査面積は少ないものの、6世紀末のカマドを伴う住居跡の一部を検出した。				竪穴住居（カマド有）		土師器椀 須恵器甕 須恵器杯 緑釉陶器椀	

No.	69	遺跡名	山之下遺跡			台帳番号	210－127
所在地	亀山市布気町字山之下				事業主体	亀山市土木課	
調査原因	市道布気小野線交通安全施設整備事業				費用負担	亀山市土木課	
調査機関	亀山市教育委員会				担当者	亀山　隆	
調査期間	H10．2．3 ～H　．2．28	調査面積	400㎡		保護法関係文書番号	平成10年2月2日付け 教文　第1618号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
鈴鹿川左岸の中位段丘先端。遺跡の西部分では縄文中期の土器片とサヌカイト剥片が相当量散布する。歩道拡幅分2m幅での調査のため遺跡の全容を把握することはできなかったが段丘先端の微高地を分断する15世紀の溝を2条検出。調査地の西端は自然地形の谷に手を加えた痕跡も見られ、15世紀代に中位段丘中の低地を開発または再開発を行った可能性を示唆。				溝 近世水田？		山茶椀 縄文土器	

No.	70－1	遺跡名	宮ノ前遺跡			台帳番号	201－735
所在地	津市河辺町字門脇　ほか				事業主体	津市	
調査原因	市道改良				費用負担	津市	
調査機関	津市埋蔵文化財センター				担当者	村木一弥	
調査期間	H9．9．19 ～H9．10．8	調査面積	60㎡		保護法関係文書番号	平成9年9月26日付け 教文　第1559号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
今回の調査区は宮ノ前遺跡の西端にあたる。飛鳥・奈良時代の大溝のほか、鎌倉時代の井戸や掘立柱建物を検出。				飛鳥・奈良時代　大溝1条 鎌倉時代 井戸1基、掘立柱建物1棟		土師器、須恵器、山茶椀、青磁	
関連文献	『大古曽遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1995						

No.	71	遺跡名	専修寺境内遺跡			台帳番号	201－844
所在地	津市一身田町字高田				事業主体	真宗高田派本山専修寺	
調査原因	納骨堂建設				費用負担	真宗高田派本山専修寺	
調査機関	津市埋蔵文化財センター				担当者	中村光司	
調査期間	H8．10．28 ～H9．5．2	調査面積	1,800㎡		保護法関係文書番号	平成9年10月29日付け 教文　第1650号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
専修寺境内地の北西隅の一角。江戸中期以降の絵図に描かれた庭園の一部にあたり、池の一部と環濠からの導水施設を検出した。多量の瓦や陶磁器のほか、瓦塔の出土が注目される。				近世　池、導水施設、土坑 溝、井戸 近代以降　廃棄土坑、耕作溝		瓦、陶磁器、土師器 瓦塔（屋蓋部分と基壇部分）	
関連文献	『一身田寺内町』津市教育委員会 1989						

No.	72	遺跡名	石切山遺跡			台帳番号	201－815
所在地		津市高野尾町字石切山・南出				事業主体	高野尾里土地改良区良区
調査原因		農業基盤整備				費用負担	高野尾里土地改良区(国庫補助)
調査機関		津市埋蔵文化財センター				担当者	山口　格
調査期間		H9．9．12 ～H10．3．31	調査面積	4,675㎡		保護法関係文書番号	平成10年1月16日付け 教文　第1877号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
志登川中流域左岸の段丘上に立地。周辺には里遺跡、里城跡、高野尾古墳群等がある。調査区とその周辺に中・近世の土器類の散布が認められる。陥し穴とみられる土坑（円形素掘り、底面中央にピットあり）6基以上、水溜め状の土坑2基、掘立柱建物（4間×2間総柱、4間×4間南東隅土坑あり）、墳墓状遺構1基等を検出。				縄文時代 陥し穴6基以上 水溜め2基 中～近世 掘立柱建物2棟 墳墓状遺構1基		石鏃 縄文土器 土師器（小皿・鍋等） 須恵器（杯等） 山茶椀 染付磁器	

No.	73	遺跡名	内多馬場遺跡			台帳番号	384－578
所在地		安芸郡安濃町内多字馬場				事業主体	ＮＴＴ東海移動通信網株式会社
調査原因		ＮＴＴ東海移動通信網株式会社携帯電話用無線局事業				費用負担	ＮＴＴ東海移動通信網株式会社
調査機関		安濃町遺跡調査会				担当者	田中秀和
調査期間		H9．6．24 ～H9．7．25	調査面積	221㎡		保護法関係文書番号	平成9年5月19日付け 教文　第1218号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
安濃川左岸の標高36.7m前後の見当山丘陵上に立地し、現状は荒れ地。平成3年度調査区の西40mに位置する。携帯電話用の無線基地局の建設される範囲を調査し、奈良時代の土坑、竪穴住居、平安時代の溝、土坑等を検出。				溝9条 竪穴住居1棟 土坑6基 ピット		土師器皿・甕 灰釉陶器 須恵器蓋杯・壺・甕 刀子	
関連文献		田中秀和『内多馬場遺跡発掘調査報告書』安濃町教育委員会・安濃町遺跡調査会 1992					

No.	74－1	遺跡名	赤坂遺跡			台帳番号	213－1727・1728・1729
所在地		久居市木造町字赤坂				事業主体	県農林水産部農村振興課
調査原因		一般農道整備事業（久居東部地区）				費用負担	県農林水産部
調査機関		久居市教育委員会				担当者	辻　富美雄
調査期間		H9．11．4 ～H10．3．20	調査面積	1,300㎡		保護法関係文書番号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
雲出川の北に広がる低湿地および微高地に形成された縄文時代から中世におよぶ複合遺跡。1994年度には、4世紀及び5世紀の集落を取り巻く溝が発見されている。				竪穴住居　5世紀終末の須恵器を有する。焼失した屋根材の一部を発見。 溝　弥生第4様式の土器を埋蔵。竪穴住居の下層で検出。		竪穴住居 須恵器高杯、土師器、勾玉 溝 弥生土器	

No.	75	遺跡名	貝蔵遺跡（第2次）			台帳番号	405－387
所在地		一志郡嬉野町中川				事業主体	嬉野町中川駅周辺土地区画整理組合
調査原因		土地区画整理事業				費用負担	嬉野町中川駅周辺土地区画整理組合
調査機関		嬉野町教育委員会				担当者	和気清章　村瀬勝樹
調査期間		H9．1．13 ～H9．6．30	調査面積	4,700㎡		保護法関係文書番号	平成8年6月19日付け 教文　第1204号
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中川駅東の標高8m前後の自然堤防上に位置する。北側A地区で弥生時代の環濠と、奈良時代の大溝、鎌倉時代の井戸などを確認。南側調査区のB区では弥生時代末の大溝1条と住居跡1棟、大溝に付属する溝を3条確認。				A区　掘立柱建物、条里大溝 井戸 B区　大溝幅16m、住居跡1棟 堰、やな状遺構		弥生土器（山中式）多数 北陸系加飾器台 奈良時代　土師器、須恵器	

No.	76	遺跡名	五反田遺跡			台帳番号	405－390
所在地		一志郡嬉野町中川			事業主体	嬉野町中川駅周辺土地区画整理組合	
調査原因		土地区画整理事業			費用負担	嬉野町中川駅周辺土地区画整理組合	
調査機関		嬉野町教育委員会			担当者	和気清章　村瀬勝樹	
調査期間		H9．8．4 ～H9．10．27	調査面積	3,500㎡	保護法関係文書番号	平成9年8月20日付け 教文　第1427号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中村川右岸の標高6m前後の沖積地に所在する遺跡で、区画整理事業地内の道路部の調査である。調査では古墳時代の堰を伴う溝1条、地形の落ち込み遺構(古墳時代前期)が確認され、検出面において多数の小板材が確認された。北側の調査区では奈良時代～平安時代の条里溝が1条確認された。				縄文時代　自然流水路 古墳時代　溝、堰 奈良時代　溝		縄文土器（中期） 古墳時代　S字状口縁台付甕 板状木製品 平安時代　土師器	

No.	77－1	遺跡名	六反田遺跡			台帳番号	405－388
所在地		一志郡嬉野町中川			事業主体	嬉野町中川駅周辺土地区画整理組合	
調査原因		土地区画整理事業			費用負担	嬉野町中川駅周辺土地区画整理組合	
調査機関		嬉野町教育委員会			担当者	和気清章　村瀬勝樹	
調査期間		H9．10．27 ～H10．1．30	調査面積	3,700㎡	保護法関係文書番号	平成9年11月18日付け 教文　第1724号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中村川右岸の標高8m前後の微高地に所在する遺跡で、周辺には式内社に比定されている小川神社の南に位置する。調査区の南際で幅16mの地形落ち込み部に幅2.5m、長さ20mを越える敷き石状の遺構が確認され、石敷き下部には乱雑な杭列が存在した。出土土器から弥生時代末から古墳時代前期の遺構であると考えられる。その外の遺構としては13世紀代の掘立柱建物などが確認された。				古墳時代　敷き石遺構 鎌倉時代　掘立柱建物 溝 土坑		弥生時代前期　壺 古墳時代　甕 鎌倉時代　鍋 山茶椀	

No.	78	遺跡名	黒田遺跡			台帳番号	405－233
所在地		一志郡嬉野町黒田			事業主体	嬉野町黒田西部土地区画整理組合	
調査原因		土地区画整理事業			費用負担	嬉野町黒田西部土地区画整理組合	
調査機関		嬉野町教育委員会			担当者	和気清章　村瀬勝樹	
調査期間		H9．9．1 ～H10．3．31	調査面積	9,800㎡	保護法関係文書番号	平成9年9月9日付け 教文　第1490号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
中村川右岸の標高8m前後の自然堤防上に位置する遺跡である。調査では古墳時代前期の水田跡が調査区の全体で確認された他、水田に伴うであろうと推定される溝等が検出されている。調査区の西側では奈良時代の平行する溝が南北方向にやや蛇行しながら確認された。またほぼ同時期の掘立柱建物や鎌倉時代の井戸などが確認されている。				古墳時代　水田、溝 奈良時代　溝、掘立柱建物 平安時代　溝、掘立柱建物 鎌倉時代　井戸ほか		古墳時代　古式土師器 奈良時代　線刻（県） 平安時代　墨書土器、ロクロ土師器、黒色土器、瓦器	

No.	79	遺跡名	北垣外遺跡 ・ 東野遺跡			台帳番号	405－241
所在地		一志郡嬉野町森本			事業主体	嬉野町	
調査原因		町道森本・田村線			費用負担	嬉野町	
調査機関		嬉野町教育委員会			担当者	和気清章　村瀬勝樹	
調査期間		H10．2．1 ～H10．6末終了予定	調査面積	6,000㎡	保護法関係文書番号	平成10年2月25日付け 教文　第1984・1985号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
北垣外遺跡は中村川の右岸の標高34m前後の段丘上に位置する遺跡である。				鎌倉時代以降 掘立柱建物、溝、石垣、土坑		土師器 陶器	

No.	80－1	遺跡名	多気北畠氏遺跡（北畠氏館跡）			台帳番号	４０６－２６－２０
所在地		一志郡美杉村上多気			事業主体	美杉村教育委員会	
調査原因		学術調査			費用負担	美杉村 ※	
調査機関		美杉村教育委員会			担当者	山中吉明	
調査期間		Ｈ９．５．16 ～Ｈ10．３．31	調査面積	350㎡	保護法関係文書番号	平成９年５月28日付け 教文　第１１０２号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
多気北畠氏遺跡の中心と言える北畠氏館跡は、現在の北畠神社の境内地に位置すると推定されている。 神社境内地には国指定北畠氏館跡庭園があり、この境内地からは以前にも中世の遺構が出土している。				石垣（15世紀初）２列 高さ３m、長さ15m 高さ1.5m、長さ５m		土師器皿 陶器類 銅銭	
関連文献		『多気遺跡群発掘調査報告Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』三重県埋蔵文化財センター 『よみがえる北畠氏館跡』美杉村教育委員会 『美杉村・多気の歴史遺産調査』日本ナショナルトラスト 『多気北畠氏遺跡発掘調査－北畠氏館跡Ⅰ－』美杉村教育委員会					

No.	81	遺跡名	坊山３号墳 ・ 坊山２号墳（一部）			台帳番号	２０４－１６５
所在地		松阪市下村町字坊山			事業主体	松阪市建設部土木課	
調査原因		市道虹ケ丘久保線道路建設			費用負担	松阪市建設部土木課	
調査機関		松阪市教育委員会　文化財センター			担当者	福田　昭　福田哲也	
調査期間		Ｈ９．６．２ ～Ｈ９．８．22	調査面積	700㎡	保護法関係文書番号	平成９年６月17日付け 教文　第１１８３号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
松阪市下村町集落の南方に、坊山又は丸山という丘陵がある。この丘陵には、３基の古墳が所在している。 １号墳は、かつて盗掘により銅鏡３面、直刀、勾玉が出土し、昭和60年の発掘調査で、径35mの円墳で円筒埴輪４点が出土している。時期は４世紀後半と考えられる。 今回調査した３号墳は、出土遺物が極端に少ないことと盗掘がかなり進んでいることから時期の詳細は今後の検討課題である。				３号墳　径23mの円墳 ２号墳　墳丘発掘のため 詳細不明 古墳の斜面に室町時代以降の中世墓		須恵器杯身、円筒埴輪片 管玉、ガラス玉 五輪塔、宝篋印塔、銅銭 土師器皿	
関連文献		『松阪市史第２巻 考古』『坊山１号墳発掘調査報告書』 1986					

No.	82	遺跡名	中の坊遺跡			台帳番号	２０４－３４６
所在地		松阪市目田町字中の坊			事業主体	松阪市教育委員会	
調査原因		学校プール建設			費用負担	松阪市教育委員会	
調査機関		松阪市教育委員会　文化財センター			担当者	福田　昭　福田哲也	
調査期間		Ｈ９．９．16 ～Ｈ９．10．９	調査面積	300㎡	保護法関係文書番号	平成９年10月９日付け 教文　第１６５１号	
遺跡の概要				主な遺構		主な遺物	
平成８年度の県営圃場整備事業に伴って三重県埋蔵文化財センターが発掘調査したのを受けての調査である。試掘時に出土した遺物は、溝の端の土器留まりであったようである。 調査範囲が、狭いこともあり遺構の検出は溝だけである。 この地域の遺跡の分布を考えると櫛田川の沖積地にあることがわかる。				奈良時代 溝４条 ピット		土師器皿・甕	
関連文献		『中の坊遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1997					

No.	83	遺跡名	下モ切遺跡			台帳番号	445－19
所在地	多気郡宮川村大井字下モ切			事業主体	出口正和		
調査原因	個人住宅新築工事			費用負担	宮川村		
調査機関	宮川村教育委員会			担当者	山下　晃		
調査期間	H9．5．4 ～H9．5．5	調査面積	40㎡	保護法関係文書番号	平成9年5月7日付け 教文　第1135号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
宮川に向けて張り出す北向きの暖斜面に所在する。現況は水田・茶畑宅地等に利用されている。 調査区は住宅に狭まれた畑地で、表土直下に遺物包含層があり、縄文土器片が出土した。特に西端で検出された土坑は出土遺物の密度が高く、住居跡の可能性も考えられる。	土坑1基	縄文土器片 （北白川上層Ⅲぐらい） 石鏃（サヌカイト） 石皿（？） 石棒（？） 石斧

関連文献	奥義次「宮川村の主な先史遺跡」『宮川村史』宮川村史編さん委員会 1994

No.	84	遺跡名	坂本古墳群（1・2・3号墳）			台帳番号	442－3・4・5
所在地	多気郡明和町坂本			事業主体	個人		
調査原因	農地の拡張			費用負担	町 ※		
調査機関	明和町教育委員会			担当者	中野敦夫		
調査期間	H9．9．29 ～H10．3．31	調査面積	1,200㎡	保護法関係文書番号	発掘調査届け不要		

遺跡の概要	古墳名	墳形	規模（m）	高さ(m)	主体部	出土遺物	時期
坂本古墳群は、櫛田川と宮川との間に広がる平坦な洪積台地の先端、標高約8m前後に築かれた約150基からなる大群集墳であった。昭和10年代の開墾によりほとんどが消滅し、いまでは前方後方墳を含む6基を残すだけである。 今回の調査は、山林を開墾し、農地を拡張することに伴うもので、6基のうち前方後方墳の1号墳と方墳の2・3号墳の3基が対象となった。調査の結果、1号墳の主体部から県内ではじめて金銅装頭椎大刀が出土し、しかも、全国で最も新しい7世紀前半の前方後方墳であることが確認された。	1号墳	前方後方墳	全長　30.0m 前方部 10.5m 後方部 19.5m	前方部2.0m 後方部4.0m	木棺直葬 1	金銅装頭椎大刀1 鉄刀1 須恵器 𤭯、横瓶、提瓶	7c前半
	2号墳	方墳	一辺　13m	2.4m	木棺直葬 1	金環2、 須恵器 𤭯、台付椀	7c前半
	3号墳	方墳	一辺　12m	1.6m	木棺直葬 1	鉄刀1 須恵器 平瓶、横瓶	7c前半

関連文献	鈴木敏雄『上御糸村考古誌考』 1994 三重大学原始古代史部会『多気郡明和町坂本所在坂本1号墳について』三重大学歴史研究会『ふびと』第30号 1969

No.	85	遺跡名	蓮台寺滝ノ口経塚			台帳番号	未登録
所在地	伊勢市勢田町字滝ノ口 49-1			事業主体	大日本土木株式会社		
調査原因	土砂採取			費用負担	事業者		
調査機関	伊勢市教育委員会			担当者	水野廣明　岩中淳之		
調査期間	H9．7．1 ～H9．8．28	調査面積	100㎡	保護法関係文書番号	平成9年8月4日付け 教文　第1404号		

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
伊勢神宮の祭主中臣氏の氏寺であった蓮台寺跡の裏山の頂上で、12世紀中葉～13世紀の経塚22基を検出。 このうち15号経塚からは「保元、年六月廿九日」の銘がある陶製円筒が出土。同日の日付のある円筒は、市内朝熊山経塚でも2点出土している。神宮の高級神官が経塚の造営に深くかかわっていること、経塚間にネットワーク的なつながりが想定できる好資料として注目できる。	経塚22基 小石室をもつもの多い 敷石 後世（13世紀代？）に造られたものか	陶製円筒 他 銅鏡2面（2号経塚、敷石下） 白磁小壺（1号経塚、15号経塚）

関連文献	『蓮台寺滝ノ口経塚群』伊勢市教育委員会 1998

No.	86	遺跡名	田丸城跡			台帳番号	461－424
所在地	度会郡玉城町田丸字城郭			事業主体	玉城町		
調査原因	石垣修復工事			費用負担	玉城町		
調査機関	玉城町教育委員会			担当者	中世古憲司		
調査期間	H9. 11. 12 ～H10. 3. 25	調査面積	144㎡	保護法関係文書番号	平成9年11月19日付け 教文 第1728号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
田丸城跡は田辺丘陵の南東端に位置し、範囲約166,000㎡に達する平山城である。昭和28年、三重県指定史跡に指定された。今も外堀、高い石垣で構成され、複雑な縄張りを残している。平成9年度は、二の門他の石垣修復を実施した。					軒丸瓦 灯明皿 陶器		
関連文献	『三重県 玉城町史』上巻 第3章 中世 第5節 北畠氏支配時代の田丸城						

No.	87	遺跡名	荘北遺跡			台帳番号	462－
所在地	度会郡二見町荘			事業主体	二見町		
調査原因	町民テニスコート整備			費用負担	二見町		
調査機関	二見町教育委員会			担当者	大井戸清人		
調査期間	H9. 12. 9 ～H9. 12. 12	調査面積	200㎡	保護法関係文書番号	平成9年10月20日付け 二教生 第500号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
二見小学校の西に隣接し、二見浦海岸の南約100mに位置する。今回の事業により削平を受ける部位を調査した。平安時代頃と思われる土器片及び遺構が検出された。			溝 数条 時代は不明		平安時代頃 甕片 多数出土		

No.	88	遺跡名	大西谷城跡			台帳番号	未登録
所在地	名張市西田原字大西谷			事業主体	県土木部道路建設課		
調査原因	一般国道368号上野名張バイパス改良事業			費用負担	県土木部		
調査機関	名張市遺跡調査会			担当者	門田了三 橋本普吉		
調査期間	H9. 11. 18 ～H9. 12. 17	調査面積	1,200㎡	保護法関係文書番号	平成9年10月29日付け 教文 第1663号		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
名張市の北部、西田原地区の裏山にある単郭四方土塁の城跡で、北端尾根の堀切り部分の調査を行った。			室町時代 堀切1条		瓦片1		

No.	89－1	遺跡名	旧崇廣堂（第5次）			台帳番号	206－国3
所在地	上野市丸之内			事業主体	上野市		
調査原因	国史跡旧崇廣堂保存整備事業			費用負担	上野市ほか ※		
調査機関	上野市教育委員会			担当者	福田典明		
調査期間	H9. 2. 6 ～H9. 3. 31	調査面積	170㎡	保護法関係文書番号	発掘調査届け不要		
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
崇廣堂は藤堂藩10代藩主高兌によって津の藩校有造館の支校として1821年に建てられた。今回の調査は保存整備事業に伴う第5次発掘調査で、表門思斉舎の建物の下と講堂の北東に位置する箇所の調査である。			礎石 根石 埋甕 （南西調査区 （表門・思斉舎） 溝 北東調査区 藩校当時の遺構・明治の尋常小学校の遺構など		土師器皿 陶器皿 磁器椀 陶器大甕		
関連文献	豊岡勇『国史跡旧崇廣堂発掘調査報告』上野市遺跡調査会 1994 福田典明『旧崇廣堂（5次・6次）』『上野市埋蔵文化財年報4』上野市教育委員会 1998						

No.	89－2	遺跡名	旧崇廣堂（第6次）			台帳番号	206－国3
所在地	上野市丸之内			事業主体	上野市		
調査原因	国史跡旧崇廣堂保存整備事業			費用負担	上野市ほか ※		
調査機関	上野市教育委員会			担当者	福田典明		
調査期間	H9．11．28 ～H9．12．26	調査面積	130㎡	保護法関係文書番号	発掘調査届け不要		
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物			
史跡地の北西部分の遺構確認調査である。		礎石、根石、石組溝、土坑、藩校当時の遺構、明治の尋常小学校の遺構など		陶器皿、陶器擂鉢、磁器椀 土師器鍋			

No.	90	遺跡名	国史跡上野城跡			台帳番号	206－国6
所在地	上野市丸之内			事業主体	上野市教育委員会		
調査原因	史跡整備にともなう現状変更			費用負担	財団法人伊賀文化産業協会		
調査機関	上野市遺跡調査会			担当者	西澤裕幸		
調査期間	H9．11．10 ～H9．12．2	調査面積	100㎡	保護法関係文書番号	発掘調査届け不要		
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物			
調査地は藤堂高虎が築いた天守台の南東及び北東部に位置する。北東部では東側に6m以上続く深さ1m以上の落ち込みを確認。中には、拳大～人頭大の粟石が詰められており、大規模な整地が行われていたと考えらえる。南部では2m以上の深さで2回以上の整地が行われていた。また、古墳時代の土坑が検出され、埴輪も出土した。		古墳時代 土坑 江戸～明治時代 落ち込み 溝 暗渠		弥生　弥生土器 古墳　土師器壺・甕、須恵器杯蓋 埴輪 室町　陶器練鉢、瓦、土師器鍋 江戸　「寛永通宝」、陶器擂鉢			
関連文献	西澤裕幸『上野城跡発掘調査報告』上野市教育委員会・上野市遺跡調査会 1997 西澤裕幸「国史跡上野城跡発掘調査報告」『上野市埋蔵文化財年報4』上野市教育委員会 1998						

No.	91	遺跡名	御墓山窯跡（第3次）			台帳番号	206－643
所在地	上野市佐那具町字中坂			事業主体	ミカサ金属工業株式会社		
調査原因	工場建設			費用負担	事業者		
調査機関	上野市遺跡調査会			担当者	笠井賢治		
調査期間	H9．4．14 ～H9．4．28	調査面積	100㎡	保護法関係文書番号	平成9年3月7日付け 上遺　第12号		
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物			
平成5年度調査区の南西側。第1次調査で焚口のみを検出した3号窯の燃焼室・焼成室を調査。この窯は燃焼室付近の側壁・天井部が崩落しており、窯壁の下からは焼成不良の杯身・杯蓋が大量に出土。		窯体1基 土坑		須恵器　杯身・杯蓋・皿・長頸壺 ・短頸壺			
関連文献	笠井賢治『御墓山窯跡』『上野市埋蔵文化財年報4』上野市教育委員会 1998						

No.	92－1	遺跡名	泥畑遺跡			台帳番号	206－1226
所在地	上野市小田町字泥畑			事業主体	株式会社ﾁｪｰﾝｽﾄｱｵｰｸﾜ		
調査原因	大型店舗建設工事			費用負担	事業者		
調査機関	上野市遺跡調査会			担当者	福田典明		
調査期間	H9．8．19 ～H9．9．25	調査面積	850㎡	保護法関係文書番号	平成9年6月20日付け 上遺　第30－2号		
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物			
試掘調査によって発見された新規発見の遺跡である。服部川左岸の微高地に立地し中世～近世の遺物を包蔵する。		畝状遺構、水溜状遺構、溝、柵列、ピット		土師器皿 陶器すり鉢			
関連文献	福田典明『泥畑遺跡発掘調査報告』上野市教育委員会・上野市遺跡調査会 1998						

No.	93	遺跡名	花代遺跡（B地区）			台帳番号	501－215
所在地	名賀郡青山町羽根字花代				事業主体	水資源開発公団川上ダム建設所	
調査原因	川上ダム取り付け道路新設工事				費用負担	原因者負担	
調査機関	青山町教育委員会				担当者	境　宏　　筒井正明	
調査期間	H9．4．21 ～H9．7．7	調査面積	900㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月5日付け 教文　第1148号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
木津川の支流、前深瀬川の右岸、河岸段丘上に位置し、標高は 190m。調査では、古墳時代の流路2条を確認。埋土から多量の土器類が出土。高杯の出土量が多い事が特徴。			流路2条（古墳時代前期～中期）、掘立柱建物(数棟建つ可能性あり）、ピット、土坑		流路から　高杯、甕、壺、小型丸底壺、手捏土器、ミニチュア土器等（未洗浄150 箱）、木製加工品、管玉、小玉、石製模造品鏡・剣・玉、初期須恵器（把手付椀・高杯）		

No.	94	遺跡名	花代遺跡（A地区）			台帳番号	501－215
所在地	名賀郡青山町羽根字花代				事業主体	水資源開発公団川上ダム建設所	
調査原因	川上ダム取り付け道路新設工事				費用負担	原因者負担	
調査機関	青山町教育委員会				担当者	境　宏　　筒井正明	
調査期間	H9．7．7 ～H9．12．19	調査面積	4,200㎡		保護法関係文書番号	平成9年6月5日付け 教文　第1148号	
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物		
木津川の支流、前深瀬川の右岸、河岸段丘上に位置する。遺構等は確認できなかったが縄文早期の押型文土器が多数出土。掘立柱建物5棟は、ピット内の遺物から中世頃と推定される。いずれも同方向であるが、切り合いから時期差があると考えられる。土坑には床面に敷石されたものもある。			掘立柱建物5棟以上（5間×5間の建物・3面庇の建物）、溝3条(古墳時代2条・中世1条)以上、土坑多数、ピット多数		縄文土器(押型文・山形文)、他に後期・晩期の縄文土器片、有舌尖頭器、石鏃、土師器（甕・壺・皿・釜・鍋など)、須恵器(杯蓋・杯身・高杯など)、瓦器(椀・皿)		

No.	95	遺跡名	西法花寺遺跡			台帳番号	501－243
所在地	名賀郡青山町阿保字西法花寺				事業主体	水資源開発公団川上ダム建設所	
調査原因	川上ダム取り付け道路新設工事				費用負担	原因者負担	
調査機関	青山町教育委員会				担当者	境　宏　　筒井正明	
調査期間	H9．11．12 ～H9．12．24	調査面積	900㎡		保護法関係文書番号	平成9年11月18日付け 教文　第1717号	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
木津川の支流、前深瀬川の右岸、河岸段丘上に位置する。伝承「息速別命墓」に近接する。多数のピットを検出。掘立柱建物が数棟建つ可能性があるが、道路敷部分の制約された調査区であるために規模などは明確ではない。				土坑、ピット	埴輪（円筒埴輪・朝顔形埴輪・須恵質の埴輪片あり） 土師器、瓦器（椀・皿）		

No.	96	遺跡名	史跡　赤木城跡			台帳番号	563－3
所在地	南牟婁郡紀和町赤木				事業主体	紀和町教育委員会	
調査原因	史跡赤木城跡保存整備事業				費用負担	紀和町 ※	
調査機関	紀和町教育委員会				担当者	岩本直樹	
調査期間	H9．7．14 ～H9．9．19	調査面積	450㎡		保護法関係文書番号	発掘調査届け不要	
遺跡の概要				主な遺構	主な遺物		
前年度に引き続き、西郭の調査を実施。西郭は、主郭の南西下に位置し、3段から成る。1段目にあたるA区の石垣は西側が大部分崩落し、東側・南側とも孕みが大きい。また、南東角部分も崩落。2段目にあたるB区は西側に土塁、南側と東側に低い石垣を有する。調査では、写真測量後B区の石垣検出、A区の下層確認と礎石掘形確認及び石垣裾部の検出を実施。さらに、調査後再び写真測量を行い整備工事に着手。				石垣 礎石建物 方形石積遺構 石列 （前年度検出）	天目茶椀 低石 釘 （前年度出土）		
関連文献	紀和町文化財報告1『国史跡赤木城跡発掘調査概要』紀和町教育委員会 1996 紀和町文化財報告2『史跡赤木城跡保存整備事業概要』紀和町教育委員会 1997						

県（三重県埋蔵文化財センター）担当分試掘調査・工事立会

No.	遺跡名 （台帳番号）	所在地	調査原因 費用負担	調査面積 ㎡	調査概要
97	山ノ城城跡 （205-19）	桑名市下深谷部	県立桑名北高等学校擁壁改修 県教育委員会	10	遺構・遺物なし。
98	宮地中世墓群 （未登録）	桑名郡多度町多度	国補急傾斜地崩壊対策 県土木部	100	遺構・遺物なし。 工事立会。
99	下野代遺跡 （301-65）	桑名郡多度町戸津	下水道桑名幹線（第17・18工区） 県土木部	54	遺構・遺物なし。
100	東村城跡 （321-45）	員弁郡北勢町東村	一般国道475号東海環状自動車道 建設省	80	遺構なし。近世以降の陶磁器片が2点出土(混入)。
101	仮）吉備川遺跡 （未登録）	員弁郡員弁町北金井	県立員弁高等学校用地 県教育委員会	264	遺構なし。土師器片出土
102	金塚古墳群 （202-65）	四日市市山村町	第二名神 日本道路公団	149	2基の墳丘墓か古墳、古墳周溝1条。内1基の盛土下に弥生時代の包含層。弥生土器、土師器。
103	東平古遺跡 （202-493）	四日市市山村町	第二名神 日本道路公団	54	遺構・遺物なし。
48-2	公事出遺跡 （202-502）	四日市市西村町	県道永井保々停車場線 県土木部	18	遺構・遺物なし。
104	武佐遺跡 （202-150）	四日市市智積町	県道平尾茶屋町線 県土木部	18	遺構・遺物なし。
105	丸岡遺跡隣接地 （登録不要）	四日市市西村町	北勢中央公園 県土木部	80	遺構・遺物なし。
106-1	辻子遺跡 （343-19）	四日市市広永町 三重郡朝日町埋縄	第二名神 日本道路公団	937	中世の溝・柱穴、古墳時代の流路、水田。古墳時代土師器壺・甕、灰釉陶器、山茶椀、ロクロ土師器、中世土師器、中世の木製品。
106-2	辻子遺跡 （343-19）	四日市市広永町 三重郡朝日町埋縄	県道四日市朝日線 県土木部	422	
107	広永城跡 （343-320）	四日市市広永町 三重郡朝日町埋縄	第二名神 日本道路公団	316	城に伴う遺構は確認できず。須恵器杯蓋。
108	城ノ谷遺跡 （202-66）	四日市市広永町 三重郡朝日町埋縄	第二名神 日本道路公団	348	古墳時代の竪穴住居1棟・柱穴。土師器片。
109	仮）柿遺跡 （登録不要）	三重郡朝日町柿	朝日中央線街路 県土木部	112	遺構・遺物なし。
110	古川遺跡 （343-20・344-1）	三重郡朝日町柿 三重郡川越町豊田	第二名神 日本道路公団	833	遺構なし。陶器片少量。
3-2	菰野城跡隣接地 （登録不要）	三重郡菰野町菰野	国道306号四日市菰野バイパス 県土木部	24	遺構・遺物なし。
111	鈴カ谷遺跡 （登録不要）	鈴鹿市住吉町	青少年の森公園 県土木部	78	遺構・遺物なし。
112	仮）上野遺跡 （登録不要）	鈴鹿市西庄内町	県営畜産経営環境整備 県農林水産部	48	遺構・遺物なし。
113	津賀2号墳隣接地 （登録不要）	鈴鹿市津賀町	県道四日市鈴鹿環状線 県土木部	160	遺構・遺物なし。
114	北蟻越遺跡 （207-521）	鈴鹿市津賀町	県道四日市鈴鹿環状線 県土木部		ピット・溝。 要本調査2,500㎡。
115	下ノ垣内遺跡 （210-293）	亀山市阿野田町	国道306号交通安全対策 県土木部	57	土坑・溝。
116	阿野田城跡 （210-141）	亀山市阿野田町	国補急傾斜地崩壊対策 県土木部	16	遺構・遺物なし。

117	仮）笹谷遺跡 （登録不要）	亀山市安坂山町	県道亀山停車場石水渓線 県土木部	12	遺構・遺物なし。
118	神小谷中世墓 （登録不要）	亀山市安坂山町	県道亀山停車場石水渓線 県土木部	42	遺構・遺物なし。
119	仮）南条遺跡 （登録不要）	亀山市安坂山町	県道亀山停車場石水渓線 県土木部	8	遺構・遺物なし。
120	西沖遺跡隣接地 （登録不要）	亀山市安坂山町	県道亀山停車場石水渓線 県土木部	24	遺構・遺物なし。
121	北石橋遺跡隣接 （登録不要）	津市大里睦合町	県道津関線 県土木部	48	遺構・遺物なし。
122	蟹田Ｂ遺跡 （201-456）	津市大里睦合町	県道津関線 県土木部	24	遺構・遺物なし。
123	中蔦遺跡 （201-477）	津市大里窪田町	県道三宅一身田停車場線 県土木部	9	遺構・遺物なし。
124	若林遺跡 （201-805）	津市大里野田町	ふるさと農道整備（大里） 県農林水産部	400	遺構・遺物なし。工事立会。
125	前ヶ谷遺跡 （201-12）	津市一身田大古曽	県道久居河芸線 県土木部	20	ピット。要本調査400㎡。
126	神戸遺跡 （201-598）	津市神戸	県営ほ場整備（津中部） 県農林水産部	144	ピット。遺物なし。
127	平木遺跡 （201-599）	津市神戸	県営ほ場整備（津中部） 県農林水産部	616	遺構なし。土器少量。
128	スン寺遺跡 （登録不要）	津市半田	県道津久居線 県土木部	191	遺構なし。土師器。
129	梁瀬遺跡 （未登録）	津市野田	一般国道23号中勢道路 建設省	678	溝、土坑、ピット。溝は道路側溝の可能性あり。
130	仮）野田西遺跡 （登録不要）	津市野田	国道163号交通安全対策 県土木部	43	旧河道。要立会調査280㎡
131	仮）高茶屋小森町内遺跡 （登録不要）	津市高茶屋小森町	下水道久居北部幹線（第１工区） 県土木部	54	遺構なし。土器少量。
132	雲林院城跡 （382-23）	安芸郡芸濃町雲林院	国補通常砂防 県土木部	72	溝。要立会調査140㎡。
133	内多窯跡群隣接地 （登録不要）	安芸郡安濃町内多	県道草生窪田線 県土木部	8	遺構なし。土器少量。
134	長野遺跡群 （登録不要）	安芸郡美里村北長野	国補通常砂防 県土木部	24	遺構なし。土器少量。
74-2	赤坂遺跡 （213-210）	久居市木造町	一般農道整備（久居東部） 県農林水産部	48	ピット、溝。 要本調査1,000㎡。
74-3	赤坂遺跡 （213-210）	久居市木造町	中勢水道事務所築造 県企業庁	309	全面削平、攪乱。溝状遺構。 土器小片。 要立会調査400㎡。
135	森南田遺跡 （未登録）	久居市森町	農免農道整備（森） 県農林水産部	18	竪穴住居。 要本調査1,300㎡。
136	岩井戸遺跡 （404-19）	一志郡白山町二本木	県道二本木御衣田線 県土木部	74	遺構なし。土器少量。
137	算所遺跡隣接地 （登録不要）	一志郡白山町八対野	県道藤大三線 県土木部	12	遺構・遺物なし。
138	佐田遺跡 （404-112）	一志郡白山町佐田	県道亀山白山線 県土木部	12	遺構・遺物なし。
139	仮）南出東方遺跡 （登録不要）	一志郡白山町南出	中勢水道用水供給 企業庁	9	遺構・遺物なし。

140	遠可遺跡 （登録不要）	一志郡一志町波瀬	県道白山小津線 県土木部	30	遺構・遺物なし。
141	仮）権現前東方遺跡 （登録不要）	一志郡嬉野町権現前	広域農道整備(中勢三期) 県農林水産部	96	遺構・土器。
142	東野遺跡 （405-282）	一志郡嬉野町森本	基幹水利施設補修（一志南部） 県農林水産部	30	遺構・遺物なし。
143	天白遺跡 （405-344）	一志郡嬉野町釜生田	県道嬉野美杉線 県土木部	8	遺構・遺物なし。
77-2	六反田遺跡 （405-388）	一志郡嬉野町中川	下水道白山幹線(第13-2工区) 県土木部	51	遺構なし。土器。
144	中尾垣内遺跡 （405-222）	一志郡嬉野町薬王寺	中勢水道用水供給 企業庁	9	遺構・遺物なし。
145-1	西ノ手遺跡 （406-112）	一志郡美杉村奥津	県道奥津飯高線 県土木部	40	遺構・遺物なし。
146	瀬干遺跡 （未登録）	松阪市櫛田町	県道松阪環状線 県土木部	40	遺構なし。土器少量。
147	飛中遺跡 （未登録）	松阪市管生町	県道松阪環状線 県土木部	8	遺構・遺物なし。
29-2	横地高畑遺跡隣接地 （登録不要）	松阪市横地町	県営ほ場整備（漕代） 県農林水産部	54	遺構なし。土器。
148-1	西の垣内遺跡 （204-659）	松阪市横地町	県営ほ場整備（漕代） 県農林水産部		ピット。遺物なし。
148-2	西の垣内遺跡隣接地 （登録不要）	松阪市横地町	県営ほ場整備（漕代） 県農林水産部		遺構・遺物なし。
149	大正寺遺跡 （204-347）	松阪市横地町	県営ほ場整備（漕代） 県農林水産部	50	ピット。土師器片。工事立会。
150	神山城跡 （204-549）	松阪市中万町	県道御麻生薗豊原線 県土木部	35	ピット、土坑。 要本調査400㎡。
151	峠遺跡 （登録不要）	飯南郡飯南町上仁柿	国道368号仁柿峠バイパス 県土木部	30	遺構・遺物なし。
152	中道ノ上遺跡 （登録不要）	飯南郡飯高町田引	国道166号田引バイパス 県土木部	30	遺構・遺物なし。
153	神殿遺跡 （442-203）	多気郡明和町金剛坂	県道多気停車場斉明線 県土木部	30	遺構なし。土器少量。
154	金剛坂遺跡 （442-36）	多気郡明和町金剛坂	県道多気停車場斉明線 県土木部	17	土坑、ピット。弥生土器、土師器。要本調査1,100㎡。
155	柳原遺跡 （443-32）	多気郡大台町柳原	県道相鹿瀬大台線 県土木部	88	遺構・遺物なし。
156	栃原遺跡 （443-13）	多気郡大台町栃原	県道新田野原線 県土木部	10	遺構・遺物なし。
157	天理教前遺跡 （443-37）	多気郡大台町栃原	県道新田野原線 県土木部	5	遺構・遺物なし。
158	笠松遺跡 （444-56）	多気郡勢和村色太	国道368号色太バイパス 県土木部	9	遺構・遺物なし。
159	中ノ広B遺跡 （444-52）	多気郡勢和村色太	国道368号色太バイパス 県土木部	4	遺構・遺物なし。
160	大方山遺跡 （203-159）	伊勢市東豊浜町	県営ほ場整備（伊勢北部） 県農林水産部	104	ピット、土坑、溝。 要本調査4,400㎡。
161	高向遺跡 （468-1）	度会郡御薗村高向	ふるさと農道整備（御薗） 県農林水産部	42	遺構・遺物なし。

162	市場遺跡 （登録不要）	度会郡度会町市場	県道伊勢南島線 県土木部	18	遺構・遺物なし。
163	上ノ曽遺跡 （登録不要）	度会郡度会町柳	県道伊勢南島線 県土木部	16	遺構・遺物なし。
36-1	久七屋敷遺跡 （未登録）	度会郡度会町五ヶ町	中山間地域総合整備(小川郷上) 県農林水産部	99	ピット、土坑、溝。 要本調査3,400㎡。
164	宮ノ前遺跡 （登録不要）	度会郡度会町五ヶ町	中山間地域総合整備(小川郷上) 県農林水産部	45	遺構・遺物なし。
37-2	日向長通り遺跡 （未登録）	度会郡度会町日向	中山間地域総合整備(小川郷上) 県農林水産部	162	土坑、石列。土師器鍋。
165	小原遺跡 （501-227）	度会郡度会町日向	中山間地域総合整備(小川郷上) 県農林水産部	90	柱列。要本調査800㎡
166	新外遺跡 （登録不要）	度会郡度会町日向	中山間地域総合整備(小川郷上) 県農林水産部	117	遺構・遺物なし。
167	（仮）里Ｂ遺跡 （登録不要）	度会郡度会町鮠川	ふるさと農道整備（度会北部） 県農林水産部	8	遺構・遺物なし。
168	平野遺跡 （登録不要）	度会郡大宮町野添	県道伊勢大宮線 県土木部	6	遺構・遺物なし。
169	北野遺跡 （登録不要）	度会郡大宮町金輪	県道伊勢大宮線 県土木部	40	遺構・遺物なし。
170	（仮）崎大平遺跡 （登録不要）	度会郡紀勢町崎	県道紀勢インター線交通安全対策 県土木部	16	遺構・遺物なし。
171	（仮）中野遺跡 （登録不要）	度会郡大内山村中野	県道桧原大内山線 県土木部	10	遺構・遺物なし。
172	和田遺跡 （206-792）	上野市喰代	県道上野大山田線 県土木部	48	遺構・遺物なし。
173	安場氏館跡 （206-610）	上野市喰代	県道上野大山田線 県土木部		土塁。要本調査45㎡。
174	宮ノ森遺跡 （206-817）	上野市千歳	県営ほ場整備（上野北部） 県農林水産部	72	遺構なし。土器。
175	南山６号墳・７号墳 （206-682）	上野古郡	農免農道整備（上野南部二期） 県農林水産部	32	６号墳より土師器丸底壺。 要本調査100㎡。
176	前方後円墳状隆起 （登録不要）	阿山郡阿山町玉滝	水資源環境整備（阿山二期） 県農林水産部	19	遺構・遺物なし。
177	中川原遺跡隣接地 （登録不要）	名張市夏見	県道布生夏見線 県土木部	12	遺構・遺物なし。
178	（仮）西田原古墳 （登録不要）	名張市西田原	国道368号上野名張バイパス 県土木部	8	遺構・遺物なし。
42-2	六地蔵Ｃ遺跡 （501-227）	名賀郡青山町伊勢路	県道伊賀青山線 県土木部	30	ピット、溝。遺物なし。
179	（仮）早田Ｂ遺跡 （登録不要）	尾鷲市早田町	国補急傾斜地崩壊対策 県土木部	6	遺構・遺物なし。
180	（仮）佐渡第二遺跡 （登録不要）	熊野市飛鳥町	大又川改修 県土木部	40	遺構・遺物なし。
181	（仮）平遺跡 （登録不要）	熊野市五郷町	県営畜産経営環境整備（紀南） 県農林水産部	20	遺構・遺物なし。
182	（仮）川瀬遺跡 （登録不要）	南牟婁郡御浜町川瀬	県道御浜紀和線 県土木部	92	遺構・遺物なし。

各市町村担当分試掘調査・工事立会

No.	遺跡名（台帳番号）	所在地	調査原因 費用負担	調査面積 ㎡	調査概要
183-1	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市八幡町	個人住宅	33	遺構・遺物なし。工事立会。
183-2	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市京橋町	個人住宅	36	遺構なし。近世瀬戸美濃陶磁器。工事立会。
183-3	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市入江葭町	個人住宅	86	遺構なし。近世常滑赤物甕。工事立会。
183-4	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市柳原町	個人住宅	23	遺構・遺物なし。工事立会。
183-5	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市一色町	個人住宅	350	遺構・遺物なし。工事立会。
183-6	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市伝馬町	店舗建設 事業者	100	遺構なし。近世いぶし瓦。
183-7	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市春日町	個人住宅	206	遺構・遺物なし。工事立会。
183-8	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市一色町	個人住宅	136	遺構・遺物なし。工事立会。
183-9	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市田町・内堀	歩道整備 電線地中化工事	2,240	貝層。近世瀬戸美濃陶磁器、肥前磁器、近世常滑壺・甕、万古焼、近世土師皿、瓦等。工事立会。
183-10	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市元赤須賀	個人住宅	157	遺構・遺物なし。工事立会。
183-11	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市八幡町	個人住宅	83	遺構・遺物なし。工事立会。
183-12	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市本町	会議室新築 事業者	94	遺構なし。近世瀬戸美濃陶磁器、肥前磁器、近世常滑甕、瓦
183-13	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市伊賀町	宅地造成 事業者	200	溝・土坑。近世瀬戸美濃陶磁器、肥前磁器、近世常滑壺・甕、万古焼、近世土師器皿、瓦、木製品、焼夷弾。
183-14	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市相生町	事務所建替 事業者	309	遺構なし。瓦、金属製品。
183-15	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市新町	個人住宅	75	遺構・遺物なし。工事立会。
183-16	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市伝馬町	下水道敷設		近世下水道？(上水道？)、近世瀬戸美濃陶磁器、肥前磁器、常滑甕・土管、瓦。工事立会。
183-17	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市三之丸	個人住宅	158	遺構・遺物なし。工事立会。
183-18	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市吉之丸	公衆便所改築 事業者	78	遺構なし。瓦。
183-19	桑名城下町遺跡(205-99)	桑名市吉之丸	護岸改修	78	現況石垣の測量。
184	宇賀遺跡(205-80)	桑名市蓮花寺	農住土地区画整備 事業者	201	中世の水田跡。山茶椀、近世陶磁器、木製品。
185-1	篠原遺跡(205-113)	桑名市桑部	農住土地区画整備 事業者	380	中世の遺物包含層。須恵器、山茶椀、伊勢型鍋等。
185-2	篠原遺跡(205-113)	桑名市桑部	個人住宅	150	中世の遺物包含層。山茶椀、小皿、伊勢型鍋、常滑甕。
186	大代遺跡(205-31)	桑名市東汰上	道路改良 事業者	30	遺構・遺物なし。
187	東方台地遺跡(205-52)	桑名市東方	店舗併用住宅	495	遺構・遺物なし。
188	勢似口遺跡(205-128)	桑名市江場	個人住宅	90	遺構なし。近世瀬戸美濃陶磁器。工事立会。
189	能部南貝戸遺跡(205-112)	桑名市能部	個人住宅	273	遺構・遺物なし。工事立会。
190	古屋敷遺跡(205-121)	桑名市東金井	個人住宅	46	遺構・遺物なし。工事立会。
191	村中遺跡(205-123)	桑名市西金井	個人住宅	139	遺構・遺物なし。工事立会。

192	貝殻谷遺跡(新発見)	桑名郡多度町小山	土地区画整理	多度町	179	遺構・遺物なし。
193	南小山廃寺(301-29)	桑名郡多度町小山	土地区画整理	多度町	1,008	ピット。須恵器、土師器。
194	中ノ谷遺跡(新発見)					
195	鎧塚古墳(202-20)	四日市市中野町	ほ場整備	事業者	約60	遺構・遺物なし。
196	茂福遺跡(202-253)	四日市市茂福町	下水道建設	四日市市	約60	溝2条(城に伴う堀の可能性あり)。土師器片。
197	北中寺遺跡(202-156)	四日市市石塚町	宅地造成	事業者	約20	遺構なし。土師器、須恵器。
198	四反田遺跡(202-497)	四日市市大矢町	一般国道1号北勢バイパス	建設省	約80	遺構・遺物なし。
199	間ノ田遺跡(202-68)	四日市市広永町	工場建設	事業者	約24	遺構なし。土師器片。
200	南かに島遺跡(202-415)	四日市市赤水町	福祉施設建設	事業者	約 7	遺構・遺物なし。
201	柿城跡(343-10)	三重郡朝日町柿	土地区画整備	朝日町	32	陶器片。
202	山田遺跡(343-1)	三重郡朝日町柿	土地区画整備	朝日町	105	ピット、溝。須恵器、土師器。
203	狐谷遺跡(登録不要)	三重郡朝日町柿	土地区画整備	朝日町	21	遺構、遺物なし。
204	小向城跡(343-8)	三重郡朝日町小向	土地区画整備	朝日町	205	遺構なし。近世磁器小片。
205	正治寺跡(343-9)	三重郡朝日町小向	土地区画整備	朝日町	285	掘立柱建物柱穴。土師器、須恵器、山茶椀、万古焼、窯道具。
206	森有節窯跡(新発見)	三重郡朝日町小向	土地区画整備	朝日町	23	万古焼・窯道具。
5-2	石薬師東遺跡(207-727)	鈴鹿市石薬師町	住宅	鈴鹿市	26	遺構・遺物なし。
5-3	石薬師東遺跡(207-727)	鈴鹿市石薬師町	倉庫	鈴鹿市	2	遺構・遺物なし。
5-4	石薬師東遺跡(207-727)	鈴鹿市石薬師町	住宅	鈴鹿市	8	遺構・遺物なし。
207	陶古山遺跡(207-1029)	鈴鹿市石薬師町	住宅建設	鈴鹿市	11	遺構なし。須恵器片。
208	鞠鹿野C遺跡(207-962)	鈴鹿市石薬師町	住宅	鈴鹿市	7.5	遺構・遺物なし。
209-1	国分遺跡(207-838)	鈴鹿市国分町	住宅	鈴鹿市	2	遺構・遺物なし。
209-2	国分遺跡(207-838)	鈴鹿市国分町	住宅	鈴鹿市	28	ピット、溝。瓦。
210	国分西遺跡(207-837)	鈴鹿市国分町	住宅建設	鈴鹿市	9	遺構・遺物なし。
211-1	国分北遺跡(207-536)	鈴鹿市国分町	住宅	鈴鹿市	2.5	遺構・遺物なし。
211-2	国分北遺跡(207-536)	鈴鹿市国分町	住宅	事業者	14	瓦。
212	国分寺北遺跡(207-793)	鈴鹿市国分町	住宅	鈴鹿市	2	遺構・遺物なし。
54-2	南浦廃寺跡(207-362)	鈴鹿市国分町	倉庫建設	事業者	5	柱穴検出。山茶碗、瓦片。
213	本郷遺跡(207-493)	鈴鹿市国府町	郵便局建設	鈴鹿市	3.6	遺構・遺物なし。
214	富士遺跡(207-952)	鈴鹿市国府町	駐車場	鈴鹿市	6	遺構・遺物なし。
215	平野遺跡(207-158)	鈴鹿市国府町	住宅建設	鈴鹿市	11	遺構・遺物なし。
216	西ノ城戸A遺跡(207-502)	鈴鹿市国府町	住宅	鈴鹿市	6.2	溝。土師器、須恵器。
217-1	須賀遺跡(207-166)	鈴鹿市須賀	宅地造成	事業者	8.8	遺構・遺物なし。
217-2	須賀遺跡(207-166)	鈴鹿市須賀	住宅	鈴鹿市	1.5	遺構なし。弥生土器、須恵器。
217-3	須賀遺跡(207-166)	鈴鹿市須賀	住宅	鈴鹿市	6	ピット、溝検出。山茶椀。
217-4	須賀遺跡(207-166)	鈴鹿市須賀	住宅	鈴鹿市	3	溝。弥生土器。
218	宮上道遺跡(207-703)	鈴鹿市小田町	住宅	鈴鹿市	3	土師器、須恵器片。

219	北ノ添遺跡(207-1089)	鈴鹿市北玉垣町	宅地造成	事業者	9	溝。
220	上箕田遺跡(207-164)	鈴鹿市上箕田	住宅	鈴鹿市	21.7	遺構・遺物なし。
221	下箕田遺跡(207-1175)	鈴鹿市下箕田	宅地造成	事業者	15	遺構・遺物なし。
222	三日市東遺跡(207-1158)	鈴鹿市三日市	住宅	鈴鹿市	3	遺構・遺物なし。
223	平田城跡(207-375)	鈴鹿市平田本町	住宅	鈴鹿市	2	遺構・遺物なし。
224-1	砂山遺跡(207-887)	鈴鹿市岸岡町	住宅	鈴鹿市	4	円筒埴輪片。
224-2	砂山遺跡(207-887)	鈴鹿市岸岡町	住宅	鈴鹿市	1	遺構・遺物なし。
225	若松遺跡(207-1176)	鈴鹿市若松北	住宅	鈴鹿市	2	遺構・遺物なし。
226	若松西遺跡隣接地(未登録)	鈴鹿市若松西	宅地造成	鈴鹿市	22.5	古墳時代包含層。
227	北若松遺跡(207-237)	鈴鹿市北若松町	宅地造成	事業者	9	遺構・遺物なし。
228-1	南原永Ⅱ遺跡(207-1057)	鈴鹿市南若松町	住宅	鈴鹿市	4	遺構・遺物なし。
228-2	南原永Ⅱ遺跡(207-1057)	鈴鹿市南若松町	宅地造成	事業者	13	遺構・遺物なし。
59-3	長者屋敷遺跡(207-363)	鈴鹿市広瀬町	道路	鈴鹿市	242	溝、土坑。縄文土器、山茶椀。
59-4	長者屋敷遺跡(207-363)	鈴鹿市広瀬町	道路	鈴鹿市	242	溝。瓦、土器。
61-2	末野Ｂ遺跡(207-667)	鈴鹿市郡山町	宅地造成	事業者	50.5	ピット、竪穴住居。土師器。
229	西高山Ｅ遺跡(207-1240)	鈴鹿市郡山町	駐車場	原因者	573	溝検出。須恵器、陶棺片。
230	加佐登遺跡(207-7)	鈴鹿市加佐登	住宅	鈴鹿市	6	溝。土師器片。
62-2	一反通遺跡(207-533)	鈴鹿市上野町	倉庫	鈴鹿市	3	ピット。
62-3	一反通遺跡(207-533)	鈴鹿市上野町	住宅	鈴鹿市	10	溝、土坑。弥生土器。
231-1	居敷遺跡(207-1169)	鈴鹿市津賀町	道路	鈴鹿市	78.3	竪穴住居、ピット、溝、土坑。土師器、須恵器、山茶椀。
231-2	居敷遺跡(207-1169)	鈴鹿市津賀町	道路	鈴鹿市	228	ピット、土坑、溝。土師器、須恵器、山茶椀。
232-1	津賀平遺跡(207-522)					
232-2	津賀平遺跡(207-522)	鈴鹿市津賀町	住宅	鈴鹿市	3	遺構・遺物なし。
233	双児塚古墳群隣接地	鈴鹿市長沢町	工業団地	鈴鹿市	170	溝、土坑。土師器。
234	石丸野遺跡(207-553)	鈴鹿市平野町	住宅	事業者	2	遺構・遺物なし。
235	林崎遺跡(207-1178)	鈴鹿市林崎	住宅	鈴鹿市	3	溝。弥生土器片。
236	今村Ａ遺跡(207-563)	鈴鹿市稲生塩屋	住宅	鈴鹿市	6	遺構・遺物なし。
237	奥ノ谷遺跡(207-529)	鈴鹿市上田町	作業場	事業者	86	遺構・遺物なし。
238	乗倉遺跡(207-991)	鈴鹿市上田町	土砂採取	事業者	9.9	遺構・遺物なし。
63-2	岡太神社遺跡(207-1182)	鈴鹿市岡田町	住宅	鈴鹿市	6	溝、ピット。山茶椀。
239	仮)小野上門田遺跡(新発見)	鈴鹿郡関町小野	店舗建築	事業者	70	遺構なし。土師器、須恵器片、灰釉陶器片。
240	仮）新所御旅遺跡(登録不要)	鈴鹿郡関町新所御旅	個人住宅	関町	15	遺構・遺物なし。
241	窪田森添遺跡(201-818)	津市大里窪田町	宅地造成	事業者	16	遺構なし。須恵器、山茶椀。
242	慈智院本堂	津市一身田町	慈智院本堂保存修理	事業者	30	基壇下からピット、土坑（鎌倉時代遺構のものと思われる）。
70-2	宮ノ前遺跡(201-735)	津市河辺町	市道改良	津市	11	ピット多数。
243	桐山遺跡隣接地(登録不要)	津市河辺町	市道改良	津市	12	遺構・遺物なし。

244	納所遺跡(201-34)	津市納所	市道改良 津市	100	遺構なし。弥生土器。工事立会。
245	津城跡(201-763)	津市中央	合同ビル建設 事業者	34	遺構なし。幕末以降の陶磁器。
246	仮）町屋遺跡(登録不要)	津市桜橋	共同住宅建設 事業者	32	遺構なし。焼夷弾筒１個。
247	垂水Ａ遺跡(201-482)	津市垂水	市道建設 津市	152	土坑、溝。土師器、山茶椀。
248	黒木遺跡(201-837)	津市藤方	市道建設 津市	8	遺構・遺物なし。
249	仮）川向遺跡(登録不要)	津市桜橋	宅地造成 事業者	8	遺構・遺物なし。
250	向山遺跡(201-797)	津市高茶屋小森町	共同住宅建設 事業者	80	遺構・遺物なし。
12-2	高茶屋大垣内遺跡(201-264)	津市高茶屋小森町	ガス管埋設 事業者	16	遺構・遺物なし。
251	松山遺跡(381-7251)	安芸郡芸濃町萩野	鉄塔建設 事業者	約40	溝、土坑。土師器。
252	蛇谷遺跡(384-716)	安芸郡安濃町田端上野	町中央総合公園センター 安濃町	44	ピット。遺物なし。
253	小舟江権現前遺跡(207-92)	一志郡三雲町小舟江	倉庫建設 事業者	104	古墳時代と中世の包含層。土師器、山茶椀、青磁、施釉陶器。
80-2	多気北畠氏遺跡（土井沖地区）(406-26-30)	一志郡美杉村上多気	公共施設建設及び造成 美杉村	約63	ピット。土師器鍋、陶器。
145-2	西ノ手遺跡(406-112)	一志郡美杉村奥津	学校建設 美杉村	約99	ピット。土師器、青磁。
254	立野城跡(204-194)	松阪市立野町	土砂採取 事業者	21.6	堀切を確認。
255	仮）殿村遺跡(登録不要)	松阪市殿村町	砂利採取・床土入替 事業者	4	遺構・遺物なし。
256	粥鍋遺跡	松阪市川井町	住宅建設用地 事業者	6	遺構・遺物なし。
257	草山遺跡(204-207)	松阪市久保	住宅開発造成 事業者	6	遺構・遺物なし。
258	分れ谷遺跡(204-152)	松阪市久保町	住宅団地造成 事業者	50	遺構・遺物なし。
259	服部遺跡隣接地(登録不要)	松阪市大垣内町	砂利採取 事業者	78	遺構・遺物なし。
27-2	堀町遺跡隣接地(登録不要)	松阪市佐久米町	砂利採取 事業者	32	遺構・遺物なし。
260	山添遺跡(204-352)	松阪市山添町	砂利採取 事業者	4	遺構・遺物なし。
261	仮）安楽遺跡(登録不要)	松阪市安楽町・山下町	道路整備 事業者	14	遺構・遺物なし。
262	大原堀遺跡(登録不要)	松阪市広瀬町	鉄塔建設 事業者	4	遺構・遺物なし。
263	仮）東浦遺跡(登録不要)	松阪市西野々町	砂利採取 事業者	28	遺構・遺物なし。
264	仮）今新田遺跡(登録不要)	伊勢市津村町	宅地開発 事業者	96	遺構・遺物なし。
265	湯田野遺跡(203-105)	伊勢市上地町	宅地開発 事業者	40	遺構・遺物なし。
266	仮）鹿田古墳群(登録不要)	伊勢市楠部町	土地区画整理 事業者	約24	１号墳は人工の盛土、２号墳は自然地形。遺物なし。
267-1	里畑遺跡(462-28)	度会郡二見町松下	農業開発 二見町	108	柱穴。弥生土器。
267-2	里畑遺跡(462-28)	度会郡二見町松下	農業開発 二見町	34	遺構なし。土師器少量。
268-1	山田遺跡(468-2)	度会郡御薗村王中島	貸駐車場敷地造成 事業者	32	遺構・遺物なし。
268-2	山田遺跡(468-2)	度会郡御薗村長屋	貸駐車場敷地造成 事業者	48	遺構・遺物なし。
268-3	山田遺跡(468-2)	度会郡御薗村長屋	貸駐車場敷地造成 事業者	32	遺構・遺物なし。
269	高羽根遺跡(206-948)	上野市印代	物販店舗建設 建築主	11	中世の溝。弥生土器、土師器甕・瓦器・羽釜。
270	清水谷遺跡(206-1227)	上野市比土	宅地造成 事業者	66	遺構なし。須恵器杯・杯蓋完形品。

271	(仮) 此坪遺跡(登録不要)	上野市小田町	宅地造成 事業者	24	遺構なし。土師器、瓦器、陶器片。
92-2	泥畑遺跡(206-1226)	上野市小田町	店舗造成 事業者	414	ピット検出。遺物なし。
272	(仮) 矢倉谷遺跡(登録不要)	上野市四十九町	店舗造成 事業者	468	遺構なし。
273	北長野遺跡(206-649)	上野市上之庄	店舗建設 建築主	15	遺構なし。
274	古屋敷遺跡(206-977)	上野市千歳	共同住宅建設 事業者	22	遺構なし。
275	喜春遺跡(206-818)	上野市千歳	コミュニティープラント整備 上野市ほか	12	喜春遺跡で土師器を含む遺物包含層確認。千歳庄司館は、その位置が推定地の南西の屋敷地である可能性が高まった。
276	千歳庄司館(206-522)				
277	浜瀬氏城跡(206-523)				
278	服部氏館跡(206-524)				
279	岩瀬氏館跡(206-525)				
280	上寺遺跡(206-715)	上野市比自岐	農業集落排水緊急整備 上野市ほか	20	上寺遺跡で須恵器、土師器、瓦器を含む遺物包含層確認。荒堀長川館跡周辺で、瓦器や土師器出土。式内社比自岐神社周辺で、古墳時代の須恵器や土師器を含む包含層確認。集落西側の微高地に古墳時代の集落が想定される。王塚古墳の周辺で古墳時代の遺構と遺物を確認。
281	将軍塚遺跡(206-948)				
282	式内社比自岐神社(206-1154)				
283	荒堀長川館跡(206-598)				
284	王塚古墳(206-161)				
285	夏ハゼ遺跡(206-964)	上野市服部町	農業集落排水緊急整備 上野市ほか	15	岡角氏館跡と苗子館跡において、土師器を含む遺物包含層を確認。
286	西ノ坊西光寺跡(206-970)				
287	蓮華寺推定地遺跡(206-357)				
288	工藤氏館跡(206-529)				
289	服部六郎時定館跡(206-528)				
290	岡角氏館跡(206-527)				
291	苗子氏館跡(206-689)				
292	式内社小宮神社				
293	(登録不要)	阿山郡大山田村上阿波	リゾート施設建設 大山田村	20	遺構・遺物なし。
294	(登録不要)	阿山郡大山田村甲野	砂利採取 事業者	44	遺構なし。陶器片。
295	高北遺跡(484-156)	阿山郡大山田村出後	携帯電話用アンテナ 事業者	6	遺構なし。須恵器片。

III. 埋蔵文化財保護体制の充実

1．各種会議

〔三重県埋蔵文化財担当者会議〕

当埋蔵文化財センターのほか、県文化芸術課・斎宮歴史博物館及び市町村の埋蔵文化財担当者による技術研修や情報交換を目的として、平成９年度は次の４回を開催した。

	開催日	場所	内容
第１回	平成９年４月25日	斎宮歴史博物館講堂	・平成９年度の事業予定について ・講演　「埋文センター建設へのプロセス」 能登川町教育委員会　植田文雄氏
第２回	平成９年７月11日	青山町青山ホール 多目的ホール	・市町村及び県の現状と課題 ・調査報告 ①天王遺跡　鈴鹿市教育委員会　杉立正徳 ②花代Ｂ遺跡　青山町教育委員会　境　宏 ③中出向遺跡　三重県埋蔵文化財センター　竹内英昭 ・講演「全国の埋蔵文化財保護行政をめぐる諸問題」 文化庁　記念物課　坂井　秀弥 ・城之越遺跡史跡整備事業について 概要報告及び現地見学　上野市教育委員会　中浦基之
第３回	平成９年10月23日	芸濃町総合文化センター 大研修室	・市町村及び県の現状と課題 ・テーマ研究 ①桑名城下町について　桑名市教育委員会　斎藤　理 ②津市における近世遺跡の取扱いとその調査事例 津市教育委員会　中村光司 ③埋蔵文化財の取扱い　上野市教育委員会　西澤裕幸 ・調査報告 高茶屋大垣内遺跡　三重県埋蔵文化財センター　田中久生 ・埋蔵文化財管理支援システムの概要 石原ソフトエンジニアリング　石原　均 ・講演「近世遺跡調査の事例～兵庫県明石市の場合～」 明石市立文化博物館　山下俊郎氏
第４回	平成10年２月10日	朝日町保健福祉センター 多目的ホール	・市町村及び県の現状と課題 ・民間導入問題とその後 ①県埋文センターの場合　県埋文センター　杉谷　政樹 ②久居市の場合　久居市教育委員会　辻　富美雄 ・今年度三重県内重要遺跡報告 ①嬉野町六反田遺跡の調査　嬉野町教育委員会　和気　清章 ②三雲町周辺の低地の初期古墳群の調査 県埋文センター　伊藤　裕偉・新名　強 ③美杉村北畠氏館跡の調査　県埋文センター　竹田　憲治 ④紀和町国史跡赤木城の調査と整備 紀和町教育委員会　岩本　直樹 ・朝日町教育文化施設の見学

〔三重県埋蔵文化財連絡調整会議〕

目的　県及び市町村の埋蔵文化財保護行政における諸問題について協議・情報交換を行うとともに長期計画・展望について意見交換を行う。

日時　第１回　平成９年８月28日（木）　午後１時30分～午後５時

場所　三重県埋蔵文化財センター２Ｆ研修室

内容
- 埋蔵文化財取扱い三重県基準（案）
- 「出土品の取扱いについて」（文化庁報告）について
- その他

〔その他の会議〕

全国公立埋文協などが主催する会議・研修会に職員を派遣し、県外他機関との交流や技術研修を行っている。平成９年度は次の会議等に参加した。

名　　称	内　　容	期　　日	場　　所	出 席 者
平成９年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会・総会	平成８年度事業報告について その他	６月５日	神奈川県足柄下郡	山澤　義貴 新田　洋
平成９年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	出土品整理の体制と抱えている問題について　その他	11月13・14日	石川県金沢市	新田　洋 日栄　智子

２．埋蔵文化財発掘技術者研修

〔職員研修〕

職員の技術的向上を目的に、奈良国立文化財研究所が実施する埋蔵文化財発掘調査技術者研修と奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘技術専門研修を随時受講させている。

内　　容	実　施　機　関	期　　間	受講者
埋蔵文化財発掘技術者研修	奈良国立文化財研究所	平成９年７月１日～９月30日	木野本和之
埋蔵文化財発掘技術者研修	奈良国立文化財研究所	〃　９月１日～10月31日	城　吉基

〔埋蔵文化財発掘技術者研修（教員研修）〕

昭和42年度以来県下の学校教員を対象として、埋蔵文化財の発掘調査等についての専門的知識と技術の習得を目的とする研修事業を実施している。昭和54年度以降期間１カ年の研修となり、平成９年度は次の３名が県埋蔵文化財センター及び県内発掘調査現場において研修を行った。これまで昭和54年度から平成９年度までに７１名が研修を終了した。

平成９年度研修員

城　　吉基　　四日市市立羽津北小学校
杉本　寿範　　県立城山養護学校
津田　琢麻　　県立木本高等学校

平成９年度研修内容

月	研　　修　　内　　容
4	・研修ガイダンス　・２次整理研修Ⅰ・II　・室内講義Ⅰ・II　・自主研修
5	・発掘調査実習（安知本上田遺跡　横地高畑遺跡　下之川富田遺跡ほか）
6	・　〃　（北条畑田遺跡　横地高畑遺跡　下之川富田遺跡ほか）
7	・　〃　（天花寺城跡・小谷赤坂遺跡　下之川富田遺跡　横地高畑遺跡　コドノＡ遺跡　ほか）
8	・　〃　（天花寺北瀬古遺跡　横地高畑遺跡　コドノＡ遺跡　ほか）
9	・　〃　（横地高畑遺跡　上ノ庄北出遺跡　縁通庵遺跡　飛鳥藤原宮発掘調査現場ほか）
10	・　〃　（上ノ庄北出遺跡　縁通庵遺跡　飛鳥藤原宮発掘調査現場　ほか）
11	・　〃　（天花寺北瀬古遺跡　天花寺城跡・小谷赤坂遺跡　上ノ庄北出遺跡　ほか）
12	・　〃　（天花寺北瀬古遺跡　上ノ庄北出遺跡　前田町屋遺跡　ほか）
1	・分布調査実習　・試掘調査実習
2	・報告書作成実習　・分布調査実習　・試掘調査実習　・室内講義III
3	・報告書作成実習　・試掘調査実習

〔室内講義内容〕

月　日	内　　容	担　当　者
〔室内講義Ⅰ〕		
4．2	埋蔵文化財の保護行政と埋文センター	山澤義貴（埋蔵文化財センター）
	発掘調査とは	山田　猛（　〃　）
	整理、報告書作成	新田　洋（　〃　）
	最近の調査成果から	吉水康夫（　〃　）
〔室内講義Ⅱ〕		
4．4	縄文	穂積裕昌（　〃　）
	弥生・古墳	穂積裕昌（　〃　）
	古代	竹田憲治（　〃　）
	中・近世	日栄智子（　〃　）
4．7	遺跡からみた北勢地方の歴史	森川幸雄（　〃　）
	遺跡見学（北勢方面各地）	日栄智子（　〃　）
4．8	遺跡からみた中勢地方の歴史	本堂弘之（　〃　）
	遺跡見学（中勢方面各地）	穂積裕昌（　〃　）
4．9	遺跡からみた南勢地方の歴史	森川常厚（　〃　）
	遺跡見学（南勢方面各地）	竹田憲治（　〃　）
4．10	遺跡からみた伊賀地方の歴史	穂積裕昌（　〃　）
	遺跡見学（伊賀方面各地）	穂積裕昌（　〃　）
〔室内講義Ⅲ〕		
3．2	遺物のとらえ方	穂積裕昌（　〃　）
	旧石器・縄文時代の遺物	小濱　学（　〃　）
	弥生時代の遺物	米山浩之（　〃　）
3．4	奈良・平安時代の遺物	大川勝宏（　〃　）
	中世の遺物	伊藤裕偉（　〃　）
	近世の遺物	日栄智子（　〃　）
3．5	埋蔵文化財の現在と未来	山田　猛（　〃　）
	報告書の構成とレイアウト	前川嘉宏（　〃　）
	遺物・遺構写真の撮影	本堂弘之（　〃　）
3．6	遺跡のとらえ方	穂積裕昌（　〃　）
	研修のまとめ	新田　洋（　〃　）
		竹田憲治（　〃　）

【埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修】

町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘調査技術を研修し、文化財保護行政に資するための研修を実施している。平成９年度は該当する町村はなかった。

【埋蔵文化財発掘調査にかかる外国人研修】

趣旨・目的

奈良国立文化財研究所が主催する平成９年度埋蔵文化財発掘技術者研修課程「外国人研修」の実地研修の一環として本県に現地研修の依頼があったので、検討の結果、本研修によって他国の考古学技術等の知識・情報を得ながら広く技術者を養成し、今後の国際交流のさらなる促進をはかることができるため、外国人研修を実施する。

研修期間　　平成９年６月３日～６月３０日

研修場所　　埋蔵文化財センター調査第一課関係発掘調査現場ほか

研修者　　ＣＨＥＵＭＧ　ＮＥＫＹ　ＴＡＫ　ＣＨＩＮＧ　（４２才　カナダ国　マックギル大学）

研修内容

６月３日　　埋蔵文化財センター等ガイダンス

４日　　調査第一課関係発掘調査現場等説明

５～27日　　調査第一課関係発掘調査現場での実習（この間、適宜室内実習）

30日　　研修のまとめ・総括

3．埋蔵文化財保護等に関する指導・協力

依　頼　者	内　容	期　日
四日市市立博物館	四日市市立博物館資料委員の嘱託について	4月1日～3月31日
多度町教育委員会	埋蔵文化財詳細分布調査の協力	4月1日～3月31日
三重県教育委員会	三重県センター博物館（仮称）資料委員の就任	4月18日
宮川村教育委員会	下モ切遺跡の試掘調査に係る指導	4月19日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡の発掘調査に係る指導	5月～
鈴鹿市教育委員会	寺谷古墳群出土遺物にかかる調査指導	5月4日～11月5日
嬉野町教育委員会	第1回文化財保護委員会への出席	5月19日
三重県教育委員会	三重県センター博物館（仮称）資料委員説明会	5月20日
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡ほか発掘調査事業に係る指導	5月28日
三重県教育委員会	平成9年度教職経験者Bの講師	6月10日
伊勢市教育委員会	埋蔵文化財分布調査の協力	7月～
三重県教育委員会	三重県センター博物館資料調査委員会議への出席	7月8日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡発掘調査指導委員会への出席	7月10日
皇学館大学考古学研究会	研究会の講師	7月16日
佛教大学四条センター	公開講座の講師	9月9日
紀和町教育委員会	史跡赤木城跡及び田平子峠刑場跡整備に係る指導	9月11日・9月12日
尾鷲市教育委員会	埋蔵文化財試掘調査に係る指導	9月26日
嬉野町教育委員会	片部遺跡出土墨書土器展示見学会への出席	9月27日
三雲町教育委員会	三雲郷土史研究会学習会の講師	9月27日
三重大学教育学部	教育学部非常勤講師の嘱託	10月1日～3月31日
上野市教育委員会	シンポジウムの講師	10月5日
明和町教育委員会	坂本1～3号墳発掘調査に係る指導	10月13日～12月末
美杉村教育委員会	「ふるさと歴史大学」講習会の講師	10月14日・17日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡発掘調査に係る指導	10月27日・29日
四日市市立博物館	四日市市立博物館資料委員会会議への出席	10月30日
嬉野町教育委員会	町民歴史講座の講師	11月8日
美杉村教育委員会	多気北畠氏遺跡試掘調査に係る指導	11月中旬以降
三重県教育委員会	平成9年度教職経験者Aの講師	11月11日
伊勢市教育委員会	埋蔵文化財試掘調査にかかる指導	11月14日
「土偶とその情報」研究会	土偶シンポジウム6　奈良大会への出席	11月21日～23日
二見町教育委員会	荘北遺跡の発掘調査に係る指導	11月24日
三重県生活文化部	三重県史編纂に係る資料調査の指導	12月5日
鈴鹿市教育委員会	長者屋敷遺跡ほか発掘調査に係る指導	12月8日
玉城町教育委員会	史跡の案内人養成講座の講師	12月13日・20日
伊勢市教育委員会	埋蔵文化財試掘調査に係る指導	12月17日・18日
嬉野町教育委員会	嬉野町史編纂準備委員会への出席	12月22日
朝日町教育委員会	埋蔵文化財試掘調査に係る指導	1月6日～20日
安濃町教育委員会	大城遺跡出土土器の記者発表への出席	1月9日
名古屋市見晴台考古資料館	平成9年度特別展に伴う講演会の講師	1月15日
美杉村教育委員会	平成9年度多気北畠氏遺跡（北畠氏館跡）発掘調査指導委員会への出席	1月20日
御薗村教育委員会	御薗村文化財調査委員会への出席	1月23日
三重県北勢県民局桑名土木事務所	員弁郡ブロック渓流環境整備計画策定検討会の委員の嘱託	2月～検討会終了
紀伊長島町教育委員会	「道瀬遺跡について」講習会の講師	2月10日
斎宮歴史博物館	平成9年度第3回斎宮跡調査研究指導委員会への出席	3月3日
津市城山東自治会	高茶屋大垣内遺跡スライド説明会の講師	3月7日

〔発掘技術者研修（教員対象）実施要項〕

平成９年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項

１．目　的

発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

２．主　催

三重県教育委員会

３．担　当

三重県埋蔵文化財センター

４．期　間

平成９年４月１日～翌年３月31日までの12か月間

５．場　所

・多気郡明和町大字竹川　　三重県埋蔵文化財センター

・県内各発掘調査現場

６．人　員

若干名

７．参加資格

(1) 県内の公立小学校・中学校・高等学校の教員のうちで、原則として大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験を有する者。

(2) 健康で現場作業に従事することのできる者で、原則として昭和36年４月以降生まれである者。

８．研修内容

(1) 講義

総論　・文化財の保護

各論　・文化財保護法

・史跡および埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、墳墓・集落・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理、人骨・動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法　等

(2) 実習　・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習等

９．講　師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

10．その他

(1) 研修者の出張旅費は、県の旅費規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し常勤講師の補充がなされる予定である。

(3) 研修を修了した者には、修了証書を交付する。

平成９年度　研修年間計画概要

内容 ＼ 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
室内講義　I	文化財の保護行政	—											
室内講義　II	埋文調査の基礎知識	—											
基本実習	遺物実測・拓本実習	—	—										
	測量調査実習		—										
発掘調査	調査計画立案法（実習）		—										
	調査準備法（実習）		—										
	遺構検出法（実習）			—	—	—	—	—	—	—			
	遺構写真法（実習）									—			
	遺構実測法（実習）									—	—		
分布調査	分布調査実習									—	—		
試掘調査	試掘調査実習										—	—	
室内講義　III	遺物各論												—
報告書作成	遺物整理法（実習）									—	—		
	遺構整理法（実習）									—	—		
	記述原理										—	—	
	報告書編集法（実習）											—	—
施設・主要遺跡見学		—		—		—		—		—		—	
研修場所		埋蔵文化財センターほか	埋蔵文化財センター・県下各発掘調査現場ほか									埋蔵文化財センターほか	

〔町村職員研修実施要項〕

埋蔵文化財発掘技術町村職員研修実施要項

1．目　的

この要項は、各町村において文化財保護行政を担当する者に対して、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門的知識と技術について研修（以下「研修」という。）を行うことにつき、必要な事項を定めるものとする。

2．研修の主体

研修は、三重県埋蔵文化財センターが行う。

3．研修の場所

研修の場所は、三重県埋蔵文化財センターおよび県内各地の埋蔵文化財発掘調査現場等とする。

4．研修の対象

研修の対象者（以下「研修員」という。）は、町村教育委員会文化財保護行政担当職員、もしくはこれに準ずる者とする。

5．研修員の決定

(1) 町村教育委員会教育長は、職員に研修を受けさせようとするときは、別紙様式の「研修希望調書」を三重県埋蔵文化財センター所長（以下「所長」という。）に提出するものとする。

(2) 所長は、研修希望調書をもとに選考のうえ研修員を決定し、町村教育委員会教育長に通知するものとする。

6．研修の内容

研修の内容は、別表「研修内容」のとおりとする。

7．修了証書の交付

所長は、研修員が全研修課程を修了したと認めるときは、修了証書を交付する。

8．研修に要する経費

(1) 研修員の旅費は、研修員派遣機関において負担するものとする。

(2) 所長は、研修に必要な資料等の経費について、研修員派遣機関に実費負担を求めることができる。

9．その他

前各項に定めるもののほか、研修の実施について必要な事項は、所長が別に定める。

（　附　則　）

この要項は、平成９年４月１日から施行する。

（別　表）　埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修　研修内容

講座名	期　間	研　　修　　内　　容
講座Ⅰ	１か月間	○文化財保護法の概要　　○埋蔵文化財の判定　　○試掘調査の立案と実習
講座Ⅱ	２か月間	○発掘調査の立案と実習　　○遺構の実測と写真撮影実習
講座Ⅲ	２か月間	○発掘調査資料の整理実習　遺構図面・写真の整理　出土遺物の整理　遺物実測
講座Ⅳ	２か月間	○報告書作成に関する実習　遺物写真撮影　遺物・遺構図版の作成

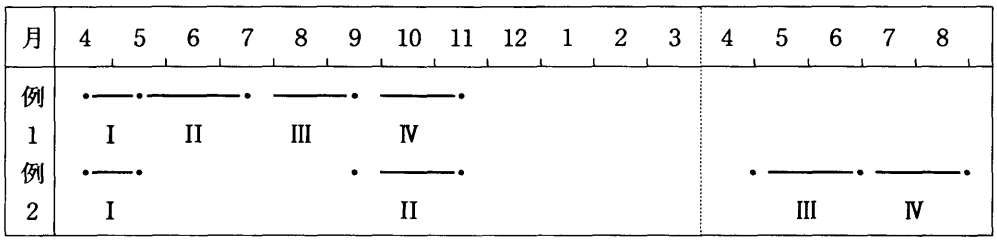
〔　注　〕

(1) 講座Ⅰについては、講座修了者と同等の技術を有すると所長が認めた場合は省略することができる。

(2) 各講座の取得方法および実施時期は研修員派遣期間と協議の上決定する。

（ 参 考 ）

受 講 例



（別紙様式）

第　　号
平成　　年　　月　　日

三重県埋蔵文化財センター所長　様

町村教育委員会教育長　印

研 修 希 望 調 書

埋蔵文化財発掘調査技術町村職員研修を次のとおり希望します。

希望する講座名				
研修派遣期間		年　月　日から　年　月　日まで		
研修希望職員	ふりがな 職氏名		性別	男・女
	生年月日（年齢）	（　　歳）		
	現職年数	年　（　　年　月　以来）		
	最終学歴	学校名（　　学部　　学科）		
	発掘調査経験 （参加遺跡名）	有　無 （　　）		
その他希望事項				

Ⅳ．資料の整理・保管・公開

1．資料の整理・保管

平成９年度の各事業別遺物出土量の概数は下表のとおりであり、その整理は埋蔵文化財センター及び受託事業現場整理所で行っている。出土遺物の保管については、原則として再検討・貸出等利用頻度の高いものを埋蔵文化財センター収蔵庫に、その他のものは各収納倉庫に保管している。

一方、実測図面・写真フイルム類についても出土遺物と同様に整理保管し、必要に応じて貸出等に対応している。また、受贈図書は約1,900冊あり、図書室に分類保管して職員の利用に供している。

〔平成９年度出土品量（概数）〕

事業		平成９年度出土量
公共事業		1，978
受託事業	東海環状	170
	中勢道路	246
	松多バイパス	304
	第二名神	14
	香良洲	10
センター分計		2，722
斎宮跡		464
合計		3，186

※数量はコンテナ（55cm×35cm×15cm）による。

〔出土遺物保管状況〕

施設		遺物保管量
収納倉庫	桜橋	19，470
	桜橋（仮設）	8，360
	藤方	7，019
	上野	3，200
受託現場整理所（一時時保管）	東海環状	810
	中勢道路	4，015
	松多バイパス	1，638
	香良洲	56
	第二名神	35
仮設収蔵庫	センター	3，839
収蔵庫２	センター	6，505
センター分計		54，947
収蔵庫２	斎宮	11，463
合計		66，410

2．科学的保存処理

埋蔵文化財センターには、出土遺物の保存処理を実施するため保存科学室１（木製品保存処理）にＰＥＧ樹脂含浸装置２基、保存科学室２（金属製品保存処理）に減圧樹脂含浸装置１基ほかが設置されている。

また、中勢道路整理所にＰＥＧ含浸装置１基が設置されている。現在のところ専任の担当職員は配置していないが、保存処理技術を研修した職員等が保存処理にあたっている。

3．資料の公開

○　出版物の発行

発掘調査報告書・概報・埋蔵文化財展図録のほかに『三重県埋蔵文化財センター研究紀要７』『三重県埋文センター通信みえ』No22～24等を発行し、関係機関等へ配布している。

○　現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し文化財保護への理解を深めていただくため、現地説明会を開催しその調査結果について報告を行っている。当埋蔵文化財センターが調査主体となった発掘調査にかかる現地説明会は下表のとおりであり、毎回多数の人々の参加を得ている。

〔現地説明会一覧〕

遺跡名	所在地	担当課	開催日	参加人数
下之川富田遺跡	一志郡美杉村下之川	調査第一課	H9．7.12	100名
道瀬遺跡（スライド上映会）	北牟婁郡紀伊長島町道瀬	調査第一課	H9．8．9	70名
高茶屋大垣内遺跡	津市城山	調査第一課	H9．9．6	100名
コドノＢ遺跡	多気郡明和町上村	調査第一課	H9．9．6	30名
弐ノ坪遺跡	津市野田	調査第二課	H9．9．6	80名

横地高畑遺跡(スライド上映会)	松阪市横地町	調査第一課	H9.10. 9	50名
天花寺北瀬古遺跡・天花寺城跡	一志郡嬉野町天花寺	調査第一課	H9.10.18	150名
上惣作遺跡	員弁郡北勢町阿下喜	調査第二課	H9.10.25	100名
中出向遺跡	名賀郡青山町羽根	調査第一課	H9.11. 1	100名
堀町遺跡（第４次）	松阪市朝田町	調査第二課	H9.11. 1	80名
高茶屋大垣内遺跡(スライド上映会)	津市城山	調査第一課	H9.11.13	360名
琵琶垣内遺跡（遺物展示会）	松阪市豊原町	調査第一課	H9.11.16	150名
縁通庵遺跡（スライド上映・遺物展示会）	多気郡勢和村片野	調査第一課	H9.11.20	50名
笹遺跡（遺物展示会）	一志郡一志町井生	調査第一課	H10. 1.23	30名
西山遺跡（遺物展示会）	一志郡香良洲町香良洲	調査第二課	H10. 1.19 ～26	500名
（歴史教室）			H10. 1.26	55名
高茶屋大垣内遺跡	津市城山	調査第一課	H10. 2.28	120名
合	計		１４遺跡 １６件	2,105名

○　三雲町中央公民館での展示

埋蔵文化財に対する理解と保護思想等の普及・啓蒙をはかるために、県が実施した本年度の発掘調査の中から、三雲町とその周辺で行われた９遺跡の発掘調査で出土した遺物の展示を１月３１日～２月１１日の会期で、三雲町中央公民館において行った。展示初日には、スライド上映と発掘調査の説明会も開催した。説明会の参加数は、約150人であった。

○　斎宮歴史博物館エントランスホールでの展示

上記と同様の趣旨で、県が実施した平成９年度の発掘調査の一つである一志郡嬉野町小谷赤坂遺跡から出土した絵画土器等の出土品および写真パネル等を３月１２日から２９日まで展示した。

また、斎宮歴史博物館の特別展「そして土器は運ばれた」期間中に特別展示室において、津市の高茶屋大垣内遺跡から出土した「美濃」刻印須恵器を１月３１日から２月１５日まで追加展示した。

○　三重県埋蔵文化財発掘調査速報展

平成８年度の三重県下の発掘調査の結果を展示し、広く県民に公開するために、三重県埋蔵文化財発掘調査速報展を行うことになった。第６回目である平成９年度は、関係各機関のご協力を得、斎宮歴史博物館特別展示室を会場として、平成９年７月22日（土）～８月24日（日）までの会期で実施した。会期中の入場者数は、約3,150人であった。

第６回　三重県埋蔵文化財発掘調査速報展開催要項

１．目　的　①　平成８年度に県下で実施された発掘調査の成果を、広く県民へ速やかに公開するため。
②　埋蔵文化財がわが国の歴史・文化の正しい理解と文化の向上発展のために、貴重な遺産であることを、県民へ普及啓発するため。
③　県民に対して埋蔵文化財保護への理解と協力を求めるため。
④　なおいっそうの県民文化の向上に努めるため。

２．主　催　三重県埋蔵文化財センター

３．期　間　平成９年７月２２日（土）～８月２４日（日）　９：30～17：00（入館は16：30まで）
ただし、月曜日は博物館休館日のため休展

４．場　所　斎宮歴史博物館　特別展示室（多気郡明和町竹川503番地）

５．展示テーマ　「'96発掘三重」－その祈りとまつりの世界－

６．主な展示資料

石薬師東古墳群出土遺物	蔵田遺跡出土遺物	安濃津遺跡群出土遺物
前田町屋遺跡出土遺物	堀町遺跡出土遺物	中の坊遺跡出土遺物
内垣外遺跡出土遺物	粥見井尻遺跡出土遺物	斎宮跡出土遺物
貝蔵遺跡出土遺物	下ノ庄東方遺跡出土遺物	片部遺跡出土遺物
御墓山窯跡出土遺物	覚正垣内遺跡出土遺物	位田遺跡出土遺物
中出向遺跡出土遺物	山奥遺跡出土遺物	宮地中世墓群出土遺物
櫛田地区内遺跡群奥ノ垣内地区出土遺物		

７．入館料　速報展に関してのみ無料

○　三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は、昭和56年度から三重県教育委員会が主催して、各市町村を会場に毎年実施してきた。平成元年度からは埋蔵文化財センターが主催し、三重県が実施した発掘調査の成果および市町村主体の発掘調査の成果を展示して広く県民に公開し、生涯教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努め

ている。平成９年度は第17回目を迎え、三重県埋蔵文化財センター・松阪市教育委員会の主催で松阪市文化財センターを会場に、平成９年11月６日（木）から11月24日（月）までの会期で実施した。今回は「三重の埴輪」というテーマで、三重県内から出土した古墳時代の埴輪を展示した。入場者は約2,500人であった。

第１７回　三重県埋蔵文化財展開催要項

１．開催趣旨

埋蔵文化財と各種開発との円滑な調査がより強く求められる中、三重県においても各種開発事業に伴う発掘調査は近年増加の一途をたどり、一方では貴重な文化財が年々多数出土している。それとともに、出土した、埋蔵文化財についての県民への普及、還元についても、情報公開の流れのなかでより強く求められている。本展示会は、松阪市教育委員会と共催で行い、三重県内の発掘調査において出土した古墳時代の埴輪を展示し、埴輪資料からみた東西日本の文化交流を探るとともに、県民文化の向上と埋蔵文化財保護思想の普及啓発を図るものである。

２．主　催　　三重県埋蔵文化財センター・松阪市教育委員会
３．協　賛　　松阪教育事務所管内市町村教育委員会
４．期　間　　平成９年１１月６日（木）～１１月２４日（月）　（月曜休館）１９日間
　　午前９時３０分～午後４時３０分
５．会　場　　松阪市文化財センター展示室　　松阪市外五曲り町１番地
６．展示テーマ　「三重の埴輪」
７．記念講演会
　・日時　　平成９年11月15日（日）　14:00～16:00
　・場所　　サンライフ松阪
　・講師　　同志社大学歴史資料館学芸員　辰巳　和弘氏
　　演題「形象埴輪の世界」
８．入場料　　埋蔵文化財展・記念講演会ともに無料
９．主な展示資料

遺跡名	資料名	所蔵者
鈴鹿市　岸岡山古墳群	家形埴輪	個人
石薬師東古墳群	馬形埴輪・人物埴輪	三重県埋蔵文化財センター
寺谷古墳群	器財埴輪・鶏形埴輪・人物埴輪・家形埴輪	鈴鹿市教育委員会
石塚遺跡	器財埴輪	鈴鹿市教育委員会
白鳥塚古墳	器財埴輪	鈴鹿市教育委員会
亀山市　木ノ下古墳	家形埴輪・人物埴輪	三重大学
能褒野古墳	円筒埴輪	個人
津市　門脇北古墳	器財埴輪・家形埴輪	三重県埋蔵文化財センター
稲葉古墳群	鶏形埴輪・人物埴輪	津市教育委員会
藤谷埴輪窯	家形埴輪・器財埴輪・馬形埴輪・人物埴輪	津市教育委員会
坂本山古墳群	二重口縁壺型埴輪	津市教育委員会
安濃町　明合古墳群	器財埴輪・線刻入円筒埴輪	津市教育委員会
迎山遺跡	器財埴輪	三重県埋蔵文化財センター
三雲町　前田町屋遺跡	二重口縁壺型埴輪	三重県埋蔵文化財センター
中ノ庄古墳	家形埴輪・馬形埴輪・人物埴輪	三重県埋蔵文化財センター
嬉野町　堀田遺跡	円筒埴輪	三重県埋蔵文化財センター
松阪市　深長古墳	二重口縁壺型埴輪	三重県埋蔵文化財センター
大足遺跡	二重口縁壺型埴輪	三重県埋蔵文化財センター
宝塚古墳群	二重口縁壺型埴輪・器財埴輪・鶏形埴輪・馬形埴輪	松阪市教育委員会
坊山古墳群	円筒埴輪	松阪市教育委員会
高田古墳群	円筒埴輪	松阪市教育委員会
常光坊谷古墳群	家形埴輪・人物埴輪	松阪市教育委員会
駅部田古墳群	家形埴輪	松阪市教育委員会
口南戸古墳	家形埴輪	松阪市教育委員会
弥三郎新畑A古墳	器財埴輪	松阪市教育委員会
八重田古墳群	器財埴輪・馬形埴輪・人物埴輪	松阪市教育委員会
阿児町　おじょか古墳	器財埴輪	阿児町教育委員会
名張市　女良塚古墳	家形埴輪	名張市教育委員会
王塚古墳	家形埴輪	名張市教育委員会
玉塚古墳	器財埴輪	上野市教育委員会
琴平山古墳	器財埴輪	名張市教育委員会
上野市　御墓山古墳	器財埴輪	上野市教育委員会
伊予之丸古墳	器財埴輪	上野市教育委員会
北門古墳群	器財埴輪	上野市教育委員会

4．保管遺物等の貸出・写真等の掲載及び閲覧許可

資　料　名	申　請　者	目　　的	期　間	許可日
貴人塚古墳群出土遺物	三重県学事文書課	「三重県史」資料編（考古）編纂にかかる実測等の調査のため	5／16～12／15	4／21
堀田遺跡他出土遺物閲覧	豊田祥三	卒業論文の研究のため		5／1
粥見井尻遺跡 出土土偶写真	三重県企画振興部地域振興課	地域づくり情報誌『みえＣＯＭ１０号』に掲載のため		5／2
石薬師東古墳群 出土馬形埴輪写真	藤原秀樹	インターネットホームページ「Ｓｕｚｕｋａ考古情報」に掲載するため		5／2
天白遺跡 出土土偶写真	講談社	「歴史発掘」第３巻「縄文の土偶」に掲載のため		5／13
粥見井尻遺跡・天白遺跡他 出土遺物および遺構写真	読売新聞	読売新聞文化面連載記事に掲載のため	5／16～5／31	5／13
明星古墳群・水池遺跡 遺構スライド	下村登良男	講演会に使用のため	5／23～5／25	5／23
粥見井尻遺跡 出土土偶	発掘された日本列島展実行委員会	「発掘された日本列島'97」に展示および図録掲載・ビデオ撮影のため	5／23～1／31	5／29
本郷遺跡 遺構　スライド	増田安生	ひささ池説明会で使用のため	5／29～6／3	5／29
粥見井尻遺跡 出土土偶他写真	(株)ジャパン通信センター	「発掘された日本列島'97」会場でのビデオ放映および有料頒布のため	6／3～1／31	6／3
中の坊遺跡 遺構写真	漕代土地改良区	漕代土地改良区広報に掲載のため	6／9～6／23	6／9
井田川茶臼山古墳 出土遺物　フィルム	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	常設展示のグラフィックパネル、展示解説映像に使用のため		6／17
粥見井尻遺跡 出土土偶写真	(株)キャデック	「どきどきパラダイス」10月号に掲載のため	6／18～7／22	6／17
千里ケ丘遺跡 出土和銅開珎	河芸町立図書館	夏期特別企画　埋蔵文化財展「古代の出土」に展示のため	7／8～8／8	6／20
木下古墳・谷山古墳他 出土遺物および遺構写真	亀山市歴史博物館	第１１回企画展「小学生・中学生のための夏休み博物館」の写真パネル作成のため	6／12～7／16	6／20
図書の閲覧	岩崎幸巳	個人研究のため		7／9
丹生川上城跡 出土遺物写真	朝日町教育委員会	歴史博物館展示図録及びリーフレット掲載のため		7／15
石薬師東古墳群 出土馬形埴輪写真	三重県消防学校	「月刊消防」の三重県消防学校紹介に掲載のため		7／15
ボーリング調査・地質・土質調査資料の閲覧	三重県環境安全部消防防災課	「布引山地東縁断層帯」に関する調査の参考資料とするため。		7／23
水池土器製作遺跡 カラースライド及び白黒ネガ	明和町教育委員会	明和町ふるさと会館特別展で使用のため	8／4～8／31	8／4
奈可切・森山東遺跡他 出土遺物及びカラースライド	飯南町教育委員会	「飯南町歴史探訪」で使用のため。	8／7～8／11	8／6
城之越遺跡　出土遺物・発掘調査風景写真およびビデオ	上野市教育委員会	城之越遺跡学習館内の展示およびパンフレットに掲載のため。	8／13～9／30	8／13
ヒタキ廃寺 出土鬼瓦カラーポジ	株式会社創童舎	東北電力株式会社発行の広報誌「白い国の詩」に掲載のため。	8／13～9／30	8／13
井田川茶臼山古墳 出土遺物および写真	埼玉県立さきたま資料館	「古墳時代の馬の装い－さきたまに馬がやってきた！」に展示及び図録へ掲載のため	10／7～12／14	8／13
浄土寺南・前田遺跡他 出土遺物および写真パネル	安濃町教育委員会	「安濃町の弥生時代展」で展示のため	8／13～8／27	8／13

中ノ庄遺跡 出土　壷　写真	株式会社講談社	「歴史発掘」第6巻「弥生の世界」に掲載のため		8／13
カウジデン・杉垣内遺跡他 出土遺物閲覧	森川公重	卒業論文作成のため		8／13
向山2・6号墳・横枕2号墳 出土遺物　閲覧	笠井賢治	「古代土器研究会例会」発表資料作成のため		8／27
岩出遺跡群 出土遺物および写真	斎宮歴史博物館	「中世の斎宮－斎王と中世王権－」に展示および図録等への掲載のため	9／24～ 12／12	9／4
粥見井尻遺跡・松葉遺跡他 出土遺物および遺構写真	奥　義次	「勢和村史　通史編」に掲載のため		9／4
六大A遺跡出土遺物写真	読売新聞津支局	読売新聞に掲載のため		9／4
城之越遺跡 遺物出土状況他ネガ	上野市教育委員会	城之越遺跡学習館内に展示する写真パネル作成のため。	9／4～ 9／30	9／4
多気遺跡群出土遺物	中井淳史	博士論文作成のため		9／4
安濃津遺跡群 遺構写真	津市埋蔵文化財センター	明応7年地震500年　啓発事業に使用のため	10／1～ H.11.3／31	9／26
川原井瓦窯跡・土師南方遺跡 出土遺物	鈴鹿市教育委員会	実測のため	10／7～ 10／16	10／7
伊賀国府跡 出土　木簡写真	上野市教育委員会	企画展「古代の文字」に展示のため	10／7～ 10／17	10／7
宮の越遺跡・前田町屋遺跡 出土遺物	三雲町教育委員会	三雲郷土史研究会に展示のため	10／29～ 11／6	10／27
天華寺廃寺　出土　塼仏写真	株式会社学生社	「仏像集成」に掲載のため		10／27
北野遺跡 土師器焼成坑写真	株式会社新創社	「別冊歴史読本　立体復原　暮らしと技術の日本史」に掲載のため		10／29
粥見井尻遺跡 出土　土偶写真	株式会社日本教育センター	「歴史の資料」に掲載のため		10／29
薮ノ下・鴻ノ木遺跡他 出土遺物	三重大学	三重大学　芸術文化フェスティバルに展示のため	11／19～ 11／26	11／18
石薬師東古墳群　出土遺物・遺構写真および馬形埴輪撮影	朝日新聞社・アサヒグラフ	『アサヒグラフ』「古代史発掘総まくり」に掲載のため	H.10.1／6 ～2／27	12／8
六大A・落合古墳群他 出土遺物・写真	斎宮歴史博物館	企画展「そして土器は運ばれた－土器に見る人と文化の交流」に展示のため	1／6～ 2／27	12／8
納所・城之越遺跡他 出土遺物・写真	松阪市教育委員会	企画展「埋もれていた木器たち」に展示するため	12／8～ 3／31	12／8
納所遺跡 出土　壷	宮城県教育委員会	東北歴史博物館（仮称）での展示資料としての複製品製作のため	12／10～ 2／20	12／10
井田川茶臼山古墳 出土遺物の閲覧	大音英徳	卒業論文作成のため		12／19
安濃津遺跡群 遺構写真	津実業高等学校同窓会	津実業高等学校同窓会50周年記念事業にかかる記念誌に掲載のため		12／19
亀井遺跡 出土　双脚壷　写真	津市教育委員会	「埋文センターニュース」第7号に掲載のため		12／22
北野・曽祢崎遺跡他 出土遺物の提供	愛知県埋蔵文化財センター	土器胎土分析の試料とするため		12／22
安濃津遺跡群 遺構写真	読売新聞中部本社・津支局	読売新聞に掲載のため		12／26
粥見井尻遺跡・大鼻遺跡 出土土偶および写真	大阪府立弥生文化博物館	特別展「縄文と弥生のまつり」（仮称）に展示及び図録等への掲載のため	写真1／8～1／31 遺物4月中～7月中	1／5

遺跡現地説明会・土器接合作業　写真	三重県総合教育センター	マルチメディア教材としてインターネットで教員及び児童生徒に提供するため	1／7～1／30	1／6
六大A遺跡（C地区）出土縄文晩期凸帯文土器片	津市埋蔵文化財センター	「埋文センターニュース」第7号に掲載のため	撮影日1月中旬	1／6
東浦遺跡他出土遺物写真	津市埋蔵文化財センター	「埋文センターニュース」第7号に掲載のため		1／23
蚊山遺跡全景パネル写真	日本道路公団名古屋建設局	「フォーラム　群馬創造　豊かな未来へ」の会場での展示に使用のため	1／26～3／31	1／26
石薬師東古墳群出土馬形埴輪写真	発掘された日本列島展実行委員会	「発掘された日本列島展」展示解説図録及びパネル作成のため	1／31～H.11 1/31	1／28
石薬師東古墳群出土馬形埴輪写真	株式会社　世界通信社	「世界通信　教材科学ニュース」『発掘総集編　'97』に掲載のため	2／2～2／20	2／2
縁通庵遺跡出土遺物の閲覧	岡田義樹	個人研究のため		2／2
中ノ庄遺跡調査区全景写真	朝日新聞社出版局	「週刊朝日百科　日本の国宝」第83号に掲載のため		2／4
東庄内A遺跡	岡田義樹	個人研究のため		2／12
六大A遺跡遺構写真および図版	有限会社　新創社	別冊歴史読本『記・紀と万葉集』（仮題）に掲載のため	2／16～3／15	2／13
納所遺跡出土紡錘車および写真	静岡市立登呂博物館	特別展　登呂の時代シリーズ「コメづくりの中の漁り－弥生農耕の周辺－」の図録及び展示に使用のため	写真2／13～4／15遺物3／26～6月上旬	2／13
粥見井尻遺跡　出土土偶写真	百五銀行	『すばらしきみえ』1998 4月号掲載のため		2／23
権現坂・覚正垣内遺跡他出土遺物写真	社団法人中部建設協会	協会内業務情報紙「CKK業務情報紙」に掲載のため		2／23
城之越遺跡遺構写真	株式会社昭和堂	武居二郎ほか編「庭園史を歩く」（仮題）に掲載のため		3／6
高茶屋大垣内遺跡　遺構写真	東洋経済日報社	東洋経済日報の記事に掲載のため		3／9
落合古墳群出土遺物写真	雄山閣出版株式会社	中村浩「古墳出土須恵器集成」口絵掲載のため		3／9
北野・本郷・西出遺跡出土遺物・遺構写真	明和町教育委員会	明和町制40周年記念誌に掲載のため	許可日～1ヵ月	3／16
石薬師東古墳群出土馬形埴輪　写真	栃木県立博物館	平成10年度「発掘された日本列島'98」栃木県立博物館にかかる広報のため	3／26～4／24	3／25
上ノ垣内・宮山遺跡他出土遺物	松阪市教育委員会	企画展「石・石文化を語る」	4／10～10／12	3／30

5．保管遺物等の長期貸出

資料名	申請者	目的
起A遺跡出土弥生土器及び炭化米	鈴鹿市教育委員会	稲生民俗資料館での常設展示に使用
多気遺跡群出土瓦等　13点	美杉村教育委員会	美杉ふるさと資料館での常設展示に使用
落川原遺跡出土石帯　1点	四日市市立博物館	常設展示での使用
山王遺跡出土遺物　66箱	桑名市教育委員会	資料公開及び市民への文化財保護意識の普及・啓蒙 埋蔵文化財整理室にて利用
出土品保管ケース　3点	県立神戸高等学校	出土品保管管理
正知浦遺跡出土有舌尖頭器等　298点	亀山市歴史博物館	亀山市歴史博物館常設展示に使用
陶器壷蓄銭容器等　157点	地方職員共済組合三重県支部	榊原保養所神湯館に展示

寺垣内遺跡出土弥生土器　5点	明和町教育委員会	ふるさと会館で展示
丹生川上城跡出土白磁小壷等　11点	朝日町教育委員会	朝日町教育文化施設内歴史博物館の常設展示に使用
井尻遺跡・若宮遺跡出土土器等　23点	勢和村教育委員会	勢和村ふるさと交流館内村立資料館の常設展示に使用
城之越遺跡　出土土器等　15点	上野市教育委員会	城之越遺跡　城之越学習館の展示に使用

6．斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧

遺跡名	遺物名
大安中世墓	蔵骨器(3)、蔵骨器蓋(2)、五輪塔（1式）
丹生川上城跡	蔵骨器(1)
西ケ広遺跡	異形硯(1)
東庄内A遺跡	縄文土器：深鉢(1)
東庄内B遺跡	縄文土器：台付鉢(1)　壷棺墓：壷(1)　甕(1)　台付鉢(1) 方形周溝墓出土：壷(1)　石器：石包丁(1)
上箕田遺跡	直柄鋤(2)
神大寺遺跡	石器：石斧(1)
川原井瓦窯	伊勢国分寺式軒丸瓦(1)　軒丸瓦(1)
川原井遺跡	灰釉陶器：浄瓶(1)
柴崎遺跡	土製勾玉(1)、朱(1)、土師器：壷(1)
大鼻遺跡	土偶(1)、子持勾玉(1)
井田川茶臼山古墳	須恵器：器台(5)　台付壷(4)　壷(7)　甕(1)　装飾台付壷(1) 有蓋高杯(2)　有蓋高杯蓋(2) 土師器：壷(1) 馬具：杏葉(4)　鏡板(2)　辻金具(2)　銅鈴(1)
上椎ノ木古墳	四神鏡(1)、石製壷(1)、石釧(1)、勾玉(5)、管玉(34)
木下古墳	獣帯鏡(1)
柳垣内遺跡	蔵骨器(1)
大塚古墳	水晶切子玉(11)　玉管玉(4)
浄土寺南遺跡	円面硯(1)
納所遺跡	弥生土器：彩文壷(1)　黒色壷(1)　手焙型土器(1)　パイプ型土器(1)　壷(1) 片口鉢(1)　台付壷(1) 木製品：琴(1)　箆状木製品(1)　木鐸(1)　斧の柄(2)　鋤(4)　鍬(2) 直柄鋤(1)　櫛(1)　石器：石斧(6)　石包丁(4)　石小刀(3)
亀井遺跡	双脚壷(1)
太田遺跡	銅鐸型土製品レプリカ(1)
鳥居本遺跡	方形周溝墓：壷(1)
午前坊遺跡	甕壷(1)
堀ノ内遺跡	縄文土器：深鉢(1)
天華寺廃寺	塑像(1)　塼仏(20)、軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)、ヘラ描き軒平瓦(1)
東野遺跡	線刻礫(1)
堀田遺跡	円面硯(1)
中ノ庄遺跡	馬型埴輪(1)、朝顔形埴輪(1)、人物埴輪(1)
杉垣内遺跡	石器：石包丁(1)　木製品：人形(2)　櫛(1)　斎串(11) 土馬(4)、ミニチュア土器：壷(7)
伊勢寺廃寺	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
深長古墳	土師器：壷（1）
横尾墳墓群	経筒容器(2)、経筒容器蓋(1)、五輪塔(1)、石仏(1)
養徳寺遺跡	柿経（1式）
崎谷遺跡	五輪塔(1)、石仏(2)
牧瓦窯	軒丸瓦(1)、軒平瓦（1）
牧中世墓	石仏(1)
河田古墳群	土師器：高杯(3)　甕(1)、須恵器：杯蓋(2)　杯身(2)　高杯(2)　壷(3)
東裏遺跡	土師器：杯「中臣」(1)　椀(1)　青磁：椀(1)
カウジデン遺跡	土馬(1)　土師器：杯「中万」(2)、灰釉陶器杯「中万」(1) 黒色土器：椀(1)
神前山古墳	円筒埴輪(1)、須恵器：二重蕨(1)　鳥形蕨(1)
寺垣内遺跡	独鈷石(1)
西出遺跡	土板(1)
大薮遺跡	方形周溝墓：壷(1)
樋ノ谷遺跡	玦状耳飾(1)
東畑中世墓	蔵骨器(2)
東山古墳	土師器：高杯(1)　器台(1)、四獣鏡(1)、銅鏃(3)、鉄斧(2)　鉄剣(1)
北堀池遺跡	木製品：槌(1)　鍬(3)　剣型木製品(1)　舟型木製品(2)、円面硯(1)
北切遺跡	方形周溝墓：壷(1)
前山古墳	銀象嵌刀装(2)
小上野西谷遺跡	土製勾玉(1)
歌野遺跡	製塩土器(2)
辻垣内遺跡	縄文土器深鉢(1)

Ⅴ．行政資料

１．公共工事の実施と埋蔵文化財の保護に係わる連絡調整体制の整備について

庁保記第１８３号
平成９年８月７日

各都道府県教育委員会教育長　殿

文化庁次長
遠藤　昭雄　印

公共工事の実施と埋蔵文化財の保護に係わる連絡調整体制の整備について（通知）

埋蔵文化財関係の保護を図りつつ、開発事業を円滑に進めるためには、開発関係部局と文化財保護担当部局との連絡調整を緊密に行うことが必要であります。このため、これまで、昭和56年７月24日付け庁保記第17号、昭和60年12月20日付け庁保記第102号、平成５年11月19日付け庁保記第75号及び平成８年10月１日付け庁保記第75号で通知してきたところであり、これらの通知を踏まえ、貴教育委員会及び貴管下各市町村（特別区を含む。以下同じ。）教育委員会並びに関係機関の御努力により、逐次必要な措置が講じられているところであります。

しかしながら、この点については、「公共工事コスト縮減対策に関する行動指針」（平成９年４月４日公共工事コスト縮減対策関係閣僚会議策定）及び文教施設における公共工事コスト縮減対策について」（平成９年４月22日付け文施指第144号文部事務次官通知）において、公共工事に係る埋蔵文化財の取扱い等に関し、公共工事担当部局と文化財保護担当部局との連絡調整システムの整備を行うよう求められているところであり、公共工事担当部局と文化財保護担当部局との連絡調整について、なお一層の改善を図る必要があると考えられます。ついては、貴教育委員会におかれては、下記の事項に御留意の上、公共工事に伴う埋蔵文化財の取扱い等に係る公共工事担当部局との連絡調整体制を早急に整備されるようお願いします。

おって、上記の「公共工事コスト縮減対策に関する行動指針」及び文教施設における公共工事コスト縮減対策について」においては、その実施状況のフォローアップを行い、公共工事コスト縮減関係閣僚会議に報告することとなっていますのでご承知おき願います。

なお、本通知については、公共工事担当省庁と協議済みのものであり、文化庁では併せて、各都道府県知事宛に、各都道府県の公共工事担当部局が教育委員会へ協力するよう依頼するとともに、公共工事担当省庁に対して関係地方支分部局等の公共工事担当部局が教育委員会へ協力するよう依頼していることを申し添えます。

記

１　国・都道府県等の行う・公共工事に係わる埋蔵文化財の取扱いに関する連絡調整体制

公共工事に係わる埋蔵文化財の適切な取扱いのためには、公共工事担当部局と文化財保護担当部局との連絡調整を一層緊密にする必要がある。

このため、各都道府県教育委員会は、別図を参考にして、国、公団、都道府県、都道府県の公社が発注する公共工事に伴う埋蔵文化財の取扱いに関し、教育委員会とこれらの公共工事担当部局との定期的な連絡調整の場を設け、以下の様な措置を講ずること。

（1）事業計画等の情報交換

教育委員会は、公共工事担当部局に対し、埋蔵文化財に関する情報提供を行うとともに、公共工事担当部局の今後の事業計画について情報収集を行い、当面の予定のみならず、計画の初期段階にあるものも含め、できる限り長期間にわたっての事業の計画を把握するよう努めること。

（2）埋蔵文化財の取扱い等に関する協議

教育委員会は、把握した事業予定地のうち、必要なものについては、できる限り速やかに現地踏査、試掘調査・確認調査により埋蔵文化財包蔵地の有無及び、その内容を確認し、その結果を公共工事担当部局に示すこと。

事業予定地に埋蔵文化財包蔵地の存在が確認された場合は、当該埋蔵文化財の保存の要否、発掘調査を要する場合の発掘調査範囲、期間や経費の見積もり等を含め、その取扱いについて協議を行うこと。

（3）次年度調査体制等に関する調整

公共工事担当部局の事業実施計画を踏まえ、発掘調査を実施する日程・体制について調整を行うこと。

2　市町村の行う公共工事に係わる埋蔵文化財の取扱いに関する連絡調整体制

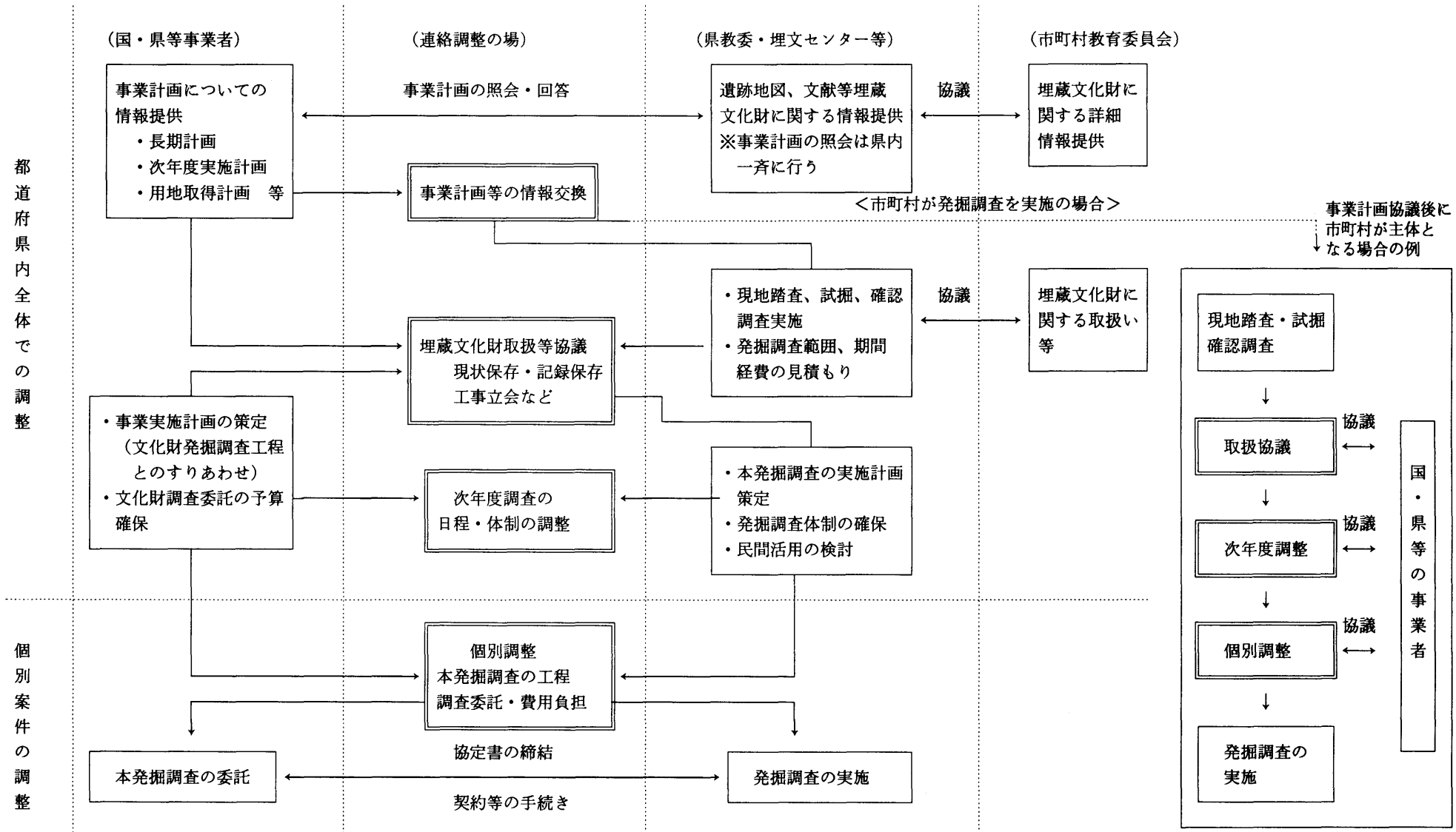
各都道府県教育委員会は、市町村が発注する公共工事に伴う埋蔵文化財の伴う取扱いに関し、1に準じて、各市町村教育委員会が当該市町村の公共工事担当部局との連絡調整体制を整備し、その取扱いを適切に行うよう指導すること。

3　その他

（1）連絡調整のスケジュールについては、各都道府県の実状に応じて適宜定めるが、次年度の埋蔵文化財調査の円滑な実施に支障を生じないよう配慮すること。

（2）連絡調整の場においては、発掘調査に伴い出土した文化財の展示等、発掘調査の成果を活用することについても、積極的に検討を行うこと。

都道府県における連絡調整の進め方の例



注１　本調査の進行に伴い、工程の見直し、埋蔵文化財取扱の再検討の必要により、再度調整を要する場合がある。

注２　市町村教育委員会が調査を担当する事業については、都道府県教育委員会と市町村教育委員会が協議の上、市町村教育委員会が国・県等事業者と調整を行う。

2．出土品の取扱いについて

庁保記第１８２号
平成９年８月１３日

各都道府県教育委員会教育長　殿

文化庁次長
遠藤昭雄　印

出土品の取扱いについて
（通知）

発掘調査等による出土品に関しては、文化財保護法（昭和２５年法律第２１４号。以下「法」という。）第６３条第１項の規定により国庫に帰属した出土品について、「出土文化財取扱要領」（昭和５５年２月２１日付け文化庁長官裁定）により、出土品のうち国で保有するものの選択基準、法第６４条第１項又は第３項の規定に基づく出土品の譲与と譲与後の取扱い、国で保有しているものの貸付け等について定め、これに即して「出土文化財の取扱について」の通知（昭和５５年２月２１日付け庁保記第１２号。文化庁次長から各都道府県教育委員会教育長あて通知）により、国が保有した出土品及び譲与された出土品の取扱いについて指導を行ってきたところであります。

しかしながら、近年、出土品は、開発事業等に伴う発掘調査事業量の増大に比例して増加し続けており、既に収蔵されているものも含めて、その取扱いは文化財保護行政上の大きな課題とされております。

このため、当庁では、出土品の取扱いの在り方について、「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」において検討を行ってきたところでありますが、平成９年２月の同委員会報告「出土品の取扱いについて」（以下「報告書」という。）を踏まえ、出土品全体の取扱いに関し、別紙のとおり「出土品の取扱いに関する指針」（平成９年８月１３日文化庁長官裁定。以下「指針」という。）を定めました。

ついては、出土品の取扱いに関しては、今後、この「指針」に従い、下記により行うこととしますので、貴教育委員会におかれては、出土品の適切な保存・活用に必要な措置を講ずるとともに、貴管下の市町村（特別区を含む。以下同じ。）の教育委員会その他の関係機関に対し、このことを御伝達の上、出土品の具体的な取扱いに関する指導・調整等につき遺漏のないよう御配慮ください。

なお、この通知により昭和５５年２月２１日付け庁保記第１２号の通知は廃止することとしますので、ご承知おきください。

記

1　出土品の取扱いに関する基本的な考え方（「指針」１関係）

出土品の文化財としての取扱いについては、次に掲げる基本的な考え方により、具体的な措置を執ることとされたい。

（ア）出土品については、一定の基準に基づき、将来にわたり文化財として保存を要し、活用の可能性のあるものとそれ以外のものとに区分し、その区分に応じて保管・管理その他の取扱いを行うこと。

（イ）上記（ア）の区分により保存・活用の必要性・可能性があるとされた出土品については、その文化財としての重要性・活用の状況等に応じて、適切な方法で保管・管理を行うこと。

（ウ）出土品の活用については、専用施設における展示・公開等の従来の方法にとらわれず、広範な方途により積極的に行うこと。

（エ）法第６３条第１項の規定により国庫に帰属した出土品は、法第６４条の規定により、その保存のため又は効用からみて国において保存・活用を行う必要がある場合は国が保有し、それ以外の場合は地方公共団体等に譲与すること。

（オ）国で保有した出土品については、その活用のために必要があるときは、地方公共団体等に対して貸し付けることができること。

各都道府県教育委員会においては、この基本的な考え方に従い、以下の各項目について、各地域の歴史的特性等に応じた具体的な基準を定めること等により、出土品の適切な保存・活用を進めることができるように措置されたい。

2　保存・活用の必要性・可能性がある出土品等の区分（「指針」２関係）

（１）区分に関する基準

将来にわたり保存・活用を図る必要性・可能性のある出土品とそれ以外のものとの区分については、一定の基準に即して行う必要がある。

したがって、各都道府県教育委員会においては、次に示す諸要素を総合的に勘案し、かつ、各地域の歴史的特性や関連の学問分野等に係る要素を加えて、区分に関する具体的な基準を定めることとされたい。

①種類：出土品の種類・性格による分類の要素
②時代：出土品が製作され、又は埋蔵された時代の要素
③地域：出土品が出土した場所、地方又は歴史的・文化的区域の要素
④遺跡の種類・性格：出土した遺跡の種類・性格の要素
⑤遺跡の重要度：出土した遺跡の重要度の要素
⑥出土状況：出土の状況、特に遺構との関係に関する要素
⑦規格性の有無：出土品が型作り等による規格品・大量生産性であるか否かの要素
⑧出土量：同種・同型・同質の出土品の出土量の要素
⑨残存度・遺存状況：出土品の残存・保存の程度の要素
⑩文化財としての重要性：出土品自体が有している文化財としての性格・重要度の内容・高低の要素
⑪移動・保管の可能性：出土品の大きさ・形状・重さ、それによる移動・保管の可能性の要素
⑫活用の可能性：出土品の将来的な活用の可能性の有無・程度に関する要素

この基準の策定に際しては、前記「報告書」の第２章、２、（２）中の「選択についての標準・方針の要素・視点となる事項」を参照されたい。

なお、この基準については、策定後もその妥当性・有効性について随時検討し、学術的な進歩、社会的認識の変化等に従って、最適なものとなるよう改善していくことが望ましい。

（２）区分の対象等

出土品の区分は、現在収蔵・保管が行われているもの及び今後発掘調査等により出土するものを対象とし、発掘調査の段階、出土品の整理作業の段階、それ以降の段階等において随時行うことが望ましい。

3　出土品の保管・管理等（「指針」３関係）

（１）保管・管理に関する基本的な考え方及び方法

（ア）基本的な考え方

将来にわたり適切に出土品の保存・活用を図り、かつ、保管スペースを効率的に利用していくためには、出土品について、その種類・形状・形態、材質・遺存状況、文化財としての重要性、発掘調査報告書・記録等への登載の有無、整理済み・未整理の別、活用の状況・可能性等の諸要素を総合的に勘案して区分し、その区分に応じて保管・管理の様態をいくつかの種類・段階に分け、適切かつ合理的に保管・管理を行うことが必要である。

このような出土品の区分とそれに対応した保管・管理の在り方としては、次のようなものが考えられる。

①文化財としての価値が高く、展示・公開等による活用の機会が多いと考えられるもの

種類・形状・形態や活用の頻度を考慮し、一般の収蔵庫等とは別の展示・収蔵施設において保管・管理を行うことが考えられる。また、材質・遺存状況において脆弱なもの、特別の保存措置を要するものについては、適切な収納・保管設備、空気調節などの環境調整のための設備の整った施設において保管・管理を行う。

②文化財としての価値、活用の頻度等において①の区分に次ぐもの

保存及び検索・取出しの便と保管スペースの節約を考慮しつつ、収蔵箱に入れ収蔵棚に整理する等、適切な方法で保管・管理を行う。発掘調査報告書に記載されたものとそれ以外のもの、完形品とそれ以外のもの、展示・公開や研究資料としての活用の可能性の大小等の観点で、更に数区分に分けることも考えられる。

③文化財としての価値、活用の可能性・頻度が比較的低いもの

必要があれば取出しが可能な状態で、保管スペースを可能な限り効率的に利用できる方法で収納する。

この場合、出土品の保管・管理は、必ずしも同一遺跡から出土した出土品を同一の地方公共団体等で一か所に一括して保管するという考え方にとらわれる必要はなく、適切かつ合理的な保管・管理の観点から柔軟に対応することが望ましい。

各都道府県教育委員会においては、上記の基本的な考え方に即し、出土品の適切かつ合理的な取扱いについて管下の教育委員会等に対する指導等を含め、配慮されたい。

（イ）適切な保管・管理のための記録の整備・管理

出土品の保管・管理を行う地方公共団体等においては、出土品の適切な管理や活用のため、その名称・内容・数量・発見時期・出土遺跡名、発掘調査報告書への記載状況、保管の主体・場所等に関する記録を作成し、管理する必要がある。

各都道府県教育委員会においては、この趣旨に沿って、出土品の適切な保管・管理について管下の市町村教育委員会その他出土品の保管・管理を行う機関等に対する指導等を含め、配慮するとともに、管下における出土品の保管・管理状況について的確に把握しておくこととされたい。

なお、地方公共団体等へ譲与された出土文化財については、従来、その滅失、き損、所有者又は所在場所の変更について、都道府県教育委員会を経由して文化庁へ報告することとされていたが、この制度は廃止することとした。

（2）保管・管理のための施設・体制の整備等

出土品について適切かつ合理的な保管・管理を行っていくためには、地方公共団体等における必要な施設の充実と専門的知識を有する職員による体制の整備を進める必要がある。

出土品の保管・管理施設としては、従来、各地方公共団体において、埋蔵文化財収蔵庫、歴史民俗資料館、埋蔵文化財調査センター、出土文化財管理センター等が設置されてきているが、当庁では、現在、出土品の保管・管理と展示等の活用のための「埋蔵文化財センター」の建設に対し国庫補助を行っているので、これを活用する等により、今後ともその充実を図ることとされたい。

（3）出土品の廃棄その他の措置と配慮事項

将来にわたり保存・活用を図る必要性・可能性がないとされた出土品については、発掘調査現場から持ち帰らずあるいは埋納、投棄などにより廃棄することができることとなるが、これらの措置は、発掘調査の段階、出土品の整理作業の段階、それ以降の段階等において、発掘調査主体、法第６４条第１項又は第３項の規定による譲与を受けた地方公共団体等が行うこととなる。

これらの措置を執ることについては、後記４による広範な活用の方途を検討した上で、なおかつその可能性のない場合に限る等、慎重な配慮が必要であり、特に地方公共団体以外の者による廃棄等は、関係地方公共団体の教育委員会による指導の下に行われる必要があるので、各都道府県教育委員会においてはこの旨留意の上、適切に措置されたい。

また、廃棄その他の措置を執る場合は、後日、無用の誤解・混乱を生ずることのないよう、対象の出土品の種類・性格・数量等に応じて、何を、どこにおいて、どのような措置を執ったかの概要に関する記録・資料を作成し、保管しておくことが必要である。

各都道府県教育委員会においては、出土品の廃棄その他の措置を執った管下の市町村教育委員会等から上記の記録・資料の提出を受ける等により、管下における取扱いの状況を把握するとともに、出土品の適切な取扱いの確保のため、必要に応じて適宜指導することとされたい。

なお、地方公共団体等による出土品の廃棄は、発見者による当該出土品に係る遺失物法（明治３２年法律第８７号）第１３条で準用する同法第１条の規定による警察署長への差出し（都道府県、指定都市又は中核市の教育委員会の発見に係る出土品については、法第９８条の３第１項で準用する同法第５９条第１項の規定による通知）の時から、法第６４条第１項又は第３項の規定による地方公共団体等への譲与が行われるまでの間は、行うことができないので留意されたい。

4　出土品の活用（「指針」４関係）

（1）活用に関する基本的な考え方

出土品については、埋蔵文化財の保護や発掘調査に対する国民の理解と協力を促進するためにも、国民が様々な機会に種々の方法でこれにふれることができるよう、従来行われている方法による活用を拡充するとともに、出土品の種類・性格に応じた新たな方法を開発し、積極的にその広範な活用を図る必要がある。

このような出土品の活用方法の改善・充実については、出土品の保管・管理を行う地方公共団体等が、次に示す例を参考として、それぞれ有効かつ適切な方途を検討し、実施することが望まれる。

したがって、各都道府県教育委員会においては、出土品の積極的な活用について、出土品の保管・管理を行う管下の市町村教育委員会等に対する指導を含め、配慮されたい。

（ア）博物館等の展示専用施設における活用の改善・充実

博物館や歴史民俗資料館等の展示専用施設における展示については、発掘調査組織と博物館等との連絡・協力関係を強化し、発掘調査の成果を地域に広く公開するため、最新の調査成果を反映した常設展示の更新や速報的

な展示の企画等を積極的に進めること。

また、展示の方法としても、出土品の種類によっては、見るだけでなく直接触れることができるようにする等の工夫も必要である。

（イ）学校教育における活用の充実

出土品は、子ども達が直接、見て、触れながら、地域の歴史や文化を学ぶことができる貴重な資料であるためこれを学校教育における「生きた教材」として、一層積極的に活用すること。

この場合、地方公共団体においては、出土品の提供や資料の作成・提供、埋蔵文化財担当専門職員による説明等の協力を行うことも必要である。

（ウ）地域の住民に対する活用の工夫

市町村役場や公民館等の住民に身近な公共施設における出土品の展示や地域の行事への出品、発掘調査の現地説明会における活用等、地域の住民が直接出土品にふれることができる機会を設けること。

（エ）民間施設を利用した活用

公的な展示専用施設に限らず、例えば発掘調査の原因となった開発事業により建設された施設での展示等、展示専用施設でない民間の施設を有効に利用した活用も積極的に進めること。

（オ）他の地方公共団体等との連携

出土した地域や地方公共団体に限らず、相互交換・貸借により、国内の他の地域における展示・公開あるいは研究資料としての活用を図ること。

なお、我が国の多様な文化と歴史に対する理解を深める上から、外国における展示・公開等も有益であると考えられる。

（カ）学術的な活用の推進

出土品は、文化財としての活用のほか歴史学・考古学等の研究資料としての活用の可能性を有するものでありその研究資料としての活用は、学術の進歩・発展にとっても有効なものであるので、大学、研究機関等における研究活動等における出土品の活用を今後一層拡充すること。

そのためには、各地方公共団体において、大学・研究機関・関係学界との間で、出土品に関する情報提供等のための恒常的な連携・連絡の方途を確保し、出土品を研究資料として提供する等の仕組みを構築することが望ましい。

なお、活用に伴って出土品の交換、譲与、貸出し等を行う場合は、出土品の保管・管理を行う地方公共団体等において、その種類、数量等必要な事項を記録し、適正な取扱いを確保するように配慮されたい。

（2）展示・公開のための施設・体制の整備等

出土品の展示・公開等その積極的な活用の推進のため、地方公共団体、特に市町村においては、必要な施設の設置や既存の施設の充実・改善及び専門職員の配置等による体制の整備を図る必要がある。

また、埋蔵文化財の発掘調査、出土品の収蔵・保管等の拠点となる施設の設置・整備に際しては、発掘調査の成果を住民に還元できるよう、出土品の展示等の活用のための機能にも十分配慮することが必要である。

前記3、（2）の「埋蔵文化財センター」は、このような施設としても有効なものであるので、これを活用されたい。

また、出土品の広範な活用のため、その保管・管理や活用状況について、広報誌・コンピューター利用の情報ネットワークなどを活用して情報発信を図ることについても配慮されたい。

5　出土品の整理の促進

上記のような出土品の区分、適切かつ合理的な保管・管理その他の取扱いを適正に行うためには、出土品の整理を行い、その内容等が的確に把握されていることが必要である。

各都道府県教育委員会においては、発掘調査が出土品の整理を経て報告書の作成をもって完了するものであることを十分認識し、現在未整理のまま収蔵されているものを含めて出土品の整理を推進すること、及び出土品の整理作業のための体制や施設の整備・充実を図ることについて、管下の市町村教育委員会その他の発掘調査を行う機関に対する指導を含め、配慮されたい。

6　出土品の国保有（「指針」5関係）

従来から、保存のため又は効用からみて国において保存・活用を行う必要がある出土品は、国で保有することとしてきたところである。

出土品の国保有については、これまで出土地の関係地方公共団体の協力を得て進めてきたところであるが、今後とも、全国的視野に立って協力するとともに、管下の市町村教育委員会の協力方につき配慮されたい。

なお、国で保有する出土品の選択基準は、従来どおりである。

7　出土品の地方公共団体等への譲与（「指針」６、７関係）

（１）地方公共団体等への譲与の促進

従前から、国庫に帰属した出土品のうち国で保有することとしたもの以外のものについては、その発見者又は発見された土地の所有者（以下「発見者等」という。）が当該出土品に係る法第６３条第１項の規定による報奨金の支給を受ける権利及び法第６４条第１項の規定による譲与を受ける権利を主張していない場合、原則として、法第６４条第３項の規定により、出土地を管轄する地方公共団体に譲与することとしている。

出土品の保存・活用は、各地方公共団体が、その管轄する区域内において発見された出土品の譲与を受け、その責任において行うことが最も適切であるので、各都道府県教育委員会においては、この趣旨に沿い、法第６４条第３項の規定による譲与の申請手続きを進めるよう、管下の市町村教育委員会に対する指導を含め、配慮されたい。

地方公共団体への譲与について、当該出土品の発見者等が法第６３条第１項の規定による報奨金の支給を受ける権利及び法第６４条第１項の規定による譲与を受ける権利を主張していない場合に限ったのは、発見者等との間の無用の混乱を避けるためである。したがって、地方公共団体が出土品の譲与を受けようとする場合は、あらかじめ当該出土品の発見者等と連絡をとり、その了承を得ておくことが必要である。

また、工事等に伴う発掘調査その他の場合で、発見者等が企業、個人、法人格を有しない遺跡調査会等出土品の保存・活用を行うに適さないと考えられる者である場合には、調査に関する法第５７条第１項の規定による届出又は工事の事業者との間の発掘調査に係る委託契約の段階で、出土品について、発見者等としての権利を放棄する旨を確認する等、前記の取扱いを円滑にする措置について配慮することが望ましい。

（２）発見者等への譲与

上記（１）による国保有又は法第６４条第３項の規定による地方公共団体への譲与を行うことができない場合については、法第６４条第１項の規定により発見者等に譲与することとなる。

なお、地方公共団体以外の組織が行った発掘調査による出土品について、当該組織が自ら譲与を受けることを希望する場合は、当該組織が法人格を有する場合に限り、出土地を管轄する地方公共団体が譲与を受けた上で、適切な保存・活用が確保されることを確認の上当該組織に貸与又は再譲与を行う等の措置を執ることとし、その後の保管・管理等についても当該地方公共団体の教育委員会が指導等を行うことが適切であると考えられるので、この趣旨に沿って指導されたい。

（３）譲与の手続

法第６４条第１項又は第３項の規定による出土品の譲与は、別紙様式１の「出土品譲与申請書」の提出に基づき行うこととしているので、譲与を希望する者に対し、手続きについての指導等に配慮されたい。

8　国が保有している出土品の貸付け（「指針」８関係）

国が保有している出土品については、従来から、その出土地等の適切な施設において保管・展示等を行うため、貸付けを行ってきたところであるが、今後も、地方公共団体、博物館、歴史民俗博物館、大学その他当該出土品の保存・活用を行うに適した者から借り受けたい旨の申し出があった場合は、次の事項を確認した上、物品の無償貸付及び譲与等に関する法律（昭和２２年法律第２２９号）の定めるところにより、当該出土品を貸付けることとしている。

①借受けの目的が当該出土品の保存・活用にとって適切であること

②当該出土品の保管・展示等を適切に行うための施設・設備が整備されていること

③貸付け期間中、当該出土品が適切な知識・技能を有する者により取り扱われること

貸付けは、別紙様式２の「物品（国保有出土品）借受け申請書」の提出に基づき行うこととしているので、各都道府県教育委員会においては、借受けを希望する者等に対し、その手続き及び当該出土品の貸付け期間中の取扱い等についての指導に配慮されたい。

（別紙）

出土品の取扱いに関する指針

平成９年８月１３日
文化庁長官裁定

（出土品の取扱いの基本方針）

1　出土品の取扱いについては、次の基本方針に従い、適切に措置するものとする。

（ア）出土品については、一定の基準に基づき、将来にわたり文化財として保存を要し、活用の可能性のあるものとそれ以外のものとに区分し、その区分に応じて取扱うこと。

（イ）保存・活用の必要性・可能性があるとされた出土品については、その文化財としての重要性、活用の状況等に応じて、適切な方法で保管・管理を行うこと。

（ウ）出土品の活用については、広範な方途により積極的に行うこと。

（エ）文化財保護法（昭和２５年法律第２１４号。以下「法」という。）第６３条第１項の規定により国庫に帰属した出土品は、法第６４条の規定により、出土品の保存のため又は効用からみて国において保存・活用を行う必要がある場合は国が保有し、それ以外の場合は地方公共団体等に譲与すること。

（オ）国が保有した出土品については、その活用のために必要があるときは、地方公共団体等に対して貸し付けることができること。

（保存・活用の必要性・可能性のある出土品等の区分）

2　将来にわたり保存・活用の必要性・可能性のある出土品とそれ以外のものとの区分は、その種類、性格その他の要素を勘案して各都道府県教育委員会が定める基準に基づき、行うものとする。

（出土品の保管・管理等）

3　出土品のうち前項の規定により将来にわたり保存・活用の必要性・可能性があるとされたものについては、その種類、性格、活用の状況等を総合的に勘案して、文化財としての価値が高く活用の機会が多いもの、文化財としての価値・活用の可能性が比較的低いもの等に区分し、それぞれの区分に応じた適切な方法により、適切な施設において保管し、管理するものとする。

保存・活用の必要性・可能性がないとされた出土品については、廃棄その他の措置を執ることができるものとする。

（出土品の活用）

4　出土品の活用については、博物館における展示・公開等のほか、学校教育における教材としての利用、住民に身近な施設における展示、研究活動における学術的な資料としての利用等、広範な方途により積極的に行うものとする。

（国で保有する出土品の選択基準）

5　国庫に帰属した出土品のうち、次のいずれかに該当し、製作技術に優れ、類例に乏しく代表的であり、学術上又は芸術上極めて価値の高いものは、国が保有するものとする。

（ア）石器、骨角器等旧石器時代に属するもの

（イ）土器、土製品、石器、骨角器等縄文時代に属するもの

（ウ）土器、青銅器、鉄器、石器、木製品等弥生時代に属するもの

（エ）鏡、武器、武具、馬具、装飾品、埴輪、石製品、土器等古墳時代に属するもの

（オ）瓦、貨幣、印章、仏像、経筒、骨壷、墓誌、陶磁器、木簡等歴史時代に属するもの

（譲与）

6　出土品のうち前項に該当し国が保有したもの以外のもので、その発見者又は発見された土地の所有者（以下「発見者等」という。）が当該出土文化財に係る法第６３条第１項の規定による報奨金の支給又は法第６４条第１項の規定による譲与を受ける権利を主張していないものは、法第６４条第３項の規定により、その出土地を管轄する地方公共団体に対し、その申請に基づき、譲与するものとする。

7　出土品のうち前２項に規定する取扱いにより国が保有し、又は地方公共団体に譲与したもの以外のものは、法第６４条第１項の規定により発見者等に譲与するものとする。

（国が保有した出土品の貸付け）

8　国が保有した出土品について、地方公共団体、博物館、歴史民俗資料館、大学その他当該出土品の保存・活用を行うに適した者から貸付けを受けたい旨の申出があった場合は、次の事項を確認した上、物品の無償貸付及び譲与に関する法律（昭和２２年法律第２２９号）の定めるところにより、当該出土品を無償で貸し付けることができるものとする。

（ア）貸付けを受ける目的が当該出土品の保存・活用にとって適切であること

（イ）当該出土品の保管・展示等を適切に行うための施設・設備が整備されていること

（ウ）貸付けの期間中、当該出土品が、適切な知識・技能を有する者により取り扱われること

（附則）

9　出土文化財取扱要領（昭和５５年２月２１日文化庁長官裁定）は、廃止する。

（別紙様式１）

出　土　品　譲　与　申　請　書

平成　　年　　月　　日

文　化　庁　長　官　殿

〔法第６４条第３項による譲与の場合〕
都道府県教育委員会・市町村教育委員会教育長名
〔法第６４条第１項による譲与の場合〕
発見者
発見地所有者

文化財保護法第６４条（第３項・第１項）の規定により、下記１の出土品を下記２によって譲与を受けたいので申請します。

記

1　譲与申請出土品

（１）品名・数量

（２）発見の場所・遺跡名・発見の年月日

（３）発見者の氏名・住所

（４）発見された土地の所有者の氏名・住所

（５）文化財として認定された年月日

2　譲与申請の理由・譲与後の取扱い

（１）譲与申請の理由

（２）譲与後に保管する場所・施設及び保管方法

（３）保管責任者となる者の氏名・役職・連絡先

（４）その他参考となるべき事項

※添付書類等

①文化財保護法第６０条による警察署長の提出書の写

②発見の場所、発見の状況の概要を示す資料

③文化財保護法第６４条第３項の規定による譲与の申請の場合は、発見者等が地方公共団体に対する譲与を了承していることを証する書面

④文化財保護法第６４条第１項の規定による譲与の申請の場合で、発見者等が保存・活用のための施設等を有しないときは、譲与後にそれらの施設等を有する者に寄託する等により適切な保存・活用が確保されるものであることを証する書面（別添様式参照）

（別紙様式）

出土品の保存・活用についての了解書

平成　年　月　日

発見者　○○○○

発見地の土地所有者　○○○○

譲与後当該出土品の寄託等を受けて保存・活用する者　○○○○

下記１の出土品を下記２の通り〔　　〕に〔寄託・譲与・譲渡〕し、保存・活用を行うことを了解します。

記

1　出土品の名称等

（１）出土品の名称

（２）発見地

（３）発見年月日

2　保存・活用の方法

（１）寄託等を受けて保存・活用を行う者の氏名・住所〔機関の名称・代表者名・所在地〕

（２）保存・活用を行う施設の名称・所在地・規模・構造の概要

（３）保存・活用の方法等の概要

（別紙様式２）

物品（国保有出土品）借受け申請書

平成　年　月　日

文化庁長官殿

借受け申請者

氏名（又は機関の名称及び代表者）

住所（又は機関の所在地）

下記の通り、物品（国保有出土品）を借り受けたいので、申請します。

記

1　借受けの申請物件

（１）品名・数量

（２）発見地・遺跡名

2　借受けの申請物件の使用計画

（１）使用（保管・展示等）の目的

（２）使用（保管・展示等）計画

（３）借受け希望期間（展示を行う場合は、その期間を付記すること。）

（４）使用（保管・展示等）場所の名称・所在地

（５）使用（保管・展示等）を行う建物その他の施設・設備の概要

（６）借受け品を取り扱う専門技術者の氏名・経歴

（７）借受け品の輸送方法

※添付資料等

①保管・展示を行う建物その他の施設・設備の概要及び図面

②防災施設等の概要及び図面

③消防法令に適合していることを証する消防署の意見書

④その他参考資料

3．県、市町村別の発掘調査件数および面積の実績

（昭和45～63年分は『三重県埋蔵文化財センター年報４』参照）

		県埋蔵文化財センター担当							斎宮歴史博物館担当	市町村担当								合計
		県農林水産部関係	県土木部関係	県他部局関係	建設省関係	道路公団関係	他省関係	小計		土地改良等	道路・河川等	ゴルフ場	団地・個人住宅	工場造成地	土取り等	その他	小計	
平成元年度	件数	106	3	0	10	9	0	128	21	3	12	1	13	4	3	15	51	200
	面積	43,445	6,234	0	34,780	40,408	0	124,867	11,471	1,800	15,900	300	30,500	6,800	3,400	16,200	74,900	211,238
平成2年度	件数	61	15	2	7	10	0	95	11	9	9	2	20	10	5	13	68	174
	面積	43,765	8,696	648	31,372	18,790	0	103,271	5,697	16,900	19,700	3,500	27,900	15,400	8,000	17,300	108,700	217,668
平成3年度	件数	67	30	1	10	2	0	110	8	9	14	2	40	13	0	14	92	210
	面積	39,412	7,388	8	15,428	3,052	0	65,288	5,534	13,700	10,100	10,200	51,800	12,400	0	9,800	108,000	178,822
平成4年度	件数	50	29	0	15	0	0	94	9	6	13	4	38	17	3	28	109	212
	面積	29,210	9,864	0	17,485	0	0	56,559	3,954	13,700	14,000	15,600	15,400	45,200	500	8,000	112,400	172,913
平成5年度	件数	63	33	2	18	0	0	116	13	15	12	0	29	7	3	35	101	230
	面積	26,178	10,507	1,436	21,384	0	0	59,505	4,760	15,200	13,300	0	20,000	22,000	200	20,000	90,700	154,965
平成6年度	件数	75	45	2	18	0	1	141	9	10	14	0	31	3	8	37	103	253
	面積	32,256	11,475	2,000	31,178	0	816	77,725	3,770	24,347	8,651	0	13,788	830	440	20,511	68,567	150,062
平成7年度	件数	69	47	13	17	0	2	148	5	9	15	0	29	6	4	43	106	259
	面積	29,221	12,369	8,249	37,783	0	2,000	89,622	3,425	18,191	10,717	0	5,252	2,947	1,001	18,457	56,565	149,612
平成8年度	件数	67	70	25	19	1	0	182	10	10	23	0	157	3	6	40	239	431
	面積	15,293	19,252	18,176	30,054	160	0	82,935	3,986	21,293	6,769	0	43,038	842	1,325	19,324	92,591	179,512
平成9年度	件数	37	81	8	6	6	2	140	11	24	31	0	81	2	9	72	219	370
	面積	21,709	34,383	6,193	18,601	2,637	3,345	86,868	4,155	34,484	34,810	0	11,157	124	322	13,396	94,293	185,316

※同一遺跡を調査した場合でも、調査期間・原因が異なる場合は別件とした。（立会調査・試掘調査・工事立会を含む）

〔付１〕平成９年度　三重県文化財調査員名簿

地区	氏名	勤務地	住所	専門
北勢	山崎　恒哉	桑名北高校		埋蔵文化財
	松本　覚	藤原中学校		埋蔵文化財
	鎌田　雅生	三重平中学校		埋蔵文化財
	吉田　利弘	白子小学校		埋蔵文化財
	岩脇　彰	白川学校		埋蔵文化財
	川添　護	杉の子擁護学校		天然記念物
	桐生　定己	山手中学校		天然記念物
	嶋村　明彦			建造物
	赤川　一博			彫刻等
中勢	服部　久士	津東高校		埋蔵文化財
	江尻　健	成美小学校		埋蔵文化財
	三浦　儀直	天白小学校		埋蔵文化財
	紀平　みどり	一身田小学校		埋蔵文化財
	下村　純也	嬉野中学校		天然記念物
	加藤　修治			建造物
	園田　純子			彫刻等
松阪	榎本　義譲			埋蔵文化財
	斎藤　実	射和小学校		埋蔵文化財
	増田　安生	明和中学校		埋蔵文化財
	奥　義次	度会高校		埋蔵文化財
	石川　隆郎	明和中学校		埋蔵文化財
	三井　博之			天然記念物
	瀧川　和也			彫刻等
	加藤　修治			建造物
南勢・志摩	越賀　弘幸	五ヶ所中学校		埋蔵文化財
	大西　素行	答志中学校		埋蔵文化財
	北畠　充生	玉城中学校		埋蔵文化財
	中世古　一芳	宿田曽小学校		埋蔵文化財
	村上　喜雄	弘道小学校		埋蔵文化財
	角谷　泰弘	北浜中学校		埋蔵文化財
	伊藤　千鶴	皇学館高校		天然記念物
	岡　與一			天然記念物
	松月　久和	伊勢工業高校		建造物
	瀧川　和也			彫刻等
上野	市田　進一			埋蔵文化財
	山岡　裕	東小学校		埋蔵文化財
	寺岡　光三			埋蔵文化財
	森前　稔	名張中学校		埋蔵文化財
	久保　勝正	上野商業高校		埋蔵文化財
	谷戸　実	赤目小学校		埋蔵文化財
	松月　茂明			天然記念物
	杉澤　学	美旗小学校		天然記念物
	中内　康雄			建造物
	赤川　一博			彫刻等
尾鷲	東　成志	赤羽中学校		埋蔵文化財
	山本　和彦	長島高校		天然記念物
	田崎　通雅			建造物・彫刻等
熊野	福村　直人	明和小学校		埋蔵文化財
	花尻　薫			天然記念物
	岩本　直樹			建造物・彫刻等

平成９年度

三重県埋蔵文化財年報

１９９８・５

編集
発行　三重県埋蔵文化財センター

印刷　光出版印刷株式会社